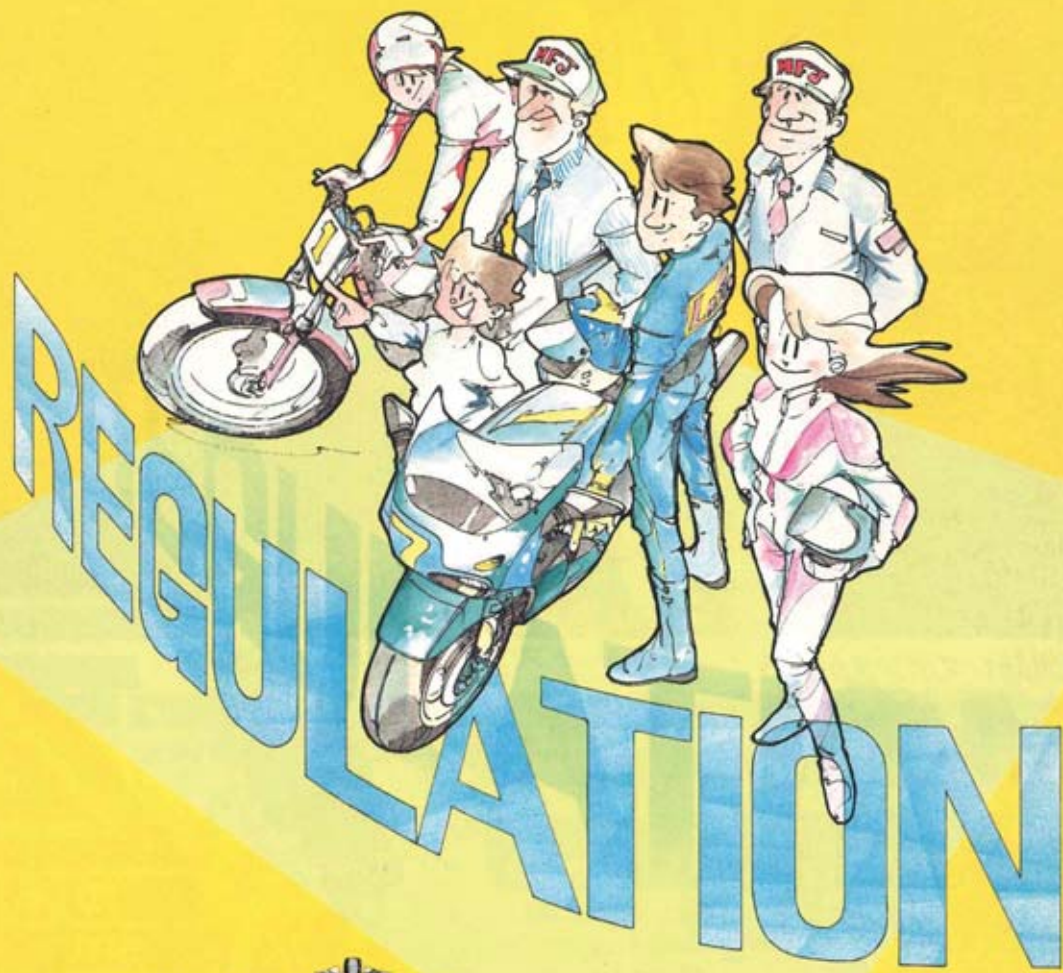


臨時増刊

MFJ 国内競技規則

1988年版



日本モーターサイクル協会



Friendly Technology
to You All

ヴェイヴェイツドレスポンス

加速レスポンスが違う!

高性能プラグ

プラチナ特殊合金
中心電極

プラチナ特殊合金の超極細中心電極(0.7φ)使用により、飛火性を向上。接合部はレーザー3点溶接により、すぐれた信頼性を発揮します。

テーバーカット
接地電極

従来のU溝カットをさらに極めたテーバーカット接地電極の採用により、消炎作用を低減させ、着火性を向上。絶妙の加速レスポンスと高出力を実現しました。



ZU

DENSO
SPARK PLUGS

日本電装株式会社
〒448 愛知県刈谷市昭和町1-1 TEL 0566)22-3311

何も見えない。
何も聞かない。
第六感だけが研ぎ澄まされてゆく。



焦燥、希望、孤独、そして闘志……。人間の五感を超越したコンセントレーション。グシャグシャになった感情の中で、レーサーたちは最大のライバル「自分」と必死に闘う。たったひとつの栄光を手に入れるために。サーキットで生まれ、サーキットで磨かれたテクノロジーを果敢に受け継ぐBATTLEAX-S。ブリヂストンは、この最強シリーズに2つの世界を用意した。レーシングタイヤ直系のBT-09S、BT-10S。スポーツプロダクションでも十分に勝利を狙える、ドライタイプのマニアックタイヤ。そして、トレッド3分割構造サクトを採用した、オールラウンドタイプのBT-17S_F/BT-17S_R。高速安定性とハイグリップ特性を実現して、日・欧同時発売だ。レーシング・スピリットに変えられたBATTLEAX。またしても、ブリヂストンがモータースポーツを挑発する。

レーシング・パフォーマンスを秘めたロードギア

BATTLEAX-S

from BRIDGESTONE MOTORSPORT

● DRYで威力を発揮

BT-09S BT-10S



● ALL ROUNDでマッチング

BT-17S_F BT-17S_R



NEW

サクト
SACT構造採用



- 特許出願中
- 2種類のコンパウンドからなるトレッド3分割構造をフロント、リアに採用

高速安定性とハイグリップを両立

Racing BATTLEAX
MOTORCYCLE ROAD RACE TIRES

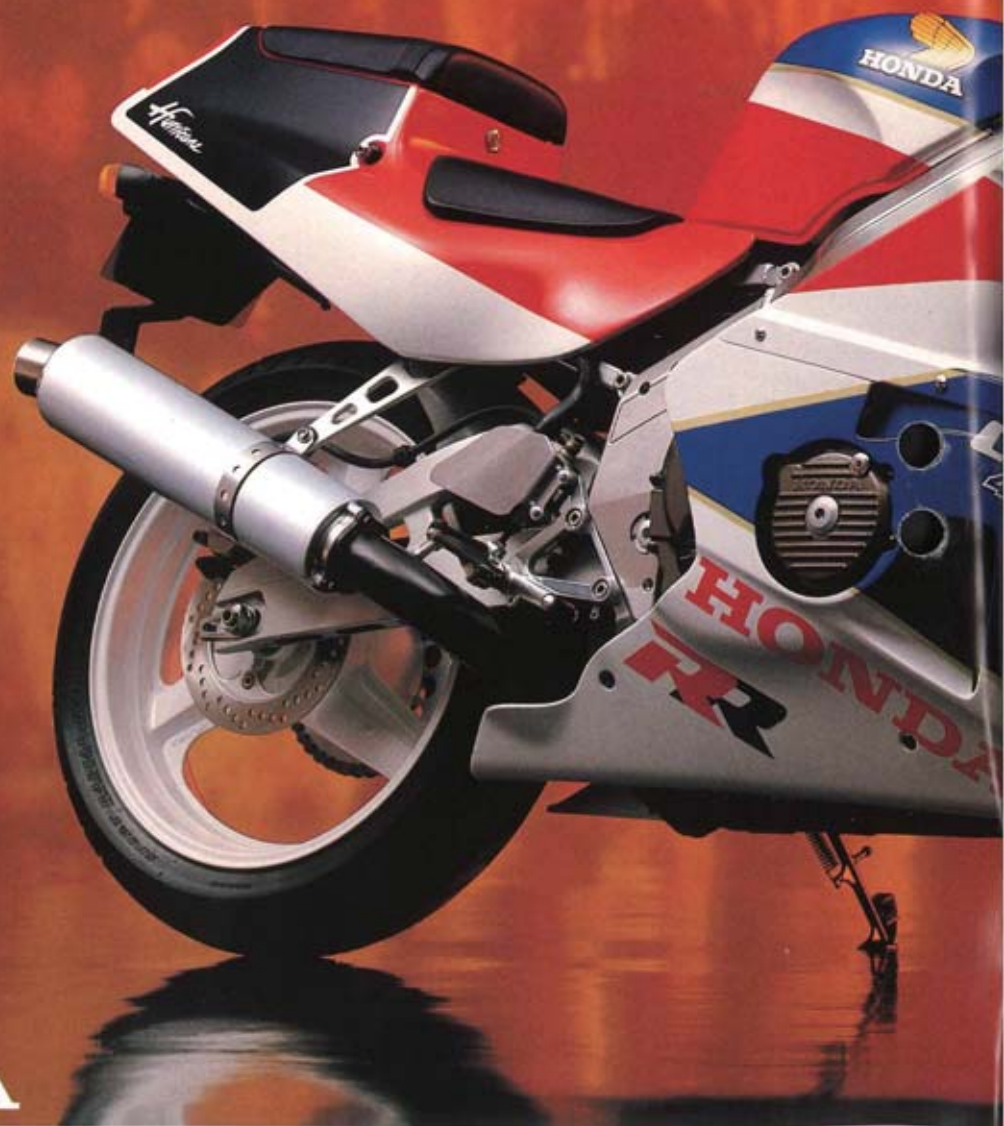
DRY SLICK WET ME 71 WET ME 72



※本タイヤは40-40-17レーシング専用タイヤです。一般公道では、走行出来ません。

DIIRECTO

直4・ストリートシーンを支配する



HONDA

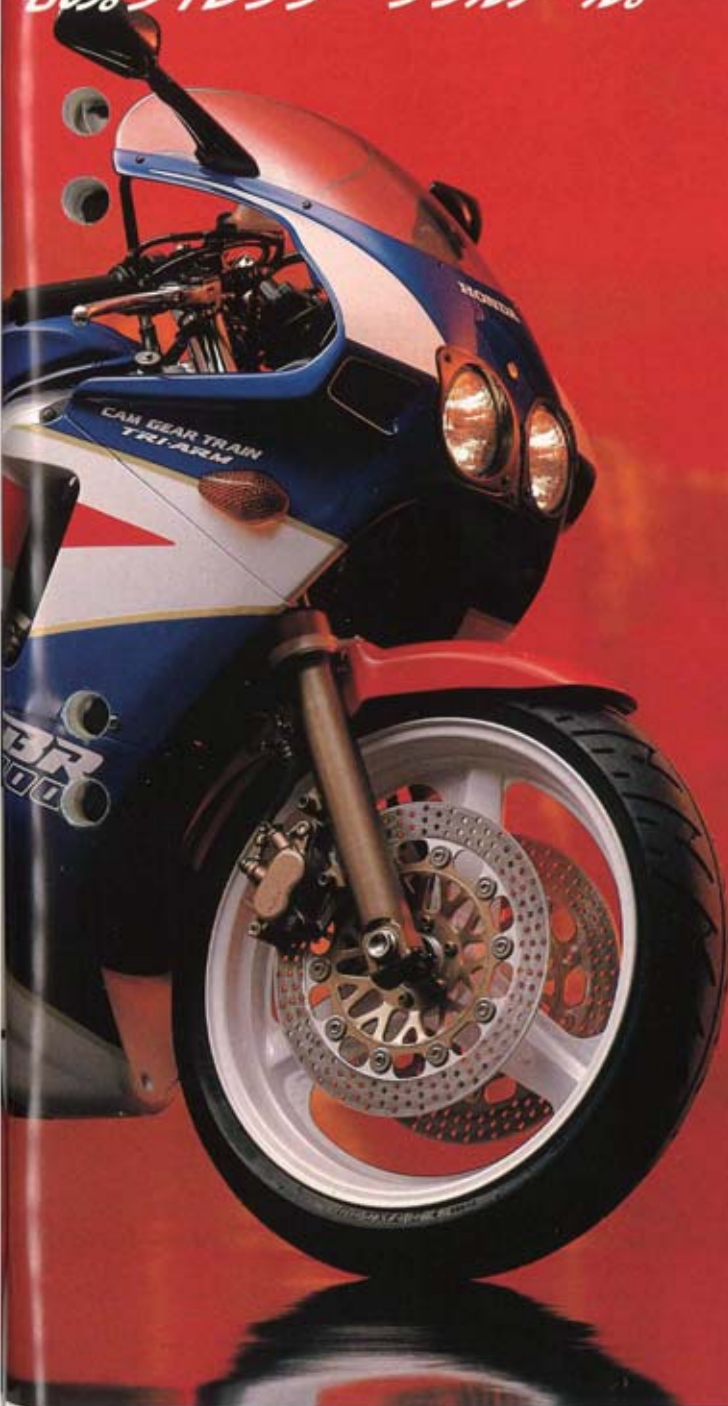
HELLO! GOOD RIDER

ナイスな走り。ナイスなマナー。

- ヘルメットを正しくかぶりましょう。●点検整備を忘れずに。●安全のため改造はやめましょう。
- 心にゆとりのもてるスピードで走りましょう。●カーブではスピードをひかえめに。
- 追越しは余裕をもって。●自分を目立たせるため、早朝・夕方の「ヘッドライト早め点灯」を。

RRRR

もの。ダイレクター・ダブルアール。



すべてにダイレクト、 感性にリアル・レスポンス。

このスーパーでホットなフォームを見て欲しい。
“直4”時代の新たな幕あけを告げるマシンが
ホンダから登場した。これまで受け継がれ、熟成
を重ねてきた自信の方式、水冷直列4気筒カム
ギヤトレンDOHCに、今回さらに直動式バル
ブ駆動を組み合わせ、新世代のインライン・フォ
アと呼ぶにふさわしいマシンとしてリメイクされた
のだ。ダイレクトにライダーの感性を直撃する、
異次元感覚のスロットルレスポンス。ライダーと
感応しあう“人車一体”を追求したエアロダイナ
ミクスフォームと高剛性アルミフレーム。そして新
開発・トライアーム。さらには、細部に渡って徹底
された、耐久レーサーを彷彿とさせる実戦的な
装備の数々。ダイレクターダブルアール。すべてにダ
イレクト、感性にリアルレスポンス。直4マシンの新
しい可能性を追い求めて、ついにここへ到達した。

●人車一体を追求した6ピースフェアリングのエアロダイナミクス
フォーム ●100mm径(60/35W×2)のデュアルハロゲンヘッド
ライト ●アルミ鍛造のステップ同軸ペダル ●耐久性とグリップ性
能を高次元でマッチングさせた前後ラジアルタイヤ(F:120/60R17
55H, R:150/60R18 67H)標準装備 ●フロントフォークには
41mm径の高剛性インナーチューブを採用

主要諸元 ●型式NC23 ●エンジン:水冷4サイクルDOHC4バルブ4気筒・
399cm³ ●最高出力59PS/12,500rpm ●最大トルク4.0kg-m/10,000
rpm ●6段リターン変速 ●前輪:油圧式ダブルディスクブレーキ ●後輪:油圧
式ディスクブレーキ ●車両重量179kg ●乾燥重量162kg ●車体色:
セラブルー/ファイティングレッド、グラニットブルー/メタリック

■標準現金価格(北海道、沖縄および一部離島を除く) ¥699,000
※価格には保険料・税金・登録などに伴う諸費用は含まれていません。

新 登 場



■マナーは心のルールです。大切にしましょう。
道を譲られた時には、“ありがとう”の合図を忘れずに。
ちょっとした心づかいが、気持ちのよい走りをつくります。

■セーフティ・ライドを楽しむために——。
制動停止距離は速度の2乗に比例して長くなります。スピード
に応じたブレーキング・テクニックを、しっかり身につけましょう。

今年も多くのライダーを呼びびびろっ!



Randy Mamola
Team LUCKYSTRIKE AGOSTINI



Eddie Lawson
Team Marlboro AGOSI



Tadahiko Taira
Team Marlboro AGOSTINI

HAVE A NICE RIDE! ナイスライディングをよろしく。 ■ヘルメットを正しくかぶりましょう。 ■点検・整備を忘れず。 ■安全のため改造はやめましょう。 ■騒音防止のため不必要なからぶかしはつしませぬ。

●安全速度で走りましょう。無理な追い越しはやめましょう。 ●カーブではスピードをひかえめに。 ●よく見る、よく見られることに努めましょう。 ●早朝・夕暮れは早めにヘッドライトの点灯を。 ●競技用に改造した車両での公道走行はできません。 ●YRSで正しいライディングテクニックをマスターしましょう。

カクログご希望の方は機種名・雑誌名を明記のうえ、郵便切手170円を添えて、〒438 静岡県静岡市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室重伝課まで。

WE'RE THE CHAMP.

'87ロードレース世界選手権GP500クラス メーカーチャンピオン獲得

ロードレース世界選手権GP500ccクラス。
ヤマハがこのシリーズに参戦を開始したのは、1973年のことでした。
日本のメーカーとしても初のチャレンジだったのです。
以来、数々の名勝負や名ライダーによって、
GPシーンにYAMAHAの6文字は刻みつけられてきました。
1987年、今年もヤマハファクトリーレーサーYZR500は、
その熟成したポテンシャルをいかんなく発揮して、
メーカータイトルを獲得することができました。
しかしGPレーサーで頂点を極めること、
それ自体はヤマハの目的ではないのです。
GPで得たものが、皆さんにお届けするマシンに映されて、
初めてそれは結果と呼ぶことができます。
確かな経験が創り出す高度なテクノロジーや信頼感は、
常に市販車へとフィードバックされ続けます。
TZRやFZRシリーズにGPを感じる。
そんなマシン創りをヤマハはめざしているのです。



TZR250

- 2ストローク水冷クランク室リードバルブ2気筒・249cc
- 最高出力:45ps/9,500rpm ●乾燥重量:126kg
- 標準現金価格¥549,000



TZR125

- 2ストローク水冷クランク室リードバルブ単気筒・124cc
- 最高出力:22ps/10,000rpm ●乾燥重量:104kg
- 標準現金価格¥310,000

●標準現金価格(北海道、沖縄および一部離島を除く)には保険料、税金、登録などに伴う費用等は含まれていません。

55mphポスター・カレンダーの'88年版ができました。

55mphに'88年版のポスター・カレンダーが仲間入りしました。A全サイズのビッグな8枚組。日付がステッカータイプですから、そのままポスターとしても楽しむことができます。

●ご希望の方はVSP店で手にするが、切手が定額小為替1400円分(郵送料込み)を同封し、右記へ、あて先 〒438 静岡県磐田市新貝2500ヤマハ発動機株広福室定価55mph係(1月下旬より発送します。数に限りがありますのでお早めにご注文。)



モーターサイクルは「楽しみを味わいながら目的地に到達することができる乗物」だ
と思う。それをライダーに与えることがモ
ーターサイクルの使命であると考えたとき、
すべてにおいて余裕のある走りを実現する
ことが課題となってくる。私たちの新たな
思想COSMOLOGY(コスモロジー)は、
高度な技術に支えられたハイパフォーマンス
も、ライディングにゆとりをもたらすもの
でなくてはならないという視点に立つ。
たとえば「e-BOX」。ライダー諸兄の胸
にとどめておいていただきたい言葉であ
る。正確には「e-BOX アルミツイン
チューブフレーム」という名の新次元の
このメカニカルな骨格は、ゆとりのある走
りを実現するためにフレームの担う役割
がどれほど大きいかを再認識させてくれ
るものになるはずだ。マシンが自らの持つ
パフォーマンスをライダーに伝えるのも、
ライダーが自身のテクニックをマシンに
伝えるのもフレームを介してである。つまり
両方の運動性能は、フレームに大きく左
右されるということである。もちろん、マシ
ンは単なる機械ではなく、ライダーと意志
を通いあわせるものでなければならない。
つまり、フレームの性能向上なくしてはマ
シンとライダーの真の一体感は何れな

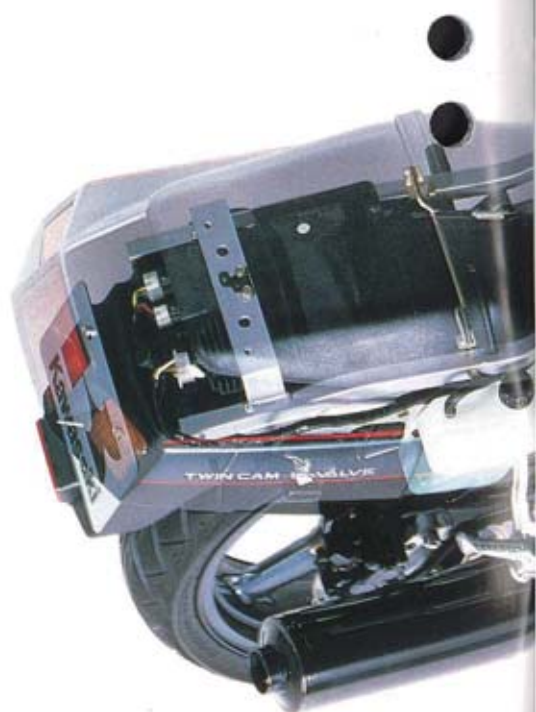
いということだ。
具体的にフレームは“走る”“曲がる”“止
まる”という基本性能に関して重要な意
味合いを持つ。マシンが安定して走行し
たり、確実にライダーの動きに応えるた
めには、ある程度ねじれにくい強さを必要と
する。これがフレーム剛性と呼ばれている
ものであるが、もしこのフレーム剛性が弱
いとコーナリングなどでふらつき、ライ

の専用設計 400cc を誕生させるにあ
たって、トータルバランスを向上させるた
めにまず優れた新フレームを開発しようと
試みたのも想像に難くないであろう。そし
てトライを繰返し、遂にでき上がったのが
「e-BOX」フレームなのである。
まず素材には当然のごとくアルミニウムを
採用。そのためGPZ400Rに比べ、フレ
ーム本体だけで 1.5kg の軽量化を突

e-BOX

ダーに不安感を与えることが多い。そして
ご承知のように、走行性能を高めるため
には軽量であることが基本となっており、
フレーム自体のウェイトをできるかぎり軽
量化することが絶対条件となる。「軽く、
強く、そしてしなやか」この相反する3つ
の条件すべてを高次元で融合させるフレ
ームがあってこそ、マシンに優れたドライ
バビリティが生まれるのだ。私たちが初

現した。基本構造は、エンジン自体をフ
レーム強度の一部に取り入れたダイヤ
モンドフレーム。ヘッドパイプからスイング
アームピボットシャフトまでストレートに結
ぶツインチューブ方式でさらに剛性を高
めている。メインパイプには 120mm×30
mmの縦長日ノ字断面の押出材、スイン
グアームも同様に縦長 80mm×35mmの
押出材を使用。また、ホイールベースに



COSMOS
TECHNOLOGY

COSMOLOGY

それはKawasaki独自の宇宙を先進のテクノロジーによって、
新次元に創造することを宣言するニューエイジコンセプト。

Kawasaki

カワサキオートバイ販売株式会社

ついても1,395mmとさらに短くなり、操縦性を向上させている。それからフレームの名称であるが、その由来は前傾25°の新設計ハイパワーユニットを抱くその形が、卵に、つまり“egg”に似ていることから「e-BOX」と呼ばれている。

さて、私たちの新しい400ccマシン、ZX-4。フレームの他にも、あらゆる新技術が投入されている。パワーユニットは、水冷DOHCインライン4のニューエンジン。25°の前傾レイアウトとサイドカムチェーンを設定したことにより、スリムでコンパクトなエンジンを実現するとともにマシンの低重心化も果たした。大容量8ℓのエアクリーナーと1φのフロントフォークインナーチューブ、大径300mmのフロントフローティングディスクブレーキ、そしてスリックタイヤ装着も可能なワイドリムなど、卓越した性能はF3レースにも充分に応えるポテンシャルを持つ。すべてにゆとり。だからこそ余裕のあるライディングが生まれるのだ。そのニューマシンがラインナップに加わった。自信を持ってお届けできるものに仕上げられたと自負している。

COSMOLOGY



ZX-4 NEW

- Engine type: Liquid-cooled, 4-stroke, 4-cylinder, DOHC, 16-valve ● Displacement: 398cc
- Max. power: 59ps/12,000rpm ● Max. torque: 3.9kg-m/10,000rpm ● L×W×H: 2,035mm×715mm×1,130mm ● Dry weight: 152kg
- Color: Ebony×Pearl cosmic gray (two-tone color), Pearl alpine white×Luminous polaris blue (two-tone color) ● 698,000yen
- 価格は北海道及び沖縄を除く標準現金価格です。● 価格には保険・税金・登録などに伴う諸費用は含まれていません。● 改良のための仕様及び諸元は予告なしに変更することがあります。

安全に走るための心がけ、ルールとマナー。

RIDE IN GOOD MANNERS.

● ヘルメットを正しくかぶりましょう。● 点検・整備を忘れずに。● 安全のための改造はやめましょう。● 安全速度で乗りましょう。● カーブではスピードをひかえめに。● 無理な追い越しはやめましょう。● 先方に確認し、確認されるよう努めましょう。● 早朝、夕方、夕方は早めにヘッドライトの点灯を。● いつもさわやかな服装で乗りましょう。

- カワサキオートバイのお求めは、お近くのカワサキ特約店へ。お近くの特約店がおわかりにならない場合は、各販売会社・営業所へお問い合わせください。
- カワサキ純正部品は、カワサキ特約店で求めください。カワサキではカワサキ特約店と提携したスピーディ純正部品配送体制を展開しています。
- カワサキ各店の方は、必ず車種名と諸元名を明記し、10円切手を同封の上、〒733 明石市田崎町1-1 カワサキオートバイ販売株式会社のカワサキ部までお送りください。

BREAK FREE '88 THE POT

優れたマシンは、新たなるヒー

GSX-R750、4冠達成！ 世界耐久選手権(メーカー・ライダー)・AMA
世界選手権TT F-1(メーカー)・全日本選

みんなが走る道だから。SAFE & JOYFUL ●ヘルメットを正しくかぶりましょう。●点検、整備を忘れずに。●安全のため改造はやめましょう。

●安全速度で走りましょう。●一時停止は正確に。●車間距離は余裕をもって。●カーブではスピードをひかえめに。●合図は早めに行いましょう。●早朝・夕暮れは早めにライトの点灯を。●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名を記し、切手170円分を同封のうえ、〒432-91浜松市外高塚 鈴木自動車工業株式会社インフォメーションセンターへ。

1987年の全日本選手権TT F-1クラスは最終戦まで激戦が続いた結果、ヨシムラ・SUZUKI GSX-R750(F-1)の大島行弥選手の
頭上にチャンピオンの栄光が輝いた。これでGSX-R750(F-1)は全日本3連覇の偉業を成し遂げたことになる。ウイングマシンとなった
GSX-R750(レース仕様車)は、世界耐久選手権・AMAスーパーバイクシリーズ・世界選手権TT F-1に続く4冠目。マシンの卓越した
性能が若きヒーローの持つパワーを余すところなく燃焼させ、チャンピオンの座に押し上げたのである。1988年のスズキのテーマはBREAK
FREE THE POTENTIAL。ライダーの持つポテンシャルを無理なく、最大限に発揮できるモーターサイクルづくりをめざすスズキの
決意を表わしている。新しい年のモーターサイクルシーンを彩るスズキのニューマシンたちは間もなく眠りから醒める。新しいエンジン、
斬新なフォルム、画期的なメカニズムを身につけて、自分の持つ可能性を100%発揮する快感をライダーに味わってもらえるハードウェアが
そこにある。コーナーに挑むもよし、風と載れるもよし。ライダーひとりひとりの感覚でスズキのモーターサイクルを駆って、自らのポテン
シャルを存分に解き放ってほしい。BREAK FREE THE POTENTIALは、スズキからライダーへの熱いメッセージである。

B SUZUKI TENTIAL

ローを生み出す原動力となる。

スーパーバイクシリーズ(メーカー)
選手権TT F-1チャンピオン



HYPHER ENDURANCER
GSX-R750

もっと個性的に、もっとあなたらしく
Personal Best  **SUZUKI**



GRV

¥32,000

カーボンファイバー採用3素材複合積層構造のレース仕様。
●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック、スターメタリック ●カーボン&ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



通商産業省認定
プロトタイプ商品



GRV-Gardner ¥38,000

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース×レッド&ブルー ●カーボン&ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



GRV-Lawson ¥38,000

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:レッドベース×ホワイト ●カーボン&ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV-GLOW ¥35,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト×レッド、ホワイト×ブルー ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV-DEGREE ¥35,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト×レッド、ファイヤーレッド×ブラック、ディープシルバー×ブラック ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV-VESTA ¥35,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース、ブラックベース、ディープシルバーベース ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV-VOGUE ¥35,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース×レッド、ホワイトベース×ブルー、ブラックベース×レッド ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV-TASK FIVE ¥34,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース、ファイヤーレッドベース ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RF-TRITONE ¥36,000

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RFV ¥29,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック、スターメタリック ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



GX-2 FAVOR ¥36,000

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース、ファイヤーレッドベース、ディープシルバーベース ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

GX-2 ¥32,000

●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック



GX-1 ¥35,000

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



Z-100V ¥39,500

●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイトベース、ファイヤーレッド、ブラック、シルバー ●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

For better concentration.



TOKYO
LOS ANGELES
ANTWERP

昭和化工株式会社
本社 東京都港区新橋2-9-2 錦ビル105号 03)502-0301
大阪支店 06)451-6060 九州支店 092)441-7048
仙台営業所 022)246-0155 名古屋営業所 062)703-3171

SHOEIのヘルメットのサイズは4サイズです(一部除く)。下記の数字を目安に、ジャストフィットのものをお選びください。
S(55~56cm)、M(57~58cm)、L(59~60cm)、XL(61~62cm)

- ヘルメットのおこひもはしっかり締めましょう。カラリング時にはシンナーが内装を傷まないように、マスキングしてください。
- また乾燥のため50°C以上の熱を必要とする塗料はさけてください。
- 安全確保のため、改造はしないでください。特に、内装のライナー(発泡スチロール)をたいたたり、けずったりすることは絶対にしないでください。
- カタログご希望の方は郵便切手170円を添えて、本社までお送りください。
- 部品、修理、その他ご要望、ご質問等は最寄りの営業所サービス課までお問合せください。
- 商品は改良のため、予告なく仕様変更することがありますのでご了承ください。

ファクトリーレーサーからプライベートレーサーまで、
ジャンルを超え、極限の走りに応える
ショウエイMFJ公認ヘルメット。

MOTOCROSS

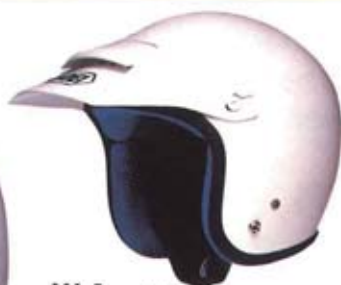


VJ-201

¥24,000

内装が取りはずして洗えるモトクロスレース仕様。

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブルー●ファイバーグラス構造



VJ-1 ¥18,000

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック●ファイバーグラス構造



VX-2 ¥31,000

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、イエロー、ブルー、グリーン●ファイバーグラス構造

ON/OFF ROAD

TRIAL



TR-2P

¥19,500

エアロバイザー装着のトライアル仕様ヘルメット。

●JIS規格B種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド●ファイバーグラス構造



RJ-101 ¥18,000

●スネル規格M85、JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック、シルバー●ファイバーグラス構造



TJ-201V ¥24,000

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック、ディープシルバー●ファイバーグラス構造



VT-1R ¥22,500

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイトベース、ファイヤーレッドベース、イエローベース、グリーンベース●ファイバーグラス構造



SR-X7 ¥12,500

●JIS規格C種(MFJ公認)●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック、シルバー●サイズ:4種体4サイズ(S, M, L, XL)●ファイバーグラス構造

HRC

HRCクラブ

HRCは考えています。もっと、コミュニケーションしたい。もっと、みなさんと仲よくしたい。

そして、ここにHRC クラブを発足いたしました。

HRCと、HRCサービスショップと、みなさん。この3つが、より密に関わっていく……、

人と人との、そしてマシンとのきずなを、よりチューンナップする……、そのためのHRC クラブです。
技術のサービス、情報のサービス、イベントサービスなどなど、数々のコミュニケーション手段を用意して、
きずなのクオリティを高めてゆく。いわば、ソフトのワークス サポート。

最初は小さな一歩かも知れませんが、すこしずつ、確実に、確実に……。HRC クラブに御期待ください。

1. 技術サービス

技術サービスなら、おまかせください。細かなセッティング・ノウハウや改良など、何でもおたずねください。サーキットでのサービス、技術講習会や走行会などを通じて、技術をサポートします。



2. 情報サービス

セッティング、改良、ノウハウなどの技術情報、サービスショップの紹介、クラブ員相互の売りたい買いたいやチーム員募集などの情報、新製品などなど、みなさんの立場に立った情報を提供します。



3. イベントサービス

イベントも数多く用意します。基礎体力を作る体カトレーニングスクールやHRCクラブ走行会を通じて、ライダーの向上と親睦を計ります。



(体カトレーニング)

HRC クラブメンバー

88モデルのお客様カードを返償してください。全員が自動的に登録されます。第1回の新車引き渡し講習会がクラブ発足となります。



88モデルのユーザーカードを書く。



ユーザーカードをHRCに返償。



HRC クラブに入会。

- レース・スケジュールとマシン・メンテナンスのスケジュールをしっかり立てましょう。
- レーシングパーツは最寄りのサービスショップで購入しましょう。
- 消耗品は計画的に購入計画を立てましょう。
- テクニカルノート必ずつけましょう。これがあなたのレース記録になります。
- ラップチャート(周回記録)をつけましょう。同時に距離管理にもなります。
- マシン・セッティング記録をつけましょう。経歴を知ることが、次のチューンナップの元になります。

21世紀に夢を求めて

HRC

本田レーシング

〒252 埼玉県新屋野村大正8-18-4

本社 営業サービス課 電話 TEL: 0484-77-9538

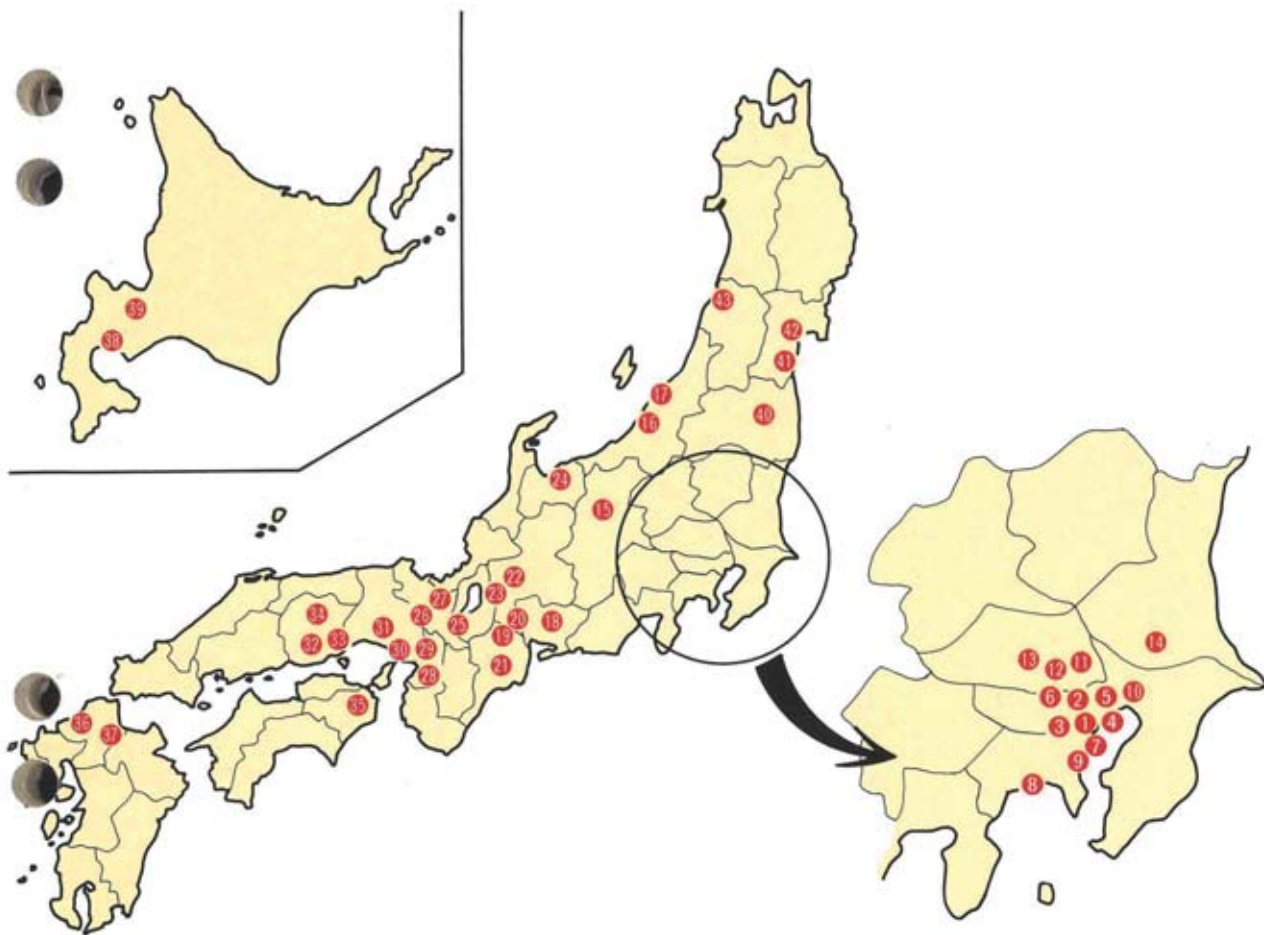
FAX: 0484-78-7531

HRCサービスショップ リスト

レーシングマシンのセッティングやメンテナンス、パーツが欲しい...etc.

レースに関することなら、なんでもHRCサービスショップにお気軽にご相談ください。

現在、全国に43店舗。いずれもレース経験豊富なお店です。



●=ロード ○=モトバイク

TEL FAX

No.	主要店	ショップ名	〒	住所	TEL	FAX	No.	主要店	ショップ名	〒	住所	TEL	FAX
1	●	熊ホールポジション	206	東京都多摩市貝取607-3	0423-75-3083	0423-71-4784	23	●	ノースウィングJ-C	502	岐阜県岐阜市上土屋1-6-1	0582-94-4481	
2	●	オートショップスガハラ南	114	東京都北区王子3-20-2	03-914-7500	03-914-7518	24	●	ホンダレジデント	937	富山県魚津市本江2535	0765-24-3121	
3	●	熊アルピーエム	191	東京都日野市日野669-2	0425-81-0421	0425-83-8544	25	●	モビリティプラザカガ	524	滋賀県守山市徳富田町381-4	0775-82-3227	0775-82-5090
4	●	熊マン島スポーツ	146	東京都大田区千鳥町2-11-3	03-750-3811		26	○	スーパーネッシーコグニ	621	京都府亀岡市藤町志殿林20-6	07712-4-6308	
5	●	HONDA SPORTS MOTOBUM	110	東京都台東区台東4-13-23	03-831-4265	03-831-4282	27	○	バイクショップトムス	603	京都府京都市北区紫野下鳥田町1-3	075-491-5552	切替
6	●	ホンダリウムNODA	121	東京都足立区青井5-12-41	03-889-6415	03-849-4173	28	●	熊スーパーモーター	578	大阪府東大阪市玉串元町2-8-27	0729-64-3177	0729-65-0026
7	○	ホンダショップ成田	211	神奈川県川崎市中原区中丸子439	044-411-4171		29	●	熊RSタイチ	574	大阪府大東市中福内3-1-25	0720-74-5315	0720-74-3385
8	○	熊カズスーパーバイク時性	255	神奈川県中郡大磯町高麗3-2-39	0463-34-0651		30	○	熊サイクルワールド	673	兵庫県神戸市西区森友4-13	078-928-6644	078-928-4711
9	●	熊ライダーズサロン横浜	236	神奈川県横浜市金沢区片牧66-19	045-783-3638		31	○	ミネモーターサイクル	654	兵庫県神戸市須磨区砂法寺地子田1038-8	078-743-5440	
10	●	モトライクポイントユーゴア	271	千葉県松戸市松戸1051-4	0473-61-1051	切替	32	○	熊橋本商会	700	岡山県岡山市南中央町12-9	0862-32-0011	0862-32-0014
11	○	熊ホンダショップ和光	351	埼玉県川口市本町20-17	0484-61-7478	切替	33	●	モトワールド	708	岡山県赤松郡山陽町河本1076-5	08695-5-2519	切替
12	●	熊エンデュランス	350	埼玉県川越市山田1667-1	0492-22-7770	0492-22-8618	34	●	M.S.ファッションバンク	708	岡山県津山市二宮662	0868-28-3191	0868-28-3198
13	●	モトウィング秋保(ガル)	30-0	埼玉県狭山市下奥宮613-1	0429-54-7467	0429-54-7288	35	●	熊ホンダアロー	711-0	徳島県徳島市川内町平石夷野250-2	0886-65-5330	0886-65-5595
14	●	熊ワールド筑波	30-0	茨城県越前町八千代大字栗山字兵神98-3	0296-49-3138	切替	36	●	熊ホンダショップ高武	808-0	福岡県福岡市城南区神松寺2-2-2	092-871-8198	092-871-8202
15	○	熊モトショップ・ハマ	390	長野県松本市沢村3-1-12	0263-32-5231		37	●	ホンダショップライブ	802	福岡県北九州市小倉北区片野新町1-1-1	093-922-8914	093-922-8910
16	○	ホンダウィング高橋	946	新潟県北魚沼郡小出町虫野113-3	02579-2-0778		38	●	ホンダウィングトムズ	044	北海道札幌市東区南一条西2	0136-22-1008	切替
17	○	熊三愛バイクセンター	955	新潟県三条市下須田24	0256-34-8325		39	●	熊オートランド札幌	004	北海道札幌市白石区厚別中央3条1-1-1	011-892-3323	
18	●	LA-MOTO KOHSAKA	497	愛知県海部郡蟹江町源氏1-6	05679-5-9991	05679-5-0698	40	○	モトビット・マックス	801-0	福島県安達郡本宮町字栗田147-1	0243-33-2455	
19	●	ホンダワールド熊	513	三重県鈴鹿市住吉町6786	0593-78-1455	0593-78-6192	41	●	熊クルーズ	91-5	宮城県栗原市角田字町152	0224-62-0671	0224-55-5613
20	○	THE BIKE ISAKA	50-0	三重県鈴鹿市相生町7990-15	0593-83-3470		42	●	ビッグフォー小松島	91-3	宮城県栗原市松森字中通43-2	0222-71-2181	
21	○	三谷モーターズスポーツ	59-0	三重県多気郡多気町四田324	05983-8-2222		43	○	熊ホンダウィング荘内	99-0	山形県酒田市大字広野字中通32-1	0234-92-3838	
22	○	バイクショップTRY	504	岐阜県各務原市加賀屋町1-283	0583-83-7722								

Arai
HELMET

アストロ-V

ASTRO-V

まさに、新星誕生。

フォームからも剛性を高める。
これが「ASTRO-V」の開発テーマだ。
SFLと組み合わせられた強靱な骨格と柔らかいライナーは、
「ASTRO-V」をさらに一步、理想のヘルメット像に近づけた。
シールドストッパー、ワイドな視界、巧みなエッジ処理など、
レーサーの過酷な要求を満たした仕上げと、
限り無い安全性の追求が、
勝利を呼ぶ、確かな手応えを持つツールとして誕生した。

Super Fiber Lamin

最先端テクノロジーが
走りの最高フォームを創りあげた

1. 剛性を高め、応力を効果的に分散させる安全性を追求した帽体形状
2. 前傾姿勢による視界と後方確認を遮らないワイドな視界
3. シールドに直接、適量エアをあて、くもりを消すデフロストシャッター
4. ストレートでの前傾姿勢でもタンクに当たることのないエッジ処理
5. 超高速時の安心感を高めるシールドストッパー
6. 定評のあるかぶり心地をさらに完璧にした新設計内装
7. 安全性を損なうことなく快適な走行を生むブローシャッターシールド

●機種名:アストロ-V●帽体:SFL
(スーパーファイバーラミネート)●規
格:スネル1985 JIS C種●内装:ス
ーパーベンチレーション内装●色:
白、黒、赤、Vメタ●サイズ:(55-56)、
(57-58)、(59-60)、(61-62)●価
格:¥31,000 *冬季用バット付

●アフターサービスの窓口は品質管理課です。製品のことから、なんでもご相談ください。直通TEL(0486)45-3661
株式会社 アライヘルメット 〒330 埼玉県大宮市東町2-12 TEL(0486)41-3825~7



Arai
HELMET
Racing Specialties

THANKS 70

YOKOHAMA
Motorcycle tires

15

10

9

8

7

6

20

40

50

- A class-F1
team: TECHNICAL PUPP YAMAHA
rider: M. WATANABE, KEVIN HENZELL
- B class-F1
team: ZENITH RACING TEAM
rider: S. MIYAI, M. SHIROYAMA
- C class-F1
team: TEAM DOCTOR SUGA
rider: EGOTOM, T. HOSOI
- D class-N-TT F3
team: SP TAGAO RACING TEAM
rider: Y. SUGIYAMA, S. HAYASHI

- E class-N-TT F3
team: HIMEJI SUPER SPORTS RACING
rider: M. MIYAI, T. MARUO
- F class-N-TT F3
team: SP TAGAO RACING TEAM
rider: Y. NAGAO, T. KATOH
- G class-N-TT F3
team: TEAM DOCTOR SUGA
rider: K. NAGAO, T. YAMADA

攻めるだけじゃ、勝てない。

Performance MC Radial for Circuit
GETTAR

遂に登場! 125cc用GETTAR E600・レーシングスリック!!

SIGNAL FLAGS 信号旗

〔合図旗および合図〕
競技中、競技役員が次の信号旗（フラッグ）を示した場合、各ライダーはこの旗の指示に従わなければならない。

旗の種類	旗の意味		旗の種類	旗の意味	
	ロードレース	モトクロス		ロードレース	モトクロス
 国旗	レーススタート (通常線シグナルで示す)	レーススタート (スターティングマシン) で行う場合もある。	 赤旗	レースまたはプラクティス が中断され、すべてのライ ダーは最大限の慎重さと注 意を持ってそれぞれのピッ トに戻る。サーキットを閉 鎖する場合にも用いる。	全ライダー停止
 黄旗	危険予告・減速	危険予告・減速	 黄旗と赤ストライプ 付黄旗の交差表示	レース停止(赤旗と同じ意味) (コントロールラインで赤 旗が出されたら、すぐに各 ポストで掲示される。)	
 白旗	コース上(ランオフエリア 含む)に危険がある。 減速・停止準備・追越禁止	危険予告・徐行・停止準備 安全確認・追越禁止	 黒旗	白ナンバーを付した黒ボ ードを併用する。 示されたナンバーを付けて いるライダーは次のラップ でピット停止。	ナンバーを示したボードと 併用。指示されたライダー は走行停止。
 赤ストライプ付 黄旗	コース上に徐行中の介入車 両またはスロー走行中の競 技車両あり		 青旗	追越しシグナル、1台また はそれ以上のスピードの速 いマシンが追い越そうとし ている。	
 緑旗	コース表面が滑りやすい		 チェッカー旗	追いつかれる寸前	警告、ラップされようとし ている。
	先に出した合図の解除 (コースクリアー)	先に出した合図の解除		レース終了	レース終了

レースナンバープレート・ライセンス識別カラー

ロードレース

- 前蓋: タテ235mm × ヨコ285mm
- 後蓋: タテ250mm × ヨコ300mm



スポーツプロダクション



ノービス(後面)



ジュニア(前面)



国際A級(後面)

モトクロス

タテ235mm × ヨコ285mm



KIDSライセンス



ノービス



ジュニア



国際B級



国際A級(125cc)



国際A級(250cc)

トライアル

タテ150mm以上 × ヨコ175mm以上



KIDSライセンス



ノービス



T. NIPPON
国際B級



ジュニア



T. NIPPON
国際A級

注: タテ×ヨコの数字は、ナンバープレートの寸法を示す。
また、数字の書体はFIMの指定に基づくMFJの正規のものである。

ヘルメットのMFJ公認マーク

*MFJ公認ヘルメットでMFJ公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。

ロードレース特選



ロードレース用
モトクロス用



トライアル用
ツーリング用



1988年度版

MFJ

国内競技規則・目次

- 18 — 信号旗／レースナンバープレート・ライセンス識別カラー
- 20 — MFJ全国組織
- 25 — MFJ国内競技規則
- 34 — 細則1・ロードレース競技細則
- 38 — 細則2・ロードレース車両細則
- 48 — 細則3・'88全日本ロードレース選手権大会特別規則
- 58 — 細則4・ロードレース地方選手権大会特別規則
- 63 — 細則5・モトクロス競技細則
- 69 — 細則6・'88全日本モトクロス選手権大会特別規則
- 76 — 細則7・トライアル競技細則
- 83 — 細則8・'88全日本トライアル選手権大会特別規則
- 88 — 細則9・MFJライセンス昇格・降格に関する規則
- 92 — 付録
 - ㉔ — MFJ公認車両・部品・トライアルタイヤ・ヘルメット
 - ㉕ — MFJ共済会
 - ㉖ — 歴代チャンピオンリスト

全国組織

国内競技規則

ロードレース

モトクロス

トライアル

付録

昭和63年1月1日発行

ライティング臨時増刊 通巻216号

日本モーターサイクル協会

The Motorcycling Federation of Japan [M.F.J.]

〒103 東京都中央区東日本橋2-16-7 第2オカノビル7F ☎03-865-8441



日本モーターサイクル協会

MFJ 全国組織

●昭和62年12月1日現在

* ()内は兼任

札幌・旭川・釧路

北海道

帯広・北見・函館

北海道プロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所	〒065 北海道札幌市東区東条3条1丁目4番3号	011-782-1482
〃 会長	和田住太郎	〒061-01 北海道札幌市豊平区月寒東1条17丁目1-55 北日本ホンダ販売管内
〃 事務局長	高橋 昭重	〒065 北海道札幌市東区東条3条1丁目4番3号
〃 スポーツ委員長	船谷 丞	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 靴アメヤモーターサイクル内
〃 ロードレース部会長	亀井 隆一	〒060 北海道札幌市中央区大通東6丁目 本田技研工業管内
〃 モトクロス部会長	井上 栄一	〒063 北海道札幌市西区琴似1条6丁目 第1生命ビル 北海道ヤマノ管内
〃 トライアル部会長	(船谷 丞)	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 靴アメヤモーターサイクル内
〃 レジャースポーツ部会長	藤沢 忠男	〒065 北海道札幌市東区北30条東1丁目 靴ススキ自販北海道内
〃 スノーモビル部会長	(井上栄一)	〒063 北海道札幌市西区琴似1条6丁目 第1生命ビル 北海道ヤマノ管内
札幌モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒065 北海道札幌市東区東条3条1丁目4番3号	011-782-1482
〃 会長	和田住太郎	〒061-01 北海道札幌市豊平区月寒東1条17丁目1-55 北日本ホンダ販売管内
〃 事務局長	伊藤 福治	〒065 北海道札幌市東区東条3条1丁目4番3号
〃 スポーツ委員長	船谷 丞	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 靴アメヤモーターサイクル内
旭川モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒070 北海道旭川市1条通5丁目右7号 靴細川商会内	0166-22-77
〃 会長	細川 悦郎	〃
〃 事務局長	石坂 辰義	〃
〃 スポーツ委員長	奥泉 敦範	〒078 北海道旭川市永山2条12丁目 靴ホンダ道北
釧路モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒084 北海道釧路市鳥取大通6-1-1 釧路地区軽自動車協会内	0154-51-07
〃 会長	田山 紀彦	〒084 北海道釧路市星が浦南1-3-51
〃 事務局長	児玉 賢次	〒084 北海道釧路市鳥取大通6-1-1 釧路地区軽自動車協会内
〃 スポーツ委員長		
帯広モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒080-24 北海道帯広市西19条北1丁目8番3号 帯広地区二輪車安全普及協会内	0155-36-8025
〃 会長	石原 正光	〒080-24 北海道帯広市西22条北1丁目12番地
〃 事務局長	広瀬 靖美	〒080-21 北海道帯広市西19条北1丁目8番3号 帯広地区二輪車安全普及協会内
〃 スポーツ委員長	西河 正徳	〒080 北海道帯広市東9条南12丁目8
北見モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒090 北海道北見市三輪5-13 北見地区軽自動車協会内	0157-24-6130
〃 会長	鎌角 幸雄	〒090 北海道北見市大町42番地
〃 事務局長	古林 能仁	〒090 北海道北見市三輪469-2
〃 スポーツ委員会	三浦 勇	〒090 北海道北見市三輪469-2
函館モーターサイクルスポーツ協会事務所	〒041 北海道函館市亀田本町67番32号 藤尾機業管内	0138-43-1801
〃 会長	藤尾 尚司	〃
〃 事務局長	(藤尾尚司)	〃
〃 スポーツ委員長	三浦 勲	〒041 北海道函館市美原3丁目38番34号 北海道ヤマノ管内

青森・岩手・宮城

東北

秋田・山形・福島

東北プロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所	〒983 宮城県仙台市原町3丁目4番9号	022-284-9484
〃 会長	岡 登	〒963-05 福島県郡山市藤久田町字葛葉地12-9
〃 事務局長	安藤 八郎	〒983 宮城県仙台市原町3丁目4番9号
〃 スポーツ委員長	高橋 道雄	〒983 宮城県仙台市原町3丁目4番9号
〃 ロードレース部会長	板橋 康行	〃
〃 モトクロス部会長	(高橋道雄)	〃
〃 トライアル部会長	大友 克人	〃

東北ブロックモーターサイクルスポーツ協会連合会スノーモビル委員会			
青森県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒030 青森県青森市港町2丁目10番13号	0177-42-1477
〃	会長	石塚岡平内	〃
〃	専務理事	野田 光正	〃
〃	事務局長		〃
〃	スポーツ委員長	高橋 道雄	〒030 青森県青森市大字浪館字前田21番地の15
岩手県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒020-01 岩手県盛岡市みだけ5丁目16番27号 軽自動車会館内	0196-43-8895
〃	会長	藤沼 勝	〒020 岩手県盛岡市上田4丁目2番25号
〃	専務理事	玉山 広次	〒020-01 岩手県盛岡市みだけ5丁目16番27号 軽自動車会館内
〃	事務局長	及川 雪男	〃
〃	スポーツ委員長	高橋 秀夫	〒020-01 岩手県岩手郡滝沢村大釜22字土井民85 軽自動車会館内
宮城県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒983 宮城県仙台市青葉区3丁目4番9号	022-284-9484
〃	会長	藤沢 謙一	〒980 宮城県仙台市青葉区神明町26-1
〃	専務理事	安藤 八郎	〒983 宮城県仙台市青葉区3丁目4番9号
〃	スポーツ委員長	高 末男	〒983 宮城県仙台市若切字沼和東134-9
秋田県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒010 秋田県秋田市八橋大畑2丁目12-55 秋田県自動車会館内	0188-62-6219
〃	会長	石塚 俊夫	〒010 秋田県秋田市外旭川字三千刈178 軽自動車会館内
〃	専務理事	佐藤 勇雄	〒010 秋田県秋田市八橋大畑2丁目12-55 秋田県自動車会館内
〃	事務局長	三浦 留男	〃
〃	スポーツ委員長	鈴木 祐孝	〒010-05 秋田県男鹿市船川港船川字外ヶ沢126
山形県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒990 山形県山形市江坂1丁目6番22号 山形県軽自動車会館内	0236-84-9343
〃	会長	佐藤 与市	〃
〃	専務理事	羽角 宏	〃
〃	事務局長	江目 一正	〃
〃	スポーツ委員長	小松 久雄	〃
福島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒960 福島県福島市古倉字名倉1-1 軽自動車会館内	0245-46-2577
〃	会長	関 豊	〒963-05 福島県郡山市喜久田町字葛原12-9
〃	専務理事	佐藤 三男	〒960 福島県古倉字名倉1-1 軽自動車会館内
〃	スポーツ委員長	佐々木 誠	〒962 福島県二本松市松岡216-2

東京・茨城・栃木・群馬・埼玉

関東

千葉・神奈川・新潟・山梨・長野

MFJ関東ブロック協議会事務所		〒108 東京都港区港南3-3-10	03-472-6241
〃	会長	岩田 定雄	〒161 東京都新宿区上落合2-28-15 東京スズキ販売㈱内
〃	事務局長	宮城 久夫	〒108 東京都港区港南3-3-10
〃	スポーツ委員長	外川 一雄	〒108 東京都港区芝5-33-8 三菱自工機スポーツコーナー
〃	ロードレース部会長	神谷 忠	〒352 埼玉県新座市北野1-2-6
〃	モトクロス部会長	村上 正司	〒123 東京都足立区江北0-9-6 村上製作所
〃	トライアル部会長		
〃	レジャースポーツ部会長	村山 栄一	〒151 東京都渋谷区笹塚2-6-3 村山モータース
〃	スノーモビル部会長	高橋 和雄	〒949-63 新潟県南魚沼郡天間町大字南田中423
東京都モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒108 東京都港区港南3-3-10	03-472-6241
〃	会長	岩田 定雄	〒161 東京都新宿区上落合2-28-15 東京スズキ販売㈱
〃	専務理事	宮城 久夫	〒108 東京都港区港南3-3-10
〃	スポーツ委員長	外川 一雄	〒108 東京都港区芝5-33-8 三菱自工機スポーツコーナー
茨城県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒310 茨城県水戸市住吉町307	0292-47-5832
〃	会長	石川 和夫	〒308 茨城県下館市二本成324
〃	専務理事	大内 勝也	〒310 茨城県水戸市住吉町307
〃	スポーツ委員長	小室 文男	〒310 茨城県水戸市住吉町123-3
栃木県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒321-01 栃木県宇都宮市西川田町1245-4	0286-45-0958
〃	会長	岡子昌俊一	〃
〃	専務理事	伊藤喜代美	〃
〃	スポーツ委員長	松本栄太郎	〒321 栃木県宇都宮市問屋町3172-37 協和ホンダ販売㈱
群馬県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒379-21 群馬県前橋市野中町578	0272-61-0505
〃	会長	河原井源次	〒378 群馬県桐生市新宿3-1-11
〃	専務理事	滝沢 又	〒379-21 群馬県前橋市野中町578
〃	事務局長	中村 清夫	〃
〃	スポーツ委員長	下田 敏喜	〒371 群馬県前橋市大友町1-5-15
埼玉県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒331 埼玉県大宮市大字中町2082	0486-24-1221
〃	会長	永田 正雄	〃
〃	専務理事	熊井戸紀一	〃
〃	事務局長	田中 克己	〃
〃	スポーツ委員長	(田中克己)	〃
千葉県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒260 千葉県千葉市新港223	0472-42-1564
〃	会長	秋篠 敏作	〃
〃	専務理事	金子 竹治	〃
〃	事務局長	(金子竹治)	〃
〃	スポーツ委員長	山下 慶治	〃

神奈川県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒226 神奈川県横浜市緑区池辺町3675	045-931-4290
〃	会長	表橋 武士	〃
〃	専務理事	鈴木 克典	〃
〃	スポーツ委員長	中山 博	〃
新潟県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒950 新潟県新潟市大形本町117-3 新潟県新潟自動車会館	025-275-5704
〃	会長	和田 芳男	〃
〃	専務理事	加藤 俊明	〃
〃	スポーツ委員長	斉藤 正利	〃
山形県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒406 山形県東八代郡石和町唐柏791-1 山形県軽自動車センター内	0552-62-7548
〃	会長	萩原 茂興	〒400 山形県甲府市藤田3-9-3 山形スズキ販売館内
〃	専務理事	仲田 幸弥	〒406 山形県東八代郡石和町唐柏791-1 山形県軽自動車センター内
〃	スポーツ委員長	西谷 裕司	〒409-14 山形県東八代郡一宮町東原98 スポーツショップ西谷
長野県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒380 長野県長野市西和田字東和田街438-3 長野県軽自動車協会内	0262-43-1111
〃	会長	板田 勝	〒380 長野県長野市西和田字東和田街472-1 雑ホング二輪店越
〃	専務理事	小泉 清人	〒380 長野県長野市西和田字東和田街338-3 長野県軽自動車協会内
〃	事務局長	家井 清次	〃
〃	スポーツ委員長	西牧 徳光	〒380-17 長野県南安曇郡梓川村1630

静岡・岐阜・愛知・三重

中部

富山・石川・福井

中部ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所		〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6	052-833-9676
〃	会長	田辺 節	〒480-11 愛知県愛知郡長久手町大字長湊字基清地18 雑ホング二輪愛知
〃	事務局長	中村 茂男	〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6
〃	スポーツ委員長	藤井 環美	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786
〃	ロードレース部会長 (藤井環美)		〃
〃	モトクロス部会長	斉藤 昇	〒486 愛知県春日井市旗通通り8-15-1
〃	トライアル部会長	鈴木 雄一	〒470-01 愛知県愛知郡東郷町大字鶴橋字東郷59-99
〃	レジャースポーツ部会長	斉藤 正義	〒930 富山県富山市公文名38-5 富山カワサキ
〃	スノーモビル部会長 (斉藤正義)		〃
静岡県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒422 静岡県静岡市国吉田32番地の7	0542-61-4455
〃	会長	戸田 芳司	〃
〃	専務理事	長田 幹雄	〃
〃	スポーツ委員長	長谷川 弘	〒431-31 静岡県浜松市有玉南町471
岐阜県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒501-61 岐阜県羽島郡津守町大字高桑字立野3276-1	0562-79-1561
〃	会長	仲神 桂二	〒508 岐阜県中津川市新町8-5
〃	専務理事	早川 幸男	〒501-61 岐阜県羽島郡津守町大字高桑字立野3276-1 岐阜県軽自動車協会内
〃	スポーツ委員長	仲神 洋三	〒507 岐阜県多治見市本町7丁目43 雑ホング二輪岐阜内
愛知県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会内	052-833-9676
〃	会長	田辺 節	〒480-11 愛知県愛知郡長久手町大字長湊字基清地18 雑ホング二輪愛知
〃	専務理事	中村 茂男	〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富士見ヶ丘110-6 愛知県二輪車協会内
〃	事務局長	兼松 昭次	〃
〃	スポーツ委員長	(田辺 節)	〒480-11 愛知県愛知郡長久手町大字長湊字基清地18 雑ホング二輪愛知
三重県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒514-03 三重県津市豊出長常町六ノ割1190-1 三重県軽自動車協会内	0592-34-8611
〃	会長	藤井 環美	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786
〃	事務局長	佐野 純二	〒514-03 三重県津市豊出長常町六ノ割1190-1 三重県軽自動車協会内
〃	スポーツ委員長	(藤井環美)	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786
富山県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒930 富山県富山市藤木521-1	0764-24-6420
〃	会長	斉藤 正義	〒930 富山県富山市公文名38-5
〃	専務理事	太田 三郎	〒930 富山県富山市藤木521-1
〃	事務局長	岩田 清範	〃
〃	スポーツ委員長	(斉藤正義)	〒930 富山県富山市公文名38-5
石川県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒921 石川県金沢市入江3丁目134番地	0762-91-7111
〃	会長	坂井 豊治	〃
〃	専務理事	西出 家央	〃
〃	事務局長	(西出家央)	〃
〃	スポーツ委員長	(西出家央)	〃
福井県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒910-37 福井県福井市浅水町138字上輪木11-2 福井県軽自動車協会内	0776-38-0558
〃	会長	淵井 洋司	〒910-37 福井県福井市浅水二丁目135字中輪木11 雑ホング二輪北陸福井営業所
〃	専務理事(代行)	津崎 徳弘	〒910-37 福井県福井市浅水町138字上輪木11-2 福井県軽自動車協会内
〃	スポーツ委員長	(淵井洋司)	〒910-37 福井県福井市浅水二丁目135字中輪木11 雑ホング二輪北陸福井営業所

大阪・滋賀・京都

近畿

兵庫・奈良・和歌山

MFJ近畿ブロック協議会事務所		〒550 大阪府大阪市西区立売堀1丁目7番14号 大阪府二輪車安全普及協会内	06-541-5254
〃	会長	鈴木 義夫	〃
〃	事務局長	山田 和夫	〃

MFJ近畿ブロック協議会事務所	スポーツ委員長	吉田 武英	〒562 大阪府高石市高師浜3-17-32	0722-62-9161
〃	ロードレース部会長	杉本五十洋	〒816 京都府京都市右京区亀安寺衣笠下町25	075-463-6020
〃	モトクロス部会長	田中 隆造	〒578 大阪府東大阪市吉田2-9-26	0729-62-0768
〃	トライアル部会長	山本 隆	〒675 兵庫県加古川市野口町長野261-3	0794-23-2335
〃	レジャースポーツ部会長	(山田和夫)	〒550 大阪府大阪市西区立売堀1丁目7番14号	06-541-5254
〃	スノービル部会長	(山田和夫)	〃	〃
大阪府モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒550 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 大阪府二輪車安全普及協会内	06-541-5254
〃	会長	鈴木 義夫	〃	〃
〃	専務理事	神田 圭造	〃	〃
〃	事務局長	山田 和夫	〃	〃
〃	スポーツ委員会	吉田 武英	〒562 大阪府高石市高師浜3-17-32	0722-62-9161
滋賀県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒520-01 滋賀県大津市唐崎3-17-1 滋賀県自動車会館内	0775-22-4871
〃	会長			
〃	スポーツ委員長	青木 伸治		0775-62-2523
京都府モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒612 京都府京都市伏見区竹田内代町51-5 京都自動車会館内	075-671-5887
〃	会長	板井 伊雄	〃	075-431-2101
〃	専務理事	兵庫 泰弘	〃	075-671-5887
〃	スポーツ委員長	杉本五十洋	〒603 京都府京都市北区衣笠衣笠山町8 衣笠幼稚園内	075-481-2243
兵庫県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒673 兵庫県神戸市西区玉津町居住67-1 兵庫県自転車協会内	078-927-7701
〃	会長	西田 義治	〒653 兵庫県神戸市長田区房王寺町1丁目4-15	078-642-1785
〃	専務理事	中林 健弘	〒673 兵庫県神戸市西区玉津町居住67-1 兵庫県自転車協会内	078-927-7701
〃	事務局長	(中林健弘)	〃	〃
〃	スポーツ委員長	和田 徳寛	〒661 兵庫県尼崎市神崎町43-11	06-499-7566
奈良県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒630 奈良県奈良市南京崎町2丁目321-1	0742-61-5593
〃	会長	小島末太郎	〃	〃
〃	専務理事	畑中 武	〃	〃
〃	事務局長	上大 修正	〃	〃
〃	スポーツ委員長	井上 家新	〃	〃
和歌山県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒641 和歌山県和歌山市西浜中川向坪1660-389	0734-32-5378
〃	会長	林 伸良	〒640 和歌山県和歌山市塩屋4-3-36 和歌山ホンダ館	0734-45-5000
〃	専務理事	大道 武次	〒641 和歌山県和歌山市西浜中川向坪1660-389	0734-32-5378
〃	事務局長	竹内 高夫	〒641 和歌山県和歌山市西浜中川向坪1660-389	0734-32-5378
〃	スポーツ委員長	阿部 達	〒640 和歌山県和歌山市手平3-3-26	0734-22-9083

鳥取・島根

中国

岡山・広島・山口

中国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会			〒753 山口県山口市美1丁目5-58	0839-22-8877
〃	会長	佐々木吉雄	〒755 山口県宇部市南浜2丁目7-21	0836-21-8181
〃	専務理事	江藤 徳男	〒753 山口県山口市美1丁目5-58	0839-22-8877
〃	事務局長	矢藤 誠	〃	〃
〃	スポーツ委員長	若木 恭一	〒740 山口県岩国市平田5丁目44-5	0827-31-1166
〃	ロードレース部会長	山本 明	〒751 山口県下関市南秋根町2丁目12-45	0832-56-1406
〃	モトクロス部会長	(若木恭一)	〒740 山口県岩国市平田5丁目44-5	0827-31-1166
〃	トライアル部会長	野田 弘	〒740 山口県岩国市元町4丁目1-7	0827-21-5397
〃	レジャースポーツ部会長	小笠原六蔵	〒750-01 下関市大字清末55-1	0832-82-8016
鳥取県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒680 鳥取県鳥取市秋里246-5 鳥取県二輪車安全普及協会内	0857-28-6850
〃	会長	吉兼 宅彦	〒680 鳥取県鳥取市西島治829-8	0857-27-7411
〃	事務局長	岡 應司	〒680 鳥取県鳥取市南吉方3丁目109	0857-22-9292
〃	スポーツ委員長	佐々木鉄男	〒680 鳥取県鳥取市海米町101	0857-23-5851
島根県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒690 島根県松江市八幡町725番地 島根県二輪車安全普及協会内	0852-37-1686
〃	会長	堀尾 俊之	〒690 島根県松江市東津田町1076-5	0852-21-2518
〃	事務局長	清水 昭二	〒690-02 島根県松江市大垣町1802-4	0852-88-2490
〃	スポーツ委員長	田中 正司	〒690 島根県松江市東津田町424-11	0852-22-0211
岡山県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒700 岡山県岡山市柳町2丁目10番1号 ライダーショップコスモス内	0862-22-6625
〃	会長	原代 修	〒701-01 岡山県岡山市大内田840-2 柳ホンダ二輪岡山内	0862-92-5251
〃	事務局長	正木 義久	〒703 岡山県岡山市倉田500-1 カワサキ西日本販売岡山営業所内	0862-76-3681
〃	スポーツ委員長	(正木義久)	〃	〃
広島県モーターサイクルスポーツ協会事務所				
〃	会長			
山口県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒753 山口県山口市美1丁目5番58号 山口県自動車会館内	0839-22-8877
〃	会長	佐々木吉雄	〒755 山口県宇部市南浜2丁目7-21	0836-29-8181
〃	専務理事	江藤 徳男	〒753 山口県山口市美1丁目5-58 山口県自動車会館内	0839-22-8877
〃	事務局長	矢藤 誠	〃	〃
〃	スポーツ委員長	若木 恭一	〒740 山口県岩国市平田5丁目44-5	0827-31-1166

徳島・香川

四国

愛媛・高知

四国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会			〒761 香川県高松市徳東町140番地	0878-82-3212
〃	会長	高木 宏	〒760 香川県高松市朝日新町14 徳高木兄弟商会	0878-51-8211

福岡ブロックモーターサイクルスポーツ協会連合会事務所	清家 新輔	〒761 香川県高松市結束町140番地	香川県モーターサイクルスポーツ協会	0878-82-3212
スポーツ委員会	富波 拓	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	新富波商店	0886-22-5545
ロードレース部会長	川竹 健二	〒780 高知県高知市湖新町2-38-10	柳ライダーハウス	0888-31-4848
モトクロス部会長	宮川 善夫	〒763 香川県丸亀市天満町1-5-13		0877-22-9512
トライアル部会長	(富波 拓)	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	新富波商店	0886-22-5545
レジャースポーツ部会長	三原 森雄	〒790 愛媛県松山市平和通2-1-2	二輪館	0899-47-3500
徳島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	新富波商店	0886-22-5545
会長	武井 治男	〒770 徳島県徳島市大原町千代丸93	新ホンダ二輪徳島内	0886-63-4377
専務理事	富波 拓	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	新富波商店内	0886-22-5545
事務局長	(富波 拓)			
スポーツ委員長	(富波 拓)			
香川県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒761 香川県高松市結束町140番地		0878-82-3212
会長	高木 宏宏	〒760 香川県高松市朝日新町6-14	新高木兄弟商会	0878-51-1010
事務局長	谷本 謙二	〒761 香川県高松市結束町140番地		0878-82-3212
スポーツ委員長	山口 精三	〒760 香川県高松市東/ハゼ町3-4 ヤマ/西国館内		0878-67-3900
愛媛県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒791-11 愛媛県松山市南高井町1812-3	愛媛県二輪車安全普及協会内	0899-78-4506
会長	栗田 昇	〒791 愛媛県松山市高岡町43		0899-73-3000
専務理事	土居 清雄	〒791-11 愛媛県松山市南高井町1812-3	愛媛県二輪車安全普及協会内	0899-78-4506
事務局長	大西 隆雄			
スポーツ委員長	三原 森雄	〒790 愛媛県松山市平和通り2-1-2	二輪館	0899-47-3500
高知県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒781-02 高知県高知市横浜1657		0888-42-4311
会長	泉谷 親男	〒780 高知県高知市柳町9-19		0888-23-0111
専務理事	奥村 肇	〒781-02 高知県高知市横浜1657		0888-42-4311
スポーツ委員長	川竹 健二	〒780 高知県高知市湖新町2-177-1		0888-31-4848

福岡・佐賀・長崎・熊本

九州

大分・宮崎・鹿児島・沖縄

MFJ九州ブロック協議会事務所		〒816 福岡県博多市博多区半道橋2丁目7番70号	西京ホンダ販売㈱内	092-474-6196
会長	西 俊明			092-473-6811
事務局長	川原 明人			
スポーツ委員長	高武富久美	〒814-01 福岡県福岡市城南区神松寺2-2-2		092-871-8198
ロードレース部会長	倉富 福生	〒813 福岡県福岡市東区徳の原913番地1号		092-862-2631
モトクロス部会長	萩原喜男	〒818 福岡県筑紫野市大字杉塚273-1		092-922-9082
トライアル部会長	内野 徳助	〒834 福岡県八女市大字吉田1328		09432-4-3629
レジャースポーツ部会長	北村美津弘	〒803 福岡県北九州市小倉北区西港町16番7号		093-561-4834
福岡県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒816 福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7番70号	西京ホンダ販売㈱内	092-474-6196
会長	西 俊明			092-473-6811
事務局長	川原 明人			
スポーツ委員長	高武富久美	〒814-01 福岡県福岡市城南区神松寺2-2-2		092-871-8198
佐賀県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒840-01 佐賀県佐賀市高木瀬町大字高木1240-10		0952-30-8000
会長	野田 幸治			
専務理事	上野 繁次			
事務局長	内川 道徳			
スポーツ委員長	岡田 裕行			
長崎県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒851-01 長崎県長崎市田中町581-3	村上ホンダ販売㈱内	0958-37-8421
会長	村上 幸三			
スポーツ委員長	伊村 兼光	〒850 長崎県長崎市出雲2丁目150番地32		0958-22-1246
熊本県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒862 熊本県熊本市東区4番71号		096-367-5488
会長	玉城 昌一	〒862 熊本県熊本市水前寺公園11-5		096-382-6539
事務局長	松田 忠也	〒862 熊本県熊本市東区4-71		096-367-5488
スポーツ委員長	土肥 幸彦	〒861-41 熊本県熊本市近見町3525	熊ホンダ熊本二輪内	096-356-1141
大分県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒870-01 大分県大分市三川上1丁目4-35	大分県軽自動車協会内	0975-52-1004
会長	倉石 潤	〒870 大分県大分市大字古国町1258-2	熊ホンダ二輪大分内	0975-46-2020
専務理事	田原 丈平	〒870-01 大分県大分市三川上1丁目4-35	大分県軽自動車協会内	0975-52-1004
事務局長	坂本 浩司			
スポーツ委員長	河野 一成	〒870 大分県大分市買来新川16組 南河野オートメカニック内		0975-49-3650
宮崎県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒880 宮崎県宮崎市花ヶ島町新地橋1134	熊ホンダ二輪南九州宮崎営業所内	0985-27-6611
会長	杉浦 勝弘	〒880 宮崎県宮崎市花ヶ島町雁形町1204	宮崎スズキ販売㈱内	0985-29-3661
事務局長	藤田 和司	〒880 宮崎県宮崎市花ヶ島新地橋1134	熊ホンダ二輪南九州宮崎営業所	0985-27-6611
スポーツ委員長	松田 光晴	〒889-05 宮崎県延岡市下伊形町7102-1		0981-37-0666
鹿児島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒891-01 鹿児島県鹿児島市谷山瀬2丁目4番3号		0992-61-4011
会長	沢村 典哉	〒890 鹿児島県鹿児島市新米町20-10		0992-55-8254
事務局長	家村 行夫	〒891-01 鹿児島県鹿児島市谷山瀬2丁目4-3		0992-61-4011
スポーツ委員長	大西 良治	〒890-01 鹿児島県鹿児島市小松原1丁目9-6		0992-68-5101
沖縄県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒901-21 沖縄県那覇市字仲5145	沖縄県ホンダモーター㈱内	0988-77-2568
会長	徳野 隆夫			
専務理事	上原 正寿			

'88MFJ 国内競技規則

本国内競技規則は、国際モーターサイクリスト連盟（Federation Internationale Motocycliste—略称FIM）の国際スポーツ憲章、FIM競技規則にもとづいて作成され、日本国内のモーターサイクルスポーツの国内規則の一部として発行する。

本国内競技規則は、総則と細則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は細則に示される。

第1章 総則	14 競技	24
1 モーターサイクル・スポーツの国内的統括	15 入賞	20
2 公認競技会及び承認競技会の種目	16 公式得点	20
3 大会特別規則並びに公式通知	17 出場車両	20
第2章 ライセンス	18 MFJ公認車両及び公認部品	20
4 競技ライセンスとその種目	19 燃料及びオイル	20
5 競技ライセンスの申請資格	20 車両検査	21
6 競技ライセンスの有効期間	21 ライター及び車両の変更	21
7 ライセンスの効力の失効等	22 優勝者等の決定	21
8 競技ライセンス資格の昇格及び降格	23 入賞者の車両検査	21
第3章 競技会	24 競技結果及び記録の公表	21
9 競技参加者	25 競技会の延期及び中止等	21
10 競技参加者の遵守事項	26 暫定結果に対する抗議	22
11 ライターの装備	27 損害に対する責任	22
12 競技出場の申し込み	28 大会審査委員会の権限	22
13 出場料及びMFJ共済会掛金等	29 競技規則の違反行為に対する罰則	22
	附 則	22

第1章

総 則

1 モーターサイクル・スポーツの国内的統括

- この規則は、わが国のモーターサイクル・スポーツの国内管理並びにこれの普及振興、競技の安全、公正及び秩序を保持することを目的とする。
- 日本モーターサイクル協会(以下「MFJ」という)は、国際モーターサイクリスト連盟(Fédération Internationale Motocycliste 以下「FIM」という)の日本における代表機関として、国際スポーツ憲章、FIM競技規則に準拠してこの規則を制定する。
- モーターサイクル・スポーツに参画するすべての者は、スポーツマンとしての誇りを堅持し、この規則を遵守する等、善良なる市民でなければならない。
- この規則は、MFJの主催又はMFJの公認する競技会に適用され、各競技種目の細部については、別に定めるそれぞれの細則による。また公認競技会以外の競技会(以下「承認競技会」という)についても適用される。
- 個々の競技会における判定及び競技規約全般の解釈は、本規則に基づいて当該競技審査委員会が行ない、これを最終的なものとする。
また、国際競技会において疑義が生じた場合で、本規則に規定されていない事項については、FIM国際スポーツ憲章並びにFIM競技規則により判定する。

2 公認競技会及び承認競技会の格式及び種目

- 公認競技会の格式並びに種目は表1のとおりとする。

表1

競技会の 格式および順位		主催者の区分	種 目	適 用
公 認 競 技 会	国 際 格 式	1. 世界選手権競技会	ロードレース	MFJ公認サーキットにおいて行なわれるもの
		2. 国際選手権競技会	①ロードレース	
		3. 日本グランプリ (MFJグランプリ含む)	②プロダクションレース ③ミニバイクロードレース ④その他MFJ公認サーキットで 行われるレース	
		4. 全日本選手権競技会 (国際格式の大会)	モトクロス トライアル スノーモビル	
	5. 国際競技会		オフロード、ダートモトクロス場、 トライアル場等において行なわれる もの	
国 内 格 式	1. 全日本選手権競技会	①モトクロス		
	2. 特別競技会	②トライアル		
	3. 地方選手権競技会	③ミニモトクロス ④ミニトライアル		
	4. 県選手権競技会	⑤エンデューロ ⑥スノーモビル		

- 承認競技会の種目は競技会の格式が銘柄競技会及びそれ以外の競技会で次のとおりとする。

- モトクロス
- トライアル
- スノーモビル
- エンデューロ
- ミニバイクレース
- その他、MFJスポーツ委員会で認める競技

3 大会特別規則並びに公式通知

- 競技会は、この規則及び種目別細則に基づいて行なわれるほか、競技会の運営、競技の細部及び指示は、大会ごとの公示、特別規則又は公式通知によって行なわれる。
- 大会特別規則及び公式通知は、競技主催者(以下「主催者」という)が制定又は発行する。
 - 大会特別規則には次の各項が示される。
 - 競技会の名称
 - 競技会の格式
 - 競技会組織
 - 主催者の名称、所在地、及び連絡先
 - 開催日時
 - 開催場所
 - 競技の種目及び内容
 - 参加資格
 - 出場申し込み受付場所
 - 出場申し込み期間
 - 出場料とMFJ共済会掛金
 - 出走者の定員
 - 賞、及びその詳細
 - その他
- 公式通知には大会特別規則に規定し得なかった競技会運営の細部にわたる規則及び特別競技規則発表

後に生じた問題を処理するため、主催者は参加者に対し、公式通知をもって指示することができる。

ただし、その内容は大会特別規則及びMFJ国内競技規則に反するものであってはならない。

第2章

ライセンス

4 競技ライセンスとその種目

1. ライセンスには、競技ライセンス、Lライセンス及びビットクルーライセンスとがあり、競技ライセンスは公認競技会に、Lライセンスは承認競技会に参加するために必要な証書である。
2. 競技ライセンスの種目と競技会の参加区分は次のとおりである。

種目	競技ライセンス区分	競技会参加区分
ロードレース	Bロード、ノービス ジュニア、国際A級	①当該種目のMFJ 公認競技 ②すべての種目の MFJ承認競技
モトクロス	キッズ、ノービス、ジュニア 国際B級、国際A級	
トライアル	キッズ、ノービス、ジュニア 国際B級、国際A級	すべての種目の MFJ承認競技 尚、ビットクルー については、運転 免許を受けている 者に限る
スノーモビル	キッズ、スノーモビル	
モトクロス トライアル スノーモビル その他MFJスポーツ 委員会定める競技	MFJ・Lライセンス	
ビットクルー	ビットクルー	

3. FIMライセンス (MFJ経由)
国内・国外における世界選手権競技会、国際競技会に参加することのできるライセンスの区分は、次のとおりである。

種目	競技ライセンス区分	取得資格
ロードレース	①大会のみ有効なライセンス 国内における世界選手権競技会に使用できる	当該種目の国際B級以上のライセンス所有者
モトクロス	②年間ライセンス 国内、国外で行なわれる世界選手権、国際競技会に使用できる	当該種目の国際A級ライセンスを取得後1年以上経過した者
トライアル		

5 競技ライセンスの申請資格

競技ライセンスの取得申請をおこなう者は次の要件をみたしていなければならない。

1. 日本にスポーツ国籍を有する者
2. 日本にスポーツ国籍を有しない者は、日本国内に3ヵ月以上継続的に居住した外国人が、その期間を

公的に証明できる書類を提出でき、かつ本人が所属する国の代表機関の承諾書を受けていること。

3. 種目による条件
 - 1) モトクロス、トライアル、スノーモビル、ミニバイクレース
 - (1) 運転免許 (小型特殊免許を除く・以下同じ) を受けていること。
 - (2) 9歳以上で競技ライセンス講習会の修了証を受けていること。
 - 2) ビットクルー
16歳以上であること。
 - 3) ロードレース
 - (1) ノービスライセンス
MFJの公認するロードレース・ノービスライセンス講習会の修了証を受けていること。またはMFJの公認するサーキットにおける3時間走行証明書を受けていること。
 - (2) B. ロードライセンス
MFJの公認するサーキットのライセンス講習会の修了証を受けていること。
4. 職業選手でないこと。又過去に職業選手として登録し、又は、登録されたことのある者は、登録取り消し後1年以上経過していなければならない。
注：職業選手とは、日本小型自動車振興会所管のレースのために登録された者、及びスタントカー、サーカス等に所属しているものをいう。

6 競技ライセンスの有効期間

競技ライセンス及びLライセンスの有効期間は、交付された日から当該ライセンスに表示された年の12月31日までとする。

7 ライセンスの効力の失効等

次の者のライセンスの効力は失効し、又は停止される。

- (1) 日本のスポーツ国籍を失った者。
- (2) 職業選手として登録された者。
- (3) 氏名・年齢等を偽り、不正にライセンスを受けた者。
- (4) MFJの認めないモーターサイクル競技に出場した者。
- (5) 前条の有効期限を経過し、継続申請をしなかった者。
- (6) MFJスポーツ委員会の裁定により停止処分を受けた者 (スポーツ委員会の定める期間)

8 競技ライセンス資格の昇格及び降格

競技ライセンスの昇格及び降格については別に定めるMFJライセンス昇格、降格に関する規則による。
(P.88参照)

第3章

競技会

9 競技参加者

MFJの公認又は承認する競技会に参加することのできる者は、次のとおりとする。

1) エントラント

(注：エントラントとは、MFJの正会員である二輪車メーカー、特別会員及び賛助会員で「競技参加の申請」を行った団体又は個人をいう)

2) ライダー

ライダーの要件は、次のとおりとする。

(1) MFJ競技ライセンスを受けていること(効力の停止中の者を除く)

ただし、満20歳未満の者は親権者の承諾書を提出したものであること。

(2) 過去6ヵ月以内に重大な刑法上の犯罪により

処罰された者でないこと。

(3) 競技開催期間中、転倒事故等により負傷したライダーは、MFJの指定する医師の競技参加の承諾を得たものであること。

3) ビットクルー

ビットクルーとは、次の者をいう。

(1) メカニック

メカニックは、16歳以上でMFJビットクルーライセンスを所有している者。

(2) ビットサインマン及びヘルパー

ビットサインマン及びヘルパーは、16歳以上でMFJビットクルーライセンスを所有している者。

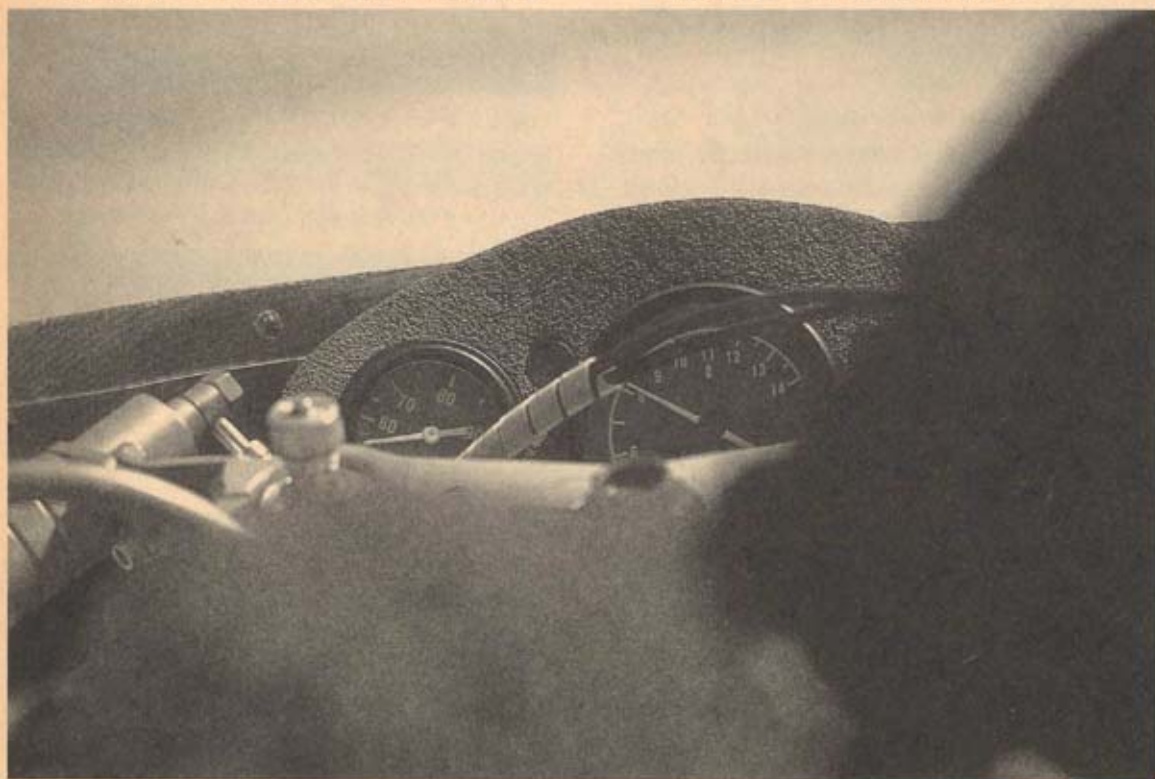
2. 主催者及び競技役員は、競技会当日随時ライセンスの提示を求めることにより、ライダーの資格要件を確認することができる。

10 競技参加者の遵守事項

1. 競技参加者は、次の事項を守らなければならない。

1) 競技会中は、MFJ国内競技規則にしたがって行動し、参加者はすべての行動に対して責任を持たなければならない。

2) 国内競技規則及び競技管理上のあらゆる規定や競技役員への指示にしたがいが、かつレース場以外では交通法規を守らなければならない。



- 3) 常にスポーツマンとしての態度を保ち野卑な言動は厳に慎まなければならない。
 - 4) 競技に関する業務についているときは、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
 - 5) 競技会中は参加するためのライセンスを必ず携帯していなければならない。
2. 特にライダーは、上記のほか、次の事項を守らなければならない。
- 1) 必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離したり、外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。
 - 2) 故意に他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。
 - 3) 車両はそれ自体が持つ動力、及びライダーの筋力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。
 - 4) 他の人の援助を一切受けてはならない。
他の人による援助とは、そのレースに参加しているライダー、きめられた位置についている担当のメカニック及び業務執行中の競技役員以外の人が車両に触れることをいう。
なお、援助に関する細部については、別に定める競技種目別細則による。
 - 5) 車両には、いかなる人も同乗させてはならない。
 - 6) ライダーはレース中、酒気をおびたり、または医薬品等(興奮剤、麻薬等)により故意に精神状態をつくろってはならない。

17 ライダーの装備

ライダーの装備は、次によることとする。

- 1) ヘルメット
 - (1) ライダーは、コース(グリーンベルトを含む)にある間は、MFJが公認したヘルメットを着装していなければならない。
 - (2) MFJが公認するヘルメットの規格については、種目により、それぞれの細則により定める。
 - (3) MFJ公認ヘルメットには、規定の認証マークが貼付されていないといけない。
 - (4) 競技会の車両検査の際、ヘルメット検査がおこなわれ、MFJが公認したものであっても、損傷している等著しくその機能を失っていると認められるものは、ライダーの安全上使用を禁止する。
 - (5) MFJ公認ヘルメットで、その認証マークの貼付されていないヘルメットについては、その場で特別検査を受け使用することができる。この場合は特別検査料を支払わなければならない。

2) 服装

- (1) ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、運転を防げるものであってはならない。
- (2) その他については、種目により、それぞれの細則により定める。

12 競技出場の申し込み

1. 競技会への出場の申し込みは、次によることとする。
 - 1) 主催者が準備した用紙の記載事項のすべてに指示どおり記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない。
 - 2) 主催者は、エントラント・ライダー及びピットクルーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申し込みを拒否、又は無効とする権限を有する。
 - 3) 申込み期間、申込み場所、その他の詳細については、当該競技主催者の定める大会特別規則に示される。
2. レース出走者数又は出場申込み者数の定員は大会特別規則に示される。
なお、出場申込み者数が10名に満たない場合は、そのクラスのレースを中止することがある。

13 出場料及びMFJ共済会掛金等

1. エントラント又はライダーは、出場申込みのとき、大会特別規則に明示する出場料を払込まなければならない。
2. ライダーは、出場申込みのときMFJ共済会掛金を主催者に払込まなければならない。MFJ共済会については、別に定める規則による。
3. いったん、主催者に受理された出場料等は払戻しされない。

14 競技

1. 出場者数が多い場合等は、予選又はタイムトライアルによって決勝レース出場者を決定することがある。その詳細についてはそれぞれの種目の細則及び大会特別規則の定めるところによる。
2. スタートの方法はそれぞれの種目の細則及び大会特別規則の定めるところによる。
3. レース中、競技役員が合図旗を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。
4. 合図旗とその意味については、各競技種目細則の定めるところによる。
5. 停止

- 1) レース中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車両をコース脇によせ、他のライダーの走行の邪魔にならないよう十分に注意しなければならない。
 - 2) レース中、車両をコースの進行方向と逆方向に移動してはならない。ただし、競技役員の指示による場合はこの限りではない。
 - 3) 事故、又は車両故障などの理由によってリタイア（中途退場）する場合は、その地点からもっとも近い競技役員（コース審判）に報告し、用意してある用紙によってリタイア届けを提出しなければならない。
 - 4) ライダーは、リタイア届けを提出した競技役員に車両をあずけて退場しなければならない。
 - 5) ライダーは停止車両をそのレースが終了するまで、競技役員の管理下におかななければならない。ただし、そのレースに支障のない地点まで、車両を移動させることを競技役員（コース審判）から指示された場合には、これに従わなければならない。
5. レースの終了
- レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップ走者がゴールしたのち細則及び大会特別規則に示す時間を経過した時点である。

15 入賞

入賞者は、原則として6位までとし、その詳細は大会特別規則に示される。また、参加賞等は主催者（大会事務局）から交付されるが、これの時期等の詳細は大会特別規則により示される。

16 公式得点

公認競技会における成績により、MFJから公式に与えられる得点は、別に定める「MFJライセンス昇格・降格に関する規則」の定めるところによる。

17 出場車両

- 1) 競技に出場する車両のクラス別区分等は、それぞれの競技種目別の細則の定めるところによる。
2. 各エンジン・シリンダーの排気量は、シリンダー容積を測定するのに用いられる幾何公式によって計算される。すなわち直径はボアによって表され、高さはピストンがその最上部から最下部まで移動するの占めるスペースで表される。

$$\text{排気量} = \frac{D^2 \times 3.1416 \times C}{4} \quad \begin{array}{l} D = \text{ボア} \\ C = \text{ストローク} \end{array}$$

- 測定の際にはボアに1/10mmまでの許容誤差が認められる。この許容誤差を考慮しても、排気量が当該クラスのリミットを超える場合、エンジンが冷えた状態で再測定が1/100mmのリミットまで行われる。
3. 車両は細則に示す「改造の限度」と「総合仕様」に合致し、かつ大会特別規則の条件をみたし、安全上完全に整備されているものでなければならない。
 4. 大会審査委員会により危険であると判断された車両は、理由のいかんを問わず競技に使用することはできない。

18 MFJ公認車両及び公認部品

1. MFJの公認車両及び公認部品については、MFJ車両及び部品公認細則の定めるところによる。
なお、公認された車両及び部品については公示される。
2. 公認の発効は、MFJ技術委員会において審査し、公認された日から30日を経過した日からとする。
3. 当該競技会出場申込みの時点で公認が発効されている車両でなければ、出場申込みをすることができない。ただし、大会当日に公認が発行されている車両は、車両変更申請をし、競技（レース）に使用することができる。

19 燃料及びオイル

1. レースに使用する燃料は、一般市販ガソリン（民間航空機用の市販ガソリンも可）でなければならない。又主催者が指定し競技場にて供給する場合は、ガソリンの製造メーカー及びその他の詳細は公式通知に示される。
2. オイルの製造メーカーは指定しない。
3. その他燃料については、次によらなければならない。
 - (1) ガソリン及びオイルにはオクタン価や燃熱効率を高めるような添加剤あるいは起爆剤を加えては





ならない。

- (2) ガソリンにオイルを混合する必要があるときは、安全を確認して作業しなければならない。又主催者より作業場所の指定がある場合は、必ずその指示にしたがわなければならない。
- (3) ガソリン及びオイルを入れる容器は消防法により認められているものとする。

20 車両検査

1. 競技車両は、本規則及びそれぞれの競技種目別細則の定めるところにより、車両検査を受けなければならない。車両検査の時刻、及び場所は公式通知により示される。
2. 車両は、競技直前に車両検査を受けたままの状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない。チェックの時刻及びチェックの場所は、公式通知により示される。
3. 音量測定法は、FIM方式により次によることとする。
 - 1) 排気管から0.5mのところ、端部のセンターラ

インから測って45°の角度で、排気管の高さと同じ高さ、すなわち地上から少なくとも20cmの高さにマイクロフォンをすえ付けて測った場合、下記のリミット内でなければならない。

これが不可能である場合は、45°上方において測定することができる。音量測定の際、ギヤをニュートラルにして、車両のスタンドを立てておくものとする。検査に合格したマフラーに印をつけることが必要である。認証の後にマフラーを変更することは許されない。ただし、同様に検査され、印をつけられたスベアのマフラーについてはこの限りではない。ライダーは、ニュートラルでエンジンを所定の回転数に達するまで回転させなければならない。所定の回転数に達したときに、測定を行うものとする。

種目	サイクル	規制値
ロードレース	2サイクル	105db(A)
	4サイクル	105db(A)+5db(A)
モトクロス	2サイクル	106db(A)
	4サイクル	106db(A)+5db(A)
トライアル	2サイクル・4サイクル	98db/(A)

- 2) 回転数は、エンジンのストロークに対応するピストンの速度に基くものとする。(下記を参照)

音量規制：回転数(小数点以下は四捨五入)

ピストン ストローク (mm)	(2サイクル) モトクロス ロードレース	トライアル エンデュロ (4サイクル) ロードレース モトクロス	ピストン ストローク (mm)	(2サイクル) ロードレース モトクロス	トライアル エンデュロ (4サイクル) ロードレース モトクロス
30	13,000	11,000	66	5,909	5,000
31	12,580	10,645	67	5,820	4,925
32	12,187	10,313	68	5,735	4,853
33	11,818	10,000	69	5,652	4,783
34	11,470	9,706	70	5,571	4,714
35	11,142	9,429	71	5,492	4,648
36	10,833	9,167	72	5,416	4,583
37	10,540	8,919	73	5,342	4,521
38	10,263	8,684	74	5,270	4,459
39	10,000	8,462	75	5,200	4,400
40	9,750	8,250	76	5,132	4,342
41	9,512	8,049	77	5,065	4,286
42	9,285	7,857	78	5,000	4,231
43	9,069	7,674	79	4,937	4,177
44	8,863	7,500	80	4,875	4,125
45	8,666	7,333	81	4,815	4,074
46	8,478	7,174	82	4,756	4,024
47	8,297	7,021	83	4,699	3,976
48	8,125	6,875	84	4,643	3,929
49	7,959	6,735	85	4,588	3,882
50	7,800	6,600	86	4,535	3,837
51	7,647	6,471	87	4,483	3,793
52	7,500	6,346	88	4,432	3,750
53	7,358	6,226	89	4,382	3,708
54	7,222	6,111	90	4,333	3,667
55	7,090	6,000	91	4,286	3,626
56	6,964	5,893	92	4,239	3,587
57	6,842	5,789	93	4,194	3,548
58	6,724	5,690	94	4,149	3,510
59	6,610	5,593	95	4,105	3,474
60	6,500	5,500	96	4,063	3,438
61	6,393	5,410	97	4,021	3,402
62	6,290	5,323	98	3,980	3,367
63	6,190	5,238	99	3,939	3,333
64	6,093	5,156	100	3,900	3,300
65	6,000	5,077			

4. ライダーが、車両使用申告を行なう場合は、車両検査時に大会事務局より支給された車両使用書をもって申請することができる。

27 ライダー及び車両の変更

1. エントリーされたライダーの変更は認められない。
2. 登録された車両の変更は原則として認められない。

変更する必要がある場合は、所定の書式にしたがって車両の変更申請をおこない、競技監督がこれを認めた場合に限り車両の変更が認められる。

- 1) 公式予選終了後、安全上の理由により、フレームボディ及びクランクケースを交換する必要がある場合は、競技監督に申告し、許可を受けなければならない。

- 2) 紛争に際して、製造メーカーについての立証の責任は、参加者側にあるものとする。

22 優勝者等の決定

優勝者、入賞者及び完走者の定義については、それぞれの種目の細則の定めるところによる。

23 入賞者の車両検査

競技終了後、当該競技の1位から6位までの車両は暫定結果発表後30分間以上保管され、必要に応じて検査される。

24 競技結果及び記録の公表

1. 競技終了後、暫定結果の公表を行う。
2. 競技の正式結果は、暫定結果発表後3時間以内に公表される。
3. 参加者は公表された競技の正式結果に対して抗議することはできない。

25 競技会の延期及び中止等

1. 競技は特別な理由のない限り、打ち切り、又は中止することはできない。
2. 大会審査委員会が、特別な理由によって競技のいずれかを中止しなければならないと判断したときに限り中止することができる。
3. すべての関係者は、大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
4. 特にやむを得ない理由によって、トップ走者が、そのレースにきめられた周回数(または時間)の3分の2を完走しないうちにレースを打ち切った場合は、そのレースは無効とする。
5. トップ走者が決められた周回数(または時間)の3分の2以上を完走した場で、レースを打ち切ったときは、大会審査委員会は、そのレースの判定結果に条件を付して発表するものとする。
6. 主催者は、競技又は大会が中止された場合、参加者が支払った出場料は返還しなければならない。参加者はその他のいっさいの損害賠償を主催者に請求することはできない。

公式予選終了後の中止については、決勝進出者のみ出場料が返却される。

7. 大会審査委員会が、本項に関し下した裁定に対しては、何人も抗議することはできない。

26 暫定結果に対する抗議

- 抗議は、暫定結果に対してのみ、発表後30分間以内に参加者のみが行なうことができる。抗議しようとするときは、その手続並びにこれの措置は、次のとおりとする。
 - 大会事務局に備えつけられた抗議申し立て書に記載し、1項ごとに、抗議保証金を添えて大会事務局に提出すること。
 - 正式の手続きにより提出された抗議申し立て書のみが受け付けられ、大会審査委員会において審議裁定される。
 - 大会審査委員会は、証人を必要と認めた場合は、証人をたて、その証言を求め、十分に実情を調査したうえで裁定をくだすものとする。
 - 大会審査委員会が下した裁定に対しては、いっさい抗議することはできない。
 - 抗議保証金は、抗議が成立した場合のみ返還される。

27 損害に対する責任

- 競技中車両及びその附属品等が破損した場合、その責任は参加者が負わなければならない。ただし、車両が車検長又は大会審査委員会によって保管されている期間中に生じたものを除く。
車検長又は大会審査委員会は、車両を保管している期間中に、これらの車両がなんらかの理由によって破損した場合には、1台当たり10万円を最高限度額としてその所有者に補償する。
- 競技会開催期間中、またはその前後に起された傷害は、自ら責任を負うものとする。
- ライダー及びピットクルー等の参加者は、競技役員がいっさいの損害補償の責任を免ぜられていることを知っていなければならない。すなわち競技役員は、その職務に最善を尽すが、仮りに競技役員らの行為によって起きた参加者、ライダー、ピットクルー及び車両等の損害に対しても、競技役員はいっさいの責任のないことをいう。

28 大会審査委員会の権限

大会審査委員会は、本規則並びにMFJ競技役員規則に基づき、当該競技会において最高の権限を行使することができる。



29 競技規則の違反行為に対する罰則

- 大会中(競技中も含む)における本規則又は大会特別規則に違反する行為に対しては、その軽重によって大会審査委員会並びに競技監督の権限で、下記の罰則を科すことができる。
 - 注意処分(口頭による注意又は文書による注意)
 - 嚴重戒告(戒告通知を受けたものは始末書提出)
 - 罰金(10,000円以上50,000円以下)
 - 競技結果に対する1分以内の加算
 - 競技結果に対する1分以上の加算又は1周以上の減算
 - 失格
 違反の判定は、競技監督の判断を優先するが、罰則の量刑並びに適用は、大会審査委員会の決定を優先するものとする。罰則は、大会審査委員会の報告にもとづき、MFJスポーツ委員会によって、さらに事後の出場停止、資格停止にまで及ぶかどうか、審査、裁定され、30日以内に通告される。

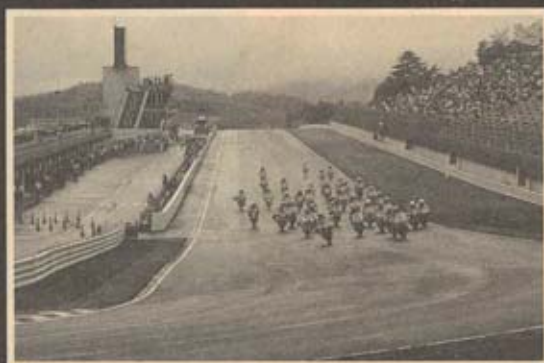
附 則

- 本規則は、昭和63年1月1日から施行する。
- 従前の競技ライセンス及び県協会個人会員証は、本規則により受けた競技ライセンス又はLライセンスとみなす。

ROAD RACE

[細則1]

ロードレース競技細則



1 適用の範囲	34	5 公式予選 (オフィシャルプラクティス)	35
2 ロードレース	34	6 レース	35
3 レース出場車両	34	7 優勝者、入賞者順位、完走者および得点	37
4 合図旗および合図	34	8 ライダーの装備	37

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則にもとづき、すべての国内ロードレース競技会に適用される。(世界選手権を除く)

2 ロードレース

ロードレースとは、舗装され、完全にクローズドされたサーキットでおこなわれるレースであり、国内競技規則およびこの細則により運営・管理される。

3 レース出場車両

- 1) 1大会において同一車両を複数の種目のレースに使用することはできない。
- 2) 1大会において同一車両を複数のライダーが使用することはできない。

4 合図旗および合図

- 1) 公式練習、予選および決勝レース中は、下記の合図旗が使用される。
- 2) 寸法
 - ・シグナル用フラッグ 60×80cm (最小限)
 - ・赤旗 60×100cm
- 3) コントロールラインで使用される旗
 - ・国旗……………レース・スタート
 - ・白黒チェッカー旗……………レース終了
 - ・赤旗……………レースまたはプラクティスが中断され、すべてのライダーは最大限の慎重さと注意をもってそれぞれのピットに復帰。赤旗はサーキットを閉鎖する場合にも用いられる。
 - ・黒旗と白ナンバーを付した黒の合図板との併用……………示されたナンバーを付けてい

るモーターサイクルのライダーは次のラップでピット停止。

- 4) 各コーナーポストで使用される旗
- ・黄旗……………危険!
 - { 静止……………減速
 - { 振る……………減速、停止準備、追越禁止
 - ・赤色ストライプ付の黄旗……………
トラック表面滑り易し
 - ・黄旗と赤色ストライプ付黄旗を交差して掲示…
レース停止。コントロールライン上で赤旗が出されたらすぐにかかげる。
 - ・緑旗……………コースクリアー。
 - ・白旗……………トラック上に徐行している車両またはレース車両あり。
 - ・青旗……………追越シグナル。1台またはそれ以上の高速マシンが貴方を追越そうとしている。
 - { 静止……………間もなく追越される。
 - { 振る……………追突される寸前。
- 5) ライトによるシグナル
- スタートの際の国旗の代りに、赤、黄、緑のライト・シグナルを用いることができる。旗によるサインの代りに、ライトによるシグナルを使うことができる。
- ・黄色燈の点滅1、2回…黄旗と同意味。
 - ・緑色燈……………緑旗と同意味。
 - ・赤色燈……………赤旗と同意味、競技総監督が使用。
- ライトによるシグナルは、特に夜に行われるレースに使用しなければならない。

5 公式予選(オフィシャルプラクティス)

1. 公式予選

- 1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 2) 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- 1) レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。
- 2) 公式予選においては、競技役員による車両の安全上のチェックがなされた後にスタートし、与えられた時間内であれば走行を中断し、または再スタートすることができる。

- 3) 公式予選では、ラップタイムが測定されている。この測定で、最高ラップタイムがはなはだしくおとるものは、たとえ定員内であっても出場資格を与えられない場合がある。
- 4) 公式予選において測定される各ライダーの最高ラップタイムにより、大会特別規則に示されるレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。最高ラップタイムが同じ場合は次のラップタイムの順位による。
- 5) 各クラスの公式予選義務周回数とは3周以上とする。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。
- 6) 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。
- 7) 予選が複数の組に分れて行なわれる場合、天候の変化等により組ごとに路面状態に大幅な差異が生じることがあるが、その場合は総合タイム順ではなく、各組ごとのタイム順により決定する。
- 8) 最終的な予選選出方法は大会審査委員会の決定による。

3. 予選通過者で出場不可能となった者はすみやかに届けを出さなければならない。

4. レース出場が不可能となったことを届け出たライダーがあった場合、予選タイムを基準としてくり上げる場合がある。(スタート前チェック時間内に連絡のないライダーもリタイヤとみなす)

※ウエイティングの方法

- ①事務局にスタート前チェック時までに出走嘆願書を提出する。
- ②出走嘆願書を提出した後、全装備にてスタート前チェックを済ませ、コースインゲートに待機する。但し、原則として出走嘆願書提出者のうちタイム順3名までとする。

6 レース

1. スタート方法

- 1) レースのスタート位置は、各ライダーに与えられているゼッケンナンバーとは関係なく最高ラップタイムによって決定される。
- 2) スタート方法は同時スタートとし、下記の3種類があり、公式通知に示される。
 - (1) 押がけスタート
 - (2) クラッチスタート

(3) ルマン式スタート (耐久)

- スタート位置は、すべての正規のスタートラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
- スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによっておこなわれる。ただし特別の理由により旗によっておこなわれることがある。



2. ビット

ビットとは車両の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

3. ビットイン

- ビットインする車両のライダーは、ビットロード入口手前よりビット側に車両を寄せ、手または足でビットインの合図を行ったのち、安全を確認してビットロードを徐行しなければならない。
ビットエリア (停車区域) を走行してビットインしたりビットアウトする事は禁止される。
- ビットインする車両のライダーは、自己のビットに出来るだけ近いビットロードからビットエリアに入り、出来るだけ自己のビットに近づけて車両を停止させなければならない。
- ビットインしてビットエリアに入った車両、及

び当該車両のライダーやビットクルーは、ビットインして来る他の車両、あるいはビットアウトして行く他の車両の通過を妨げてはならない。

- ビットインのさい、自己のビット前を通り越して停車した車両のライダーは、競技役員の承認を得て当該車両のライダー及びビットクルーによって押し戻し、自己のビットにつけることが出来る。

4. ビットアウト

- ビットロードに於てはビットインしてくる車両に優先権がある。
- ビットロードに出てコースに復帰するライダーは、ビットロードを出て最初のコーナー出口に達するまで、コースビット側に沿って走行しなければならない。その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。

5. ビット作業

- レース中における車両の修理、調整、部品交換は、ビットに準備してある部品と工具によっておこなわなければならない。給油中は必ずエンジンを停止すること。
- ビット区域内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、安全上ただちにきれいに掃除しておかななければならない。

6. ビット作業人員

- ライダーはその車両のメカニックを2名まで持つことができる。
- レース中にビットインし、エンジンを停止した車両に対しての作業は、2名のメカニックと、その車両のライダーの計3名だけに限られる。
- ライダーに対するビットクルー (メカニック、ビットサインマンおよびヘルパー) の合図は、大会競技役員の使用する合図用旗にまぎらわしいものであってはならず、また「ビット区域」のみで合図を送ることができる。
- ビット作業をおこなう者はすべてビットクルーライセンス所持者で、大会に参加の申請がなされた者でなければならない。大会当日の追加はいっさい認められない。但し参加申請がなされている者の変更は認められる。(変更料1,000円)
- ビットクルーは開催期間中を通じてどの大会競技役員の指示にもしたがわなければならない。
- ビットクルーが守らなければならないことに違反した時は、そのビットクルーの担当のライダーが責任を問われ、罰則が課せられる。

7. レースの終了

各レースの終了は、チェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時である。

注：原則的にコースの1周の距離を1kmにつき1分として定められる。

7 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は、規定の周回数を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の優先順序

周回数の多い者を優先する。同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

4. 完走者

- 1) 優勝者の75%以上の周回数を完了したライダーが完走者である。
- 2) レース途中でリタイアしたライダーも完走周回数を完了している場合は完走者とみなされる。
- 3) ビットロードでのゴールは周回数には積算されるがチェッカーを受けたとは認められない。

5. 得点

- 1) 得点は国内競技規則・第3章〔競技会〕16 (30頁参照) によって与えられる。
- 2) SPフォーミュラクラスについては自動昇格のポイントの対象外とする。

8 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットはフルフェイス型のものでMFJが公認したものでなければならない。
- 2) MFJの公認したヘルメットには下記の認証マークが貼付される。
- 3) 競技会の車両検査受付時に、ヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでも、ライダー本人の安全上使用を禁止する。
- 4) MFJ公認ヘルメットでMFJの公認認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、新規に検査を受けなければならない。



ヘルメットには特別推薦を示すホワイト地、またはゴールド地の認証マークがついてなければならない。

2. ライダーの服装

- 1) 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋およびブーツなどは、フックなどが外部に突出していないライダーの身体にピッタリしたものでなければならない。
- 2) ライダーは競技会中、難燃性の素材を使用した肌着を着用しなければならない。皮製のレーシングスーツの裏地は、耐熱および耐火処理をほどこした難燃性の布製のものでなければならない。

ROAD RACE

[細則2]

ロードレース車両細則



- | | | | |
|---------------------|---|------------------------|---|
| 1 レース出場車両..... | ③ | 4 GPフォーミュラ部門の改造限度..... | ④ |
| 2 MFJ公認車両・公認部品..... | ③ | 5 TTフォーミュラ部門の改造限度..... | ④ |
| 3 総合仕様..... | ③ | 6 SPフォーミュラ部門の改造限度..... | ⑥ |

7 レース出場車両

出場車両（以下車両という）は、下記の仕様と改造の限度をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

1. 車両の排気量区分

車両の排気量区分は次のようにわけられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

●GPフォーミュラ部門

クラス	通常吸気型		4サイクル過給型	
	最小	最大	最小	最大
80cc	51cc	80cc	25.5cc	40cc
125cc	81cc	125cc	40.5cc	62.5cc
250cc	126cc	250cc	63cc	125cc
500cc	251cc	500cc	125.5cc	250cc

●T.T.フォーミュラ部門

クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型		4サイクル過給型	
	最小	最大	最小	最大	最小	最大
TTF 1	351cc	500cc	601cc	750cc	301cc	375cc
TTF 2	251cc	350cc	401cc	600cc	201cc	300cc
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc	126cc	200cc
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc	62.5cc	125cc

●SPフォーミュラ部門(スポーツ・プロダクション)

クラス	排気量(cc)	2サイクル	4サイクル
SP50	~50	○	○
SP80	51~80	○	○
SP125	81~125	○	○
SP250	126~250	○	○
SP400	251~400	×	○

*但し各サーキットごとにそれぞれ2サイクル、4サイクルの排気量別に開催クラスの組合せが認められる。

2 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および、公認部品は、巻末付録を参照、又、新たに公認される車両については毎月のライディングにて公示する。

3 総合仕様

車両は、安全のために次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) ブレーキ

車両は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えなければならない。

2) リムとタイヤ

50ccを除き最小リム直径は16インチとする。

3) ハンドルバー

(1) ハンドルの端から端までの幅は80cc以下は400mm以上、それ以外は450mm以上でなければならない。

(2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

4) ハンドルバーのクリアランス

(1) グリップ部およびレバーとカウリングとのクリアランスは20mm以上でなければならない。

(2) ハンドルの回転角度を左右いっばいに切った時ライダーの指を挟まないようにハンドルバーと燃料タンクの間で最低30mmの間隔を確保しなければならない。

5) スロットルコントロール

スロットルコントロールは手をはなすともどる方式でなければならない。

6) クラッチレバーおよびブレーキレバー

クラッチレバーおよびブレーキレバーの末端は、直径19mm以上の球状で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。このボールを平たくすることも認められるが、いかなる場合においてもその端部に丸味を持たせることが必要である（この平たくした部分の厚味は少なくとも14mmとする）。ピボット点からボールの端まで測った場合のコントロールレバーの長さは200mmまでとする。

7) フートレストおよびペダル

(1) フートレストは、前後車軸の中心を通過する線の100mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置になければならない。

(2) フートレストの先端は安全上半径8mm以上に丸められてなければならない。

(3) ペダル類の先端は安全上丸められていなければならない。

8) シートエンドの高さ

シートエンドの後方の部分が150mm以上の高さがあるてはならない。（41頁参照）

9) 排気系

排気はすべて側方に開口のない管により、車両の後方に排出されねばならず、排気管の端部は少なくとも30mmの長さで、マシンのセンター軸と水平かつ平行でなければならない。（許容誤差±10°）

また排気管は後輪最端垂線より突出してはならず、排気がほこりを立てるように排出されたり、タイヤやブレーキを汚したり、後続のライダーに迷惑を与えないようにする為、洩れたオイルの飛散を防ぐあらゆる可能な処置をしなければならない。但し、公認時の排気系を使用する場合はこの限りではない。

10) 音量規定

(1) 排気管およびサイレンサーは音量規制についてのすべての要求事項を満していなければならない。

(2) 音量はFIM方式による測定方式で、105db(A)。ただし4サイクル車は誤差値が+5db(A)まで認められる。FIM方式による音量測定方法は、国内競技規則・第3章〔競技会〕20(31頁)を参照。

11) 車両の傾斜角

車両の傾斜角度は無負荷でタイヤを除きどの部分も接地することなく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。（40～41頁図参照）

12) カウリング

カウリングを使用する場合は次の条件をそなえたものでなければならない。（40～41頁図参照）

(1) タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。

(2) 前輪の車軸を通る垂線の50mm前方から後車輪の車軸の垂線の間になければならない。

(3) カウリングの下端と地面との間隔は100mm以上でなければならない。

(4) ライダーが普通に乗車した状態でライダーの両前腕部以外は上方、後方、両側面から見えないなければならない。ライダーの顔面またそのヘルメットとカウリング(ウインド・スクリーンを含む)との間の最小限スペースは100mmとする。

(5) 後方に面しているカウリングのいかなる部分も、その端部を少なくとも半径3.5mmの丸状にしなければならない。後方に面しているウインド・スクリーンの端部にはガードを施して切り傷を負う恐れのないようにしなければならない。

(6) エアfoilまたはスポイラーは、それらがフェアリングまたはシートの不可欠部分である

総合仕様(39~43頁より)参考図

25度以内

前面のナンバープレートは、垂直に対して30度以内の角度とする。

25mm以下

カウリング前端部の形状は、図の範囲とする。

100度以上

45度~60度の間

50mm前方

カウリングの前端は前車軸の垂線から50mm前方まで

19mm以上

クラッチレバー、ブレーキレバーの先端は、直径19mm以上の球状とする。

20mm以上

グリップ部、レバーとカウリング間には20mm以上のクリアランスをとる。

100mm以下

フットレストは、前後車輪の中心を結ぶ線の100mm上方より下側に、また後輪の中心を通過する垂線の前側に取り付けなければならない。

450mm以上

ハンドル幅は450mm以上とする

20度以上

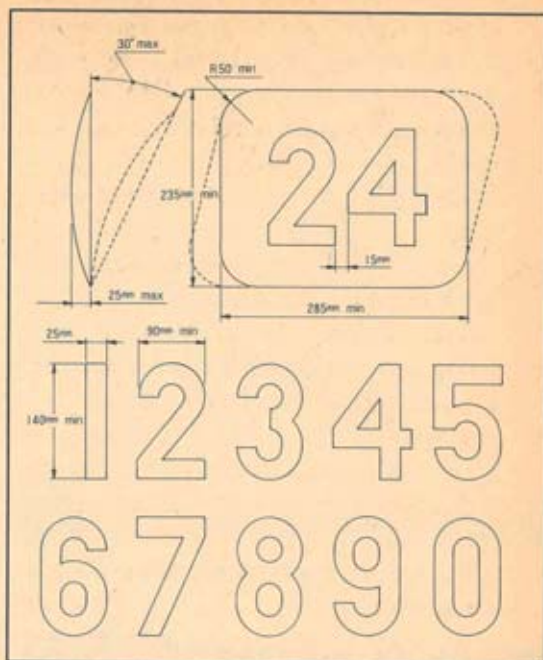
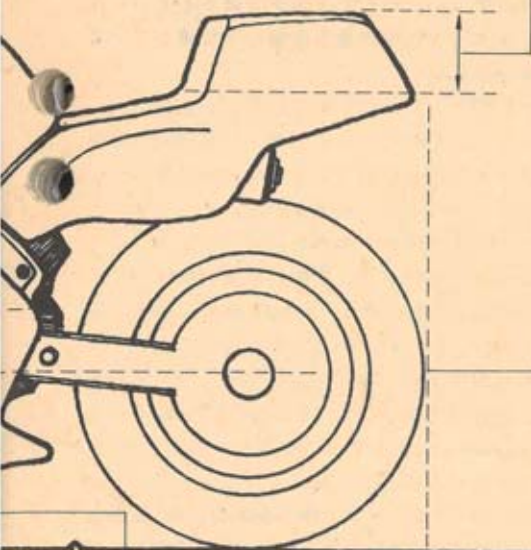
ハンドルの回転角度は20度以上とする。

30mm以上

ハンドルをいっぱいに切ったとき、ハンドルバーと燃料タンクの間隔は30mm以上にする。

150mm以下

シート後方部分の高さは150mm以下にする。



フレームの基本骨格

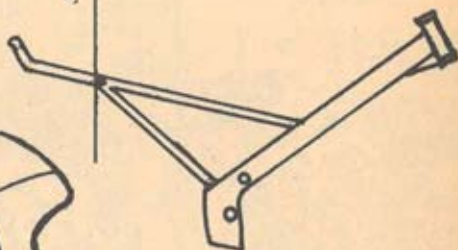
100mm以上

ウリング下端と地面には100mm以上の間隔をとる。

はみ出し禁止

いかなる部品もこの垂直線より後方に出てはならない。

カット可



丸める(R8mm)

フートレスト、ペダル類の先端は丸められたものとする。

10mm以上

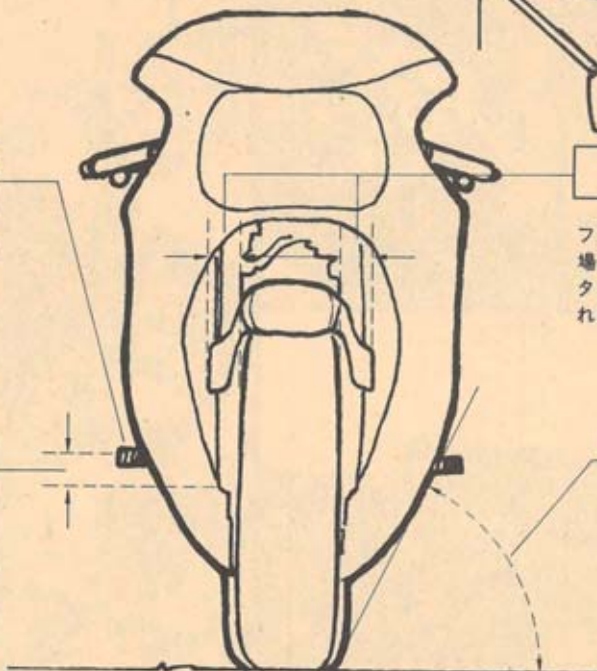
フェンダーを取りつける場合は、フェンダー幅をタイヤ幅より左右それぞれ10mm以上とる。

100mm以下

フートレストは、前後車輪の中心を結ぶ線の100mm上方より下側に、また後輪の中心を通過する垂線の前側に取り付けられることが必要。

50度以上

無負荷の状態、タイヤを除きどの部分も接地することなく50度の傾斜角をもつこと。



場合に限り、とり付けることができる。これらの装置の幅は、フェアリングの幅をオーバーしてはならず、また、その高さはハンドルの高さをオーバーしてはならない。ふちのとがった部分は少くとも8mmの丸味をもたせなければならない。

(7) 上記の適用を避けるために透明な物質を使用することはできない。

(8) カウリングの前端部の形状は40-41頁の図に示す範囲でなければならない。

(9) 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周180度にわたって明瞭に見えなければならない。

13) 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線よりうしろに突出してはならない。

14) フェンダー

(1) フェンダーはタイヤの両側に張り出していないなければならない。

(2) フロントフェンダーはホイールの周囲を最低100°に渡ってカバーしてはならない。フェンダーの前端とホイールの中心を結ぶ線とホイールの中心を水平に通る線の作る角度は45°から60°の間とする。

(3) リヤ・フェンダーはホイールの周囲を最低120°に渡ってカバーしてはならない。フェンダーの後端とホイールの中心を結ぶ線とホイールの中心を水平に通る線の作る角度は20°以上あってはならない。

(4) フロントフェンダーはカウリングがある場合には必要ない。リヤフェンダーはシートカウルがリヤタイヤ外側の垂直接線にまで達している場合は必要ない。

15) 取りはずさなければならないもの

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、およびキックアームは取りはずさなければならない。

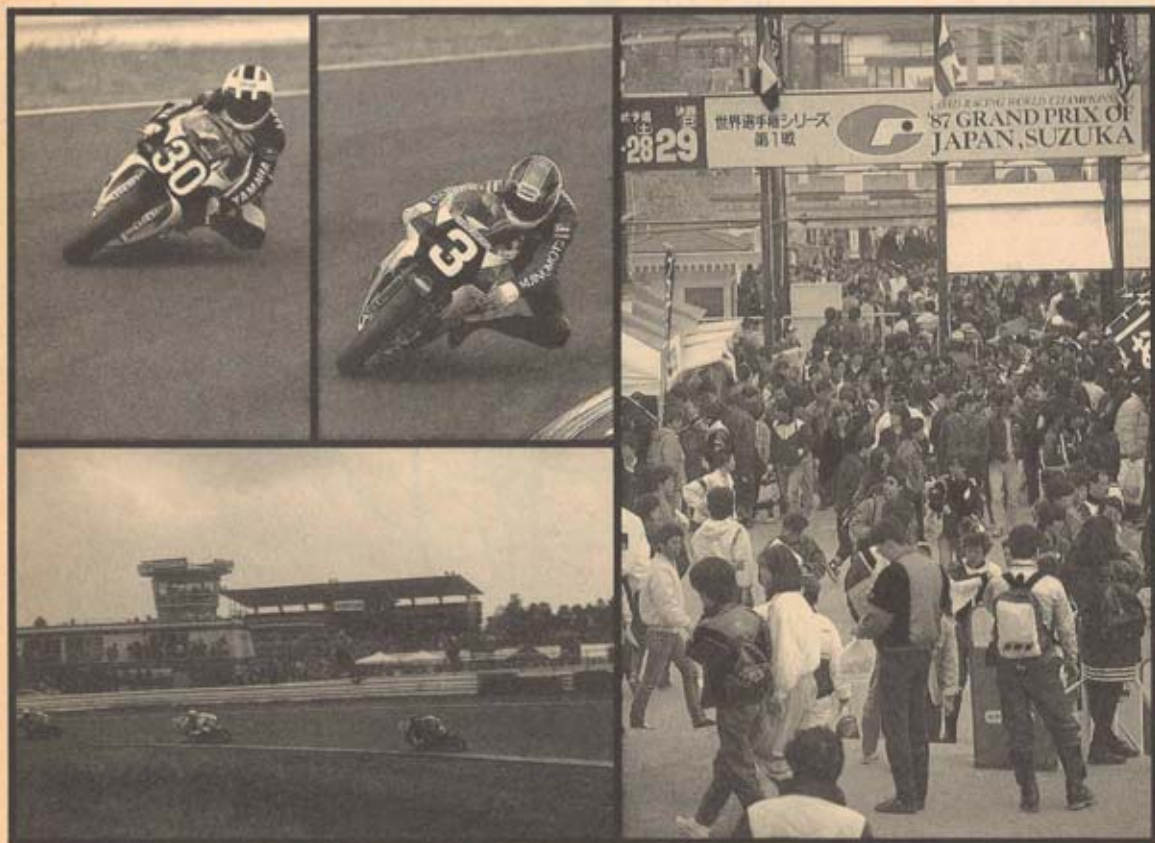
16) レースナンバープレート

(1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、車両の前面に取りつけるものは左右285mm以上、上下235mm以上の大きさのもので、40-41頁図に示されているものでなければならない。車両の左右に取りつけているのは40頁図に示されているように左右300mm以上、上下250mmの長方形のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚は車両の前面に、前向きに、垂直から30°以内の角度をつけて取り付け(40-41頁図参照)、車両の両側面にも各1枚垂



直方向に取りつけられなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通り。ノービス部門＝白地に黒文字(SPクラスは黒地に白文字)

ジュニア部門＝黄地に黒文字

国際A級部門＝赤地に白文字

※世界選手権競技会においてはFIM規定に準ずる。

※蛍光色は禁止する。

(4) ナンバーの字体および寸法

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。ナンバーの文字寸法は、高さ140mm、幅は25mmとする。誤読されないように書体には注意。(18頁、図参照)

17) オイル・ドレーン・プラグと供給パイプ

すべてオイル・ドレーンプラグはきつく締め、ゆるみ止めに有効なロックワッシャーで固定するかドリルで穴をあけ、ワイヤーで所定の位置に固定する。オイル供給パイプは、ワイヤーで所定の位置に固定する。

オイルキャビテーターに達する外側のオイルフィルター、スクリューまたはボルトは安全のためにワイヤーどめをしなければならない。

但しカートリッジタイプのもはワイヤーどめの必要ない。

18) 燃料、オイル・フィルター・キャップ

燃料、オイル・フィルター・キャップは、閉じた状態でもれる恐れがあってはならない。さらに、いかなる場合においても誤って開くことのないように、完全にロックされていなければならない。

19) 燃料タンク・ブリーザー・パイプ

燃料タンクブリーザーパイプを取り付ける場合は、ノン・リターン・バルブを燃料タンク・ブリーザー・パイプに取り付けなければならない。これらは適切な材質の最小限容量250ccのキャッチタンクに排出式とする。

20) オイル・キャッチ・タンク

全ての車両はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし2サイクル車はギヤボックスブリーザーパイプの取り付けられている車両のみ、250cc以上の容量のオイルキャッチタンクを取り付けること。なお、転倒時に容易に脱落したり破損せず、高温にも耐えられる材質のものでオイルがこぼれないように、確実に取り付けなければならない。また、スタート時には必ず空にしておかなければなら

い。

21) 燃料タンク

燃料は、車両にしっかりと固定された唯一つのタンク内に収めるものとする。

シート・タンクおよび補給タンクの使用は禁止されている。軽便者脱式のとりかえタンクは、すべての種類の競技について、燃料補給の手段としては使用を厳禁される。

さらに、タンクの容量を減少させる一時的充てん物の使用は禁止される。防火物質の全面的充てんは認められる。

22) 危険防止

他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造をしてはならない。

4 GPフォーミュラ部門の改造限度

競技の公平および安全性に関連して次のような改造制限を定める。

1 国際A級部門

(1) 車両は自由とする。

車両区分

クラス	排気量区分				最大限 気筒数	最大限 ミッション	タンク容量 (リットル)
	通常吸気型		4サイクル過給型				
	最小	最大	最小	最大			
125cc	81cc	125cc	40.5cc	62.5cc	単気筒	6段	6-32
250cc	126cc	250cc	63cc	125cc	2気筒	6段	6-32
500cc	251cc	500cc	126cc	250cc	4気筒	6段	6-32

(2) すべての車両は国内競技規則及び総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。

(3) 半乾燥重量は下記の最低重量をみたしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

クラス	最低重量
125cc (単気筒)	65kg
250cc	90kg
500cc	100kg

なお、上記の最低重量をみたすために、ダミーウェイトを装備してはならない。

(4) 車両が発生する音量については、総合仕様10)

参照 (39頁)

- (5) すべてのモーターサイクルについて、フレーム、フロント・フォーク、スイング・アーム、ハンドルバーおよびホイール・スピンデル構造にチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンデルに軽合金を使用することも、また禁止される。

2 ジュニア・ノービス部門

- 1) 車両は市販レーサー又は、一般生産モーターサイクルでMFJが公認した車両でなければならない。
- 2) すべての車両は国内競技規則及び総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。
- 3) 車両区分

クラス	排気量区分	最大限気筒数	最大限ミッション	最大限タンク容量
80cc	51cc～80cc	単気筒	6段	6～32ℓ
125cc	81cc～125cc	単気筒	6段	6～32ℓ
250cc	126cc～250cc	2気筒	6段	6～32ℓ

- 4) 半乾燥重量は下記の最低重量をみだしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

クラス	最低重量
80cc	55kg
125cc	65kg
250cc	90kg

なお、上記の最低重量をみだすためにダミーウエイトを装備してはならない。

- 5) 車両が発生する音量については、総合仕様10)参照 (39頁)
- 6) 一般生産型モーターサイクルの改造限度
一般生産型モーターサイクルをベースに改造を行う場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。
- (1) フレームの基本骨格(シートレールを含む)(40～41頁参照)及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。
ただし、不要なステー類のカット及びフレームの補強は認められる。
 - (2) チタン合金を素材としこれを加工して製造された部品を使用してはならない。

- (3) 過給はみとめられない。
- (4) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

7) 市販レーサーの改造限度

市販レーサーをベースとして改造を行う場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

- (1) フレームの基本骨格及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。
- (2) 下記の部品の改造変更は出来ない。但し、MFJ公認部品及び同一メーカーのMFJ公認車両の部品のみ交換する事が出来る。
 - ① シリンダー
 - ② シリンダーヘッド
 - ③ ミッション
 - ④ フロントフォーク
 - ⑤ リヤサスペンションユニット
 - ⑥ スイングアーム
 - ⑦ キャブレター
- (3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。
- (4) 過給は認められない。
- (5) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

5 TTフォーミュラ部門の改造限度

国際A級部門

1. 車両の排気量区分

車両のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

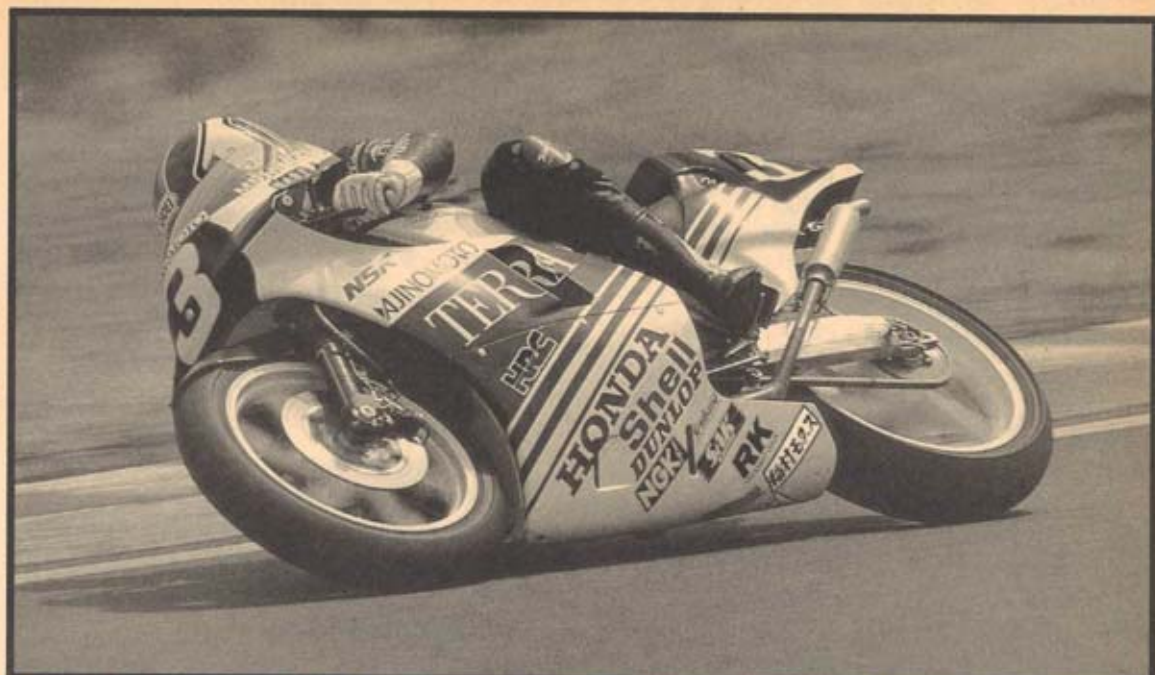
クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型		4サイクル過給型(国際A級のみ)	
	最小	最大	最小	最大	最小	最大
TTF 1	351cc	500cc	601cc	750cc	301cc	375cc
TTF 2	251cc	350cc	401cc	600cc	201cc	300cc
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc	126cc	200cc
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc	62.5cc	125cc

注: エンジンは、各クラスの上限を15%越える排気量の公認車両のものまで、ベース車両として選択できるが、ポアダウンによって当該クラスのリミット内に排気量を下げなければならない。(ストロークダウンはできない)

2. 国際A級部門の車両

TTフォーミュラ・モーターサイクルは、現在生産されているモーターサイクルで、一般ユーザーが容易に入手し得るものであり、下記の条件をみたしていなければならない。

- (1) 車両は市販レーサーを除く一般生産型モータ



一サイクルでFIMが公認したものでなければなら
ない。

3. 国際A級部門の改造限度

- 1) すべての車両は、総合仕様に示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。
- 2) 下記のものにて、公認型式に変更を加えることは禁止される。
 - (1) エンジンの型式
 - (2) シリンダー、吸入・排気バルブの数
 - (3) ピストンストローク
 - (4) シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース、及びギヤボックスシェルの材質及び鋳造
 - (5) バルブ数を含む吸・排気装置、及び2サイクル型エンジンのポート数、キャブレターの数。
- 3) 下記の制限内で改造をおこなうことができる。
 - (1) ギヤミッションは6速の範囲内でギヤボックスシェルに変更を加えない限りギヤ段数及び変速比を変更できる。
 - (2) 燃料タンク最大容量は下記に制限される。
フォーミュラ1 = 24リッター
フォーミュラ2 = 20リッター
フォーミュラ3 = 18リッター
フォーミュラ4 = 15リッター
※但し車両公認時のものはこの限りではない。
(世界選手権大会は除く)
 - (3) シリンダーのキャストイング(鋳造)を変更することなくボアを拡大することができる。た



だし、この拡大は当該車両本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。

ただし、再ボーリングの場合は当該クラスのリミットの1%オーバーまで認められる。

- (4) 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品を取り外すことが認められている。
- (5) 安全と音量コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。音量規定については3総合仕様10) (40~41頁参照)。
- (6) すべてのモーターサイクルについて、フレーム、フロント・フォーク、スイング・アーム、ハンドルバーおよびホイール・スピンドル構造にチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに軽合金に使用することも、また禁止される。
- 4) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

ジュニア・ノービス部門

1. 車両の排気量区分

車両のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型	
	最小	最大	最小	最大
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc

注：エンジンは、各クラスの上限を15%越える排気量の公認車両のものまで、ベース車両として選択できるが、ボアダウンによって当該クラスのリミット内に排気量を下げなければならない。（ストロークダウンはできない）

2. ジュニア・ノービス部門の車両

車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

3. ジュニア・ノービス部門の改造限度

- すべての車両は、総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。

- 下記のものについて、公認型式に変更を加えることは禁止される。

- エンジンの型式
- シリンダー、吸入・排気バルブの数
- ピストンストローク
- シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース、及びギヤボックスシユェルの材質及び鋳造
- バルブ数を含む吸・排気装置、及び2サイクル型エンジンのポート数
- キャブレターの数と型式
- フレームの基本骨格（シートレール含む）
- 燃料タンク

- 下記の制限内で改造をおこなうことができる。

- ギヤミッションは6速の範囲内でギヤボックスシユェルに変更を加えない限りギヤ段数及び変速比を変更できる。（MFJ公認部品）
- シリンダーのキャスト（鋳造）を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車両本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。
ただし、再ボーリングの場合は当該クラスのリミットの1%オーバーまで認められる。
- 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品

を取り外すことが認められる。

- フレームの補強及び必要でないステー類のカット。
- 燃料タンクの給油口及びコック。
- 安全と音量コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。音量規定については3総合仕様10(39頁)参照。

キャブレターは車両公認時のものとし、ジェット類、ニードル類の変更及びエアファンネルの取り付けは可。

※予告事項

'89年からフロント及びリヤサスペンションはMFJ公認部品及び同一銘柄の車両の部品のみ交換可とする。（但し同サイズ以上）

4. 構成部品

- 変速機はMFJが公認したものでなければならない。（MFJ公認部品）
- チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。
- フレームとクランクケースの製造ナンバーは、出場申込書に記入しなければならない。
- 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

6 SPフォーミュラ部門の改造限度

1. 出場車両

車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

2. 車両の排気量区分

クラス	排気量	2サイクル	4サイクル
SP50	~ 50	○	○
SP80	51~ 80	○	○
SP125	81~125	○	○
SP250	126~250	○	○
SP400	251~400	×	○

※但し各サーキットごとにそれぞれ2サイクル、4サイクルの排気量別に開催クラスの組合せが認められる。

3. 改造の限度

- すべての車両は総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。ただし公認時の型式に変更を加えない車両については、3総合仕様39頁の8)シートエンドの高さ、14)フェンダー、12)カウリング、13)部品の最後端の項はこれにあたらない。
- 改造規定

車両はMFJが公認した時と同じもので、以下に記してある項目以外は改造、変更は出来ない。

(1) エンジンおよび補機

- ① キャブレターは車両公認時のものとし、ジェット類、ニードル類の変更及びエアファンネルの取り付けは可。
- ② エアクリーナー及びボックス、エレメントの改造・変更及び取りはずしは可。
- ③ スパークプラグプラグキャップの変更は可。
- ④ 始動機構と発電機及びそれらの関連部品の取りはずしは可。

セルモーターを取りはずさない場合は、それが作動しないようにしなければならない。(セルスタータースイッチを取りはずすこと)

- ⑤ 2サイクル車の分離給油のオイルポンプ(オイルタンク等の関連部品を含む)の改造・変更及び取りはずしは可。
- ⑥ アクセルワイヤー、アクセルグリップ部(ラバーR.L含む) オイルポンプ作動用ワイヤーの改造、変更は可。
- ⑦ クランクケースカバー(R.L)の改造、変更は可。
- ⑧ 4サイクル車のオイルクーラーの取り付けは可。
- ⑨ ラジエーター、ラジエーターカバー、クーリングファン、サーモスタットの改造・変更は可。

- (2) マフラー：改造、変更は自由。ただし、総合仕様10) 39頁参照に従って処置されていなければならない。
- (3) フレーム：改造変更は不可。ただし、ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加及び必要でないステー類(シートレールの一部含む)のカットは可。
- (4) フロント、リヤサスペンション：変更は不可。ただしエア加压、スプリングの変更は可、なおスタビライザーでの補強はフロントのみ可。
- (5) フロント・リヤフォーク：ステアリングステム・トップブリッジを含み変更は不可。ただし必要でないステー類のカットは可。
- (6) ステアリングダンパー：取り付けは可。ただしステアリングストッパーとの兼用は不可。
- (7) ホイールアッセンブリ：変更は不可。ただしスピードメーターケーブルの取り出し口の改造は可。
- (8) タイヤ：一般市販されていて通常ルートで購入できるもののみ交換は可。ただし、スリックタイヤ(レーシングレイン、インターミディエイト含む)及び摩耗限度を越えたもの及びグリップ(溝切り、カッティング)は不可。

- (9) スプロケット・チェーン：ファイナルレシオの変更は可(チェーンサイズを含む)
- (10) チェーンケース：取りはずしは自由とするが、ライダーの足がチェーンにまき込まれないようにカバーを取り付けることが望ましい。
- (11) ハンドルバー：変更する場合、グリップエンドはトップブリッジよりも上とする。(車両公認時のものはこの限りではない)ただし、3総合仕様4) (39頁参照)に従って処置されていなければならない。
- (12) カウリング：車両公認時に取り付けられているもの(メーカーオプション含む)のみ可。カウリングステーの改造・変更も可。
- (13) メーター類：改造・変更は可。
- (14) シート・シートカウル：改造・変更は可。(後輪の最後端の垂線より出はならない)
- (15) ガソリンタンク：車両公認時のもので、形状の改造、変更は認めないが、フューエルコック、給油口の改造は自由。
- (16) サイドカバー：取りはずしは自由とするが、取りはずさない場合は脱落しないような処置を施すこと。
- (17) フェンダー：フロントおよびリヤ共、改造・変更は可。
- (18) ステップ・ペダル：改造・変更は良いが、3総合仕様7) 39頁参照に従って処置していなければならない。
- (19) ブレーキ：前後ブレーキは当該車両公認時のものとし変更は認めない。ただしパッドの材質及びブレーキホースのみの変更は認める。
注)ブレーキとはマスターシリンダー、ブレーキキャリパー(トルクロッド含む)、ディスクプレートまでをいう。
- (20) オイルキャッチタンク：4サイクル車は、その排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。
2サイクル車は容量250cc以上とし、クランクケースよりホースの出ているもののみ取り付けなければならない。
尚、転倒時に容易に脱落したり、破損せず高温にも耐えられるものでオイルがこぼれたりしないような処置をし、確実に取り付けなければならない。
- (21) ワイヤーハーネス：改造、変更は可。
- (22) バッテリー：変更、取りはずしは可。
- (23) キルスイッチ：キルスイッチの改造、変更は自由であるが、完全に作動しなければならない。

ROAD RACE

[細則3]

'88全日本選手権大会 特別規則

1 開催競技会	①	14 ライダーの装備	④	27 停止指示	⑤
2 運営実行組織	①	15 ガソリンおよびオイル	⑤	28 レースの停止と再スタート	⑤
3 公式通知、タイムスケジュール	④	16 ピット割当て	⑤	29 棄権（リタイア）と停止	⑤
4 開催種目	④	17 出場受付	⑤	30 レース終了	⑤
5 競技内容	④	18 車両および装備の検査	⑤	31 優勝者、入賞者、	⑤
6 参加定員	④	19 ライダーの変更	⑤	完走者および順位	
7 参加資格	④	20 出場車両の変更	⑤	レース終了後の	⑤
8 出場申込み	④	21 公式予選	⑤	車両の保管と再検査	
9 出場料および保険料	④	22 決勝レース出場台数	⑤	33 レースおよび大会の延期・中止等	⑤
10 参加受理	④	23 スタートの手順	⑤	34 抗議	⑤
11 賞および得点	④	24 スタートにおける反則	⑤	35 違反に対する罰則	⑤
12 レース出場車両	④	25 レース	⑤	36 本規則の解釈	⑤
13 セッケン・ナンバー	④	26 レース中の合図	⑤	37 本規則の施行	⑤

1 開催競技会 (50~51頁に掲示)

2 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

3 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

4 開催種目

1. 競技部門およびクラス区分

全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は右記の通りである。

- 1) 全日本選手権シリーズ・ロードレース大会にノ

ービス地方選手権が併催となる場合がある。

部門 クラス	ジュニア	国際A級
125cc	○	○
250cc	○	○
500cc	—	○
F-3	○	○
F-1	—	○

全日本選手権ロードレース大会および主要ロードレース大会、世界選手権の開催種目および地方選手権併催レース種目は50~51頁掲載の表の通りである。

5 競技内容

- 1) レース区分は50頁および51頁の通りである。ただし、参加台数、天候などの都合により変更される場合がある。

6 参加定員

参加定員は定めない。

7 参加資格

1. エントラントおよびライダー

エントラントおよびライダーは、1988年度版MFJ国内競技規則・第3章〔競技会〕9(28頁)に合致していなければならない。

2. MFJグランプリロードレース大会の参加資格

- 1) 国際A級部門はフリーエントリーとする。
- 2) ジュニア部門は8月27日開催の全日本選手権第12戦までに125cc、250cc、F-3各クラスでランキング上位35名の者。

8 出場申込み

- 1) 出場申込み場所は各主催者の住所とする。
- 2) 出場申込み手続き
 - (1) 各部門とも所定の申込み書に必要事項をすべて記入し、出場料および保険料を添えて大会事務局に提出しなければならない。
 - (2) 2クラス以上に出場を申込み場合は別々に申込み書を作成しなければならない。
 - (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り日当日の消印のあるものまでが有効となる。
 - (4) 電話による申込みおよび締切り日以後の申込みはいっさい受け付けない。

9 出場料および保険料

1. 出場料およびライダー保険料

- 1) 第1戦～第15戦
 出場料 1クラス 8,500円
 MFJ共済会掛金 1人1口3,500円(保険金額700万円)
- 2) ビットクルー(メカニック、ビットサインマン、ヘルパー等)はビットクルーライセンスを所持しなければならない。

10 参加受理

- 1) 必要事項を記入した出場申込み書、必要金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が送られる。
- 2) いったん受理された出場料、保険料はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。

- 3) 大会が取りやめになった場合、参加者が拒否された場合(申込み者が必要な手続きを怠った場合はこれにあてはまらない)にのみ出場料、保険料が返還される。

11 賞および得点

1. 賞

- 1) 賞の詳細については公式通知に示される。

2. 全日本選手権ランキングの得点

- 1) 得点は国内競技規則・第3章〔競技会〕16(30頁参照)によって与えられる。
- 2) MFJグランプリロードレース大会については、上記の得点に、さらに3点が加算される。
- 3) 全日本選手権ランキングの順位は上記によって与えられた得点の総合計によって決定される。その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(91頁参照)に示される。
- 4) 異なったライセンス部門との合同レースの場合でも、全日本選手権ポイントは各ライセンス部門別に与えられる。

3. 賞および得点制限

- 1) 賞および得点の制限は、国内競技規則・第3章〔競技会〕16(30頁参照)による。

12 レース出場車両

車両は、国内競技規則・第3章〔競技会〕18(30頁参照)を厳守しなければならない。

13 ゼッケン・ナンバー

- 1) 国際A級部門のライダー(前年度有得点者)には、ライディング3月号No.217に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- 2) 他部門のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- 3) ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色分けて記入しておかなければならない。
- 4) ゼッケン・ナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。

14 ライダーの装備

- 1) ライダーの服装、ヘルメット等は、国内競技規則・第3章〔競技会〕11(29頁参照)による。

'88全日本選手権シリーズ大会開催競技会の日程、名称、開催種目、主催、開催場所、出場申込み期間

日 程	大 会 名 称	ノービス(併催)				ジュニア			国 際 A 級					
		SP400	125	250	F 3	125	250	F 3	125	250	500	F 3	F 1	SB
3月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 BIG 2 & 4 大会 (国際格式)							○		○	○			
3月25日(金) 27日(日)	世界選手権第1戦 (全日本選手権第2戦併催) 日本グランプリロードレース大会									○	◎	◎		
4月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 筑波ロードレース大会					○	○	○	○	○	○			
4月22日(金) 24日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿ロードレース大会	●		●				○				○	○	○
4月30日(土) 5月1日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 西日本ロードレース大会				●	○		○	○	○		○		
5月14日(土) 15日(日)	TTフォーミュラ世界選手権 (全日本選手権第6戦併催) TTフォーミュラ世界選手権SUGO大会					○		○	○			○	◎	
5月28日(土) 29日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 筑波ロードレース大会					○	○	○	○	○	○			
6月10日(金) 12日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 鈴鹿200kmロードレース大会 (国際格式)	●			●	○				○	○		○	
6月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 筑波ロードレース大会 (国際格式)					○	○		○	○	○	○		
7月16日(土) 17日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 SUGOロードレース大会 (国際格式)							○	○	○	○		○	
8月13日(土) 14日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 西仙台ロードレース大会					○	○	○	○	○		○		
8月27日(土) 28日(日)	スーパーバイク世界選手権 (全日本選手権第12戦併催) スーパーバイク世界選手権SUGO大会					○				○	○	○		◎
9月9日(金) 11日(日)	全日本選手権シリーズ第13戦 鈴鹿ロードレース大会 (国際格式)		●	●						○	○	○	○	
10月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第14戦 TBCビッグロードレース大会 (国際格式)							○		○	○	○	○	
10月28日(金) 30日(日)	全日本選手権シリーズ第15戦 MFJグランプリロードレース大会 (国際格式)					○	○	○	○	○	○	○	○	

●全日本選手権対象種目 ●世界選手権対象種目 ●その他 S・B=スーパーバイク

出場申込み先	開催場所	出場申込み 期間(消印有効)	大会名称
鈴鹿サーキットランド・鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	2月3日(水) ↓ 2月12日(金)	全日本選手権シリーズ第1戦 BIG2&4大会 (国際格式)
鈴鹿サーキットランド・鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593-78-1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	2月11日(火) ↓ 2月25日(水)	世界選手権第1戦 (全日本選手権第2戦併催) 日本グランプリロードレース大会
助日本オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル2F ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	3月2日(水) ↓ 3月11日(金)	全日本選手権シリーズ第3戦 筑波ロードレース大会
鈴鹿サーキットランド・鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	3月15日(火) ↓ 3月24日(水)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿ロードレース大会
MFJ山口県モーターサイクルスポーツ協会 山口県美祿市西原保町長尾 西日本サーキット事務所内 ☎08375-5-0321	西日本サーキット ☎08375(8)0321	3月23日(水) ↓ 4月1日(金)	全日本選手権シリーズ第5戦 西日本ロードレース大会
SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎0224(83)3111	4月6日(水) ↓ 4月15日(金)	TTフォーミュラ世界選手権 (全日本選手権第6戦併催) TTフォーミュラ世界選手権SUGO大会
MFJ関東ブロック協議会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03(472)6241	筑波サーキット ☎0296(44)3146	4月29日(水) ↓ 4月29日(金)	全日本選手権シリーズ第7戦 筑波ロードレース大会
鈴鹿サーキットランド・鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	5月3日(火) ↓ 5月12日(水)	全日本選手権シリーズ第8戦 鈴鹿200kmロードレース大会 (国際格式)
助日本オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル2F ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	5月18日(水) ↓ 5月27日(金)	全日本選手権シリーズ第9戦 筑波ロードレース大会 (国際格式)
SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎0224(83)3111	6月8日(水) ↓ 6月17日(金)	全日本選手権シリーズ第10戦 SUGOロードレース大会 (国際格式)
西仙台ハイランドレースウェイ 〒989-34宮城県仙台市新川早坂山 12 ☎022(395)2120	西仙台ハイランド レースウェイ 022(395)2120	7月6日(水) ↓ 7月15日(金)	全日本選手権シリーズ第11戦 西仙台ロードレース大会
SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎0224(83)3111	7月20日(水) ↓ 7月29日(金)	スーパーバイク世界選手権 (全日本選手権第12戦併催) スーパーバイク世界選手権SUGO大会
鈴鹿サーキットランド・鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	8月2日(火) ↓ 8月11日(水)	全日本選手権シリーズ第13戦 鈴鹿ロードレース大会 (国際格式)
SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎0224(83)3111	8月31日(水) ↓ 9月9日(金)	全日本選手権シリーズ第14戦 TBCビッグロードレース大会 (国際格式)
日本モーターサイクル協会(MFJ) 〒103 中央区東日本橋2-16-7 第2オカノビル ☎03(865) 8441	筑波サーキット ☎0296(44)3146	9月20日(火) ↓ 9月29日(水)	全日本選手権シリーズ第15戦 MFJグランプリロードレース大会 (国際格式)

15

- 1) ガソリンおよびオイルは国内競技規則・第3章〔競技会〕19 (30頁参照) による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細は公式通知に示される。
- 3) 車両検査および公式予選中は、パドック内の所定の給油区域内においてガソリンの給油を受けなければならない。

16

- 1) 各ピットの使用は、公式通知による。

17

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 定められた時間内に必ず本人または参加者がMFJライセンス、参加受理書を提示して出場資格の確認を受けなければならない。
- 3) MFJライセンスを提示できない者は出場が認められない。

18 車両および装備の検査

- 1) 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、パドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 2) 車両検査のための車両はライダー本人または参加者が持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) ライダーは車両仕様書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。
- 4) 車両検査持込み台数はジュニア部門は出場1レースにつき1台に限定、国際A級部門は2台までとする。(Tカーは同一メーカーに限る)
- 5) 車両検査において、規則または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含まないの走行を拒否される。
- 6) 予選を通過した車両全車に対し、音量測定を行う。
- 7) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両

検査を行うことがある。

19 ライダーの変更

ライダーの変更は、国内競技規則・第3章〔競技会〕21 (32頁参照) による。

20 出場車両の変更

- 1) 車両の変更は国内競技規則・第3章〔競技会〕21 (32頁参照) による。
- 2) ただし、車両変更の申請は同部門、同クラスの車両に限定され、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。

21 公式予選

- 1) 公式予選の内容は細則1〔5〕(35頁参照)による。
- 2) 公式予選の日程および時間は公式通知または公式プログラムに示される。

22 決勝レース出場台数

- 1) 決勝レース出場台数は、開催場所により原則として次の台数以下とする。
 - (1) 鈴鹿サーキット=44台
 - (2) 筑波サーキット=32台
 - (3) スポーツランドSUGO=40台
 - (4) 西日本サーキット=30台
 - (5) 西仙台ハイランドレースウェイ=40台

23 スタートの手順

1. スタート約30分前
ライダーは、マシンと共にコース外のウエイティングエリアに待機する。
2. スタート約15分前 (サイティングラップ)
 - 1) ライダーはコースに出て1周のサイティングラップを行い、スターティング・グリッドにつきエンジンを停止する。サイティングラップは義務付けられてはいない。
 - 2) サイティングラップを行わなかったライダーは……
 - ①ウォーミングアップラップ開始3分前までに定められたグリッドに着かなければならない。
 - ②ウォーミングアップラップ3分前以降は最後尾グリッドにつき事。
 - ③ウォーミングアップラップ1分前以降はピットレーン出口からスタートする。



3) 注意事項

- ① コースに入ったら車両の交換、追加の給油は厳禁される。
- ② 車両の修理はピットレーンのみで許可される。
- ③ タイヤの交換はピットレーン、スターティンググリッド両方で許可される。

3. ウォーミングアップラップ5分前

下記のボードが警告と共に提示される。

- 1) 5分前のボード：カウントダウン(秒読み)開始
- 2) 3分前のボードとレッドライト：当該ライダー、ライダー1名につき2名のメカニックと1名の傘をもつ人間以外の全員がグリッドからはなれる。
- 3) 1分前のボードとイエローライト：当該ライダー以外の全員がグリッドから離れる。ライダー全員にヘルメットの顎ひもがしっかりと締められているかチェックすることを指示するボードが提示される。

4. ウォーミングアップラップスタート

- 1) グリーンフラッグとグリーンライトにて押し掛けスタートする。(外部からの援助なし)
- 2) ウォーミングアップラップの時はライダーは自分のスターティングポジションをキープしなくてはならない。
- 3) ライダーが自分でマシンを押し掛け出来ない場

合。

①ウォーミングアップラップ5分前の合図の時に担当競技役員にこの事を告げる。

②このライダーは、ひとりだけメカニックを連れて、自分のスターティング・ロー(列)と平行した位置のグリッドの右端か左端に移動する。

4) ウォーミングアップラップを走れなかった場合

- ①もしメカニックが補助したにもかかわらず始動出来なかった場合には、ライダーはマシンをピットに入れ、ピットからディレイドスタートする。
- ②ウォーミングアップラップを走れなかったライダーはピットからスタートしなければならない。

5. スタート

- 1) グリッドに戻って来たら、ライダーはエンジンを掛けたままの状態、自分のグリッドポジションで静止する。
- 2) もし問題があった場合には、このライダーはすみやかにピットに戻らなくてはならない。
- 3) スタートを遅らせる事を意図して、ライダーがグリッドにつくことは厳禁される。もしライダーが遅れてグリッドに戻ってきて、既にレッドライトが表示されている事に気が付いたら、このライダーはゆっくりしたスピードでピットにむかわ

なければならない。そしてこのライダーは、ピットからディレイド・スタート（遅れてスタートする事）する。

- 4) スタートライン上、コースの中間地点では、レッドフラッグを持った競技役員が、ライダー全員がグリッドにつくのを待つ。さらにこの競技役員はマーシャルカーが姿を見せるまでそこに残っている。スターターの指示がでたらこの競技役員はコースを離れる。
- 5) レッドフラッグを持った二人目の競技役員がグリッドの最後尾に待機する。もしライダーがマーシャルカーの後ろからやって来たら、グリッド最後尾からスタートするかあるいはピットに戻るよう指示する。
- 6) 列の番号を表示したボードを持つスタートマーシャルはグリッド各列の向かい側に立ち自分の列のマシンが静止したらただちにボードを下げる。すべてのボードが下げられたら、スターターはグリッドが静止していることを確認して「レッドライト」を点灯する。レッドライトが点灯されてから2秒以上5秒以内にレッドライトが変わってグリーンライトが点灯されレースがスタートする。
- 7) スターティンググリッドに戻って来た時点でエンジンが止まったりスタート出来ないライダーが

いた場合

- ①ライダーは手を挙げ、さらにこの列を担当するスタートマーシャルがボードを掲げて（あるいは掲げつづけて）、ボードの反対側の黄色面をスターターに向けることによって、この状況を伝える。
 - ②スターティンググリッドに戻って来たマシンに問題があった場合、スターターはスタートを取り止めるよう判断し下記の手順を取る。
 - A. レッドライトがまだ点灯されていない場合には、スタートディレイド（スタート延期）のボードがスタートラインで掲げられ、レッドフラッグが掲げられる。
 - B. レッドライトがすでに点灯されていたら、スターターは「点滅するイエローライト」を点灯し（レッドライトはそのまま）、さらにスタートディレイドのボードがスタートラインで掲げられる。
- A.B.両方の場合：
- エンジンは停止されスタートの手順は5分前の所から再開される。この場合、レース距離は1周減算される。このような状況で、スタートの手順が1回以上繰り返された場合には、1回ごとに1周ずつ減らされていく。こ



の事はラップカウンターに表示される。

③スタートの合図が出された後に、スタート出来なかった場合のみ競技役員がただちに介入し、エンジンを掛けるためにマシンをコースに沿って押す。もし、数回の試みによってもエンジンが掛からない場合には、競技役員がピットへ運ぶ。

8) グリッド上の全員がピットの出口を通過した後に、ピットレーンで待っているライダーがスタートする。(競技役員により合図が出される)

24 スタートにおける反則

- 1) スタートラインについて車両およびライダーはスタート用意からスタート合図が出されスタートが終了するまで出発合図の統制下にある。
- 2) スタート合図がおこなわれる前に自分のスターティングポジションから前進した場合は1分間のペナルティが科せられる。
- 3) ピットクルーがスタートの規則にしたがわなかった場合も反則とみなされ当該ライダーに1分間、もしくは失格のペナルティが科せられる。
- 4) ペナルティは、当該ライダーのピット要員にただちに通告されるが判定に対する抗議は受けつけられない。

25 レース

- 1) 走行中の遵守事項は国内競技規則・第3章〔競技会〕10(28頁参照)による。
- 2) 如何なる場合でも逆方向への走行あるいは、規定外のコースを走行してはならない。(ショートカット等)これに違反した場合は失格とする。
- 3) レースまたは予選中、直線部分では、前車を追越すために、あるいは後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更することは許されない。

26 レース中の合図

- 1) レース中の合図は、国内競技規則・第3章〔競技会〕14(29頁参照)による。
- 2) 赤旗の使用は、コントロールライン上において、競技監督、または競技総監督の命を受けた代理役員のみに限られる。

27 停車指示

- 1) レース続行が危険とみなされるライダーまたは車両について、競技総監督は、大会審査委員会の同意を得てピットインを命じ、あるいはレースか

ら除外することができる。この決定に対する抗議は受けられない。

- 2) 天災、大事故等不慮の事態が発生した場合は、競技監督は、赤旗によって全ライダーに対し、停止を指示することができる。

28 レースの停止と再スタート

事故または、天候その他の事情で継続が危険になって、レース停止が必要になった場合、競技監督はスタート/ゴールラインに赤旗をかかげ、同時にすべてのコースポストで、黄旗と赤色ストライプのついた黄旗を交差させてかかげ、レースが停止されたことを告げるものとする。

レース停止の決定は、競技監督もしくは、やむを得ない状況の下においては、次席の役員だけがとり得るものとする。

これらの合図が出されたら、ライダーは直ちにレースを停止、徐行してそれぞれのピットに戻るが、その際、そのレースの順位は前ラップの順位によってきまる。

1. レースが再スタートされる条件は次のとおりである。

1) 走行が2周以下の場合:

- (1) もとのスタートは無効とされ、もとのスタートに参加したすべてのライダーはもとの車両、もしくは同一型の車両を使用して再スタートすることができるが、車両変更の場合は、それがTカーとして登録され車検に合格し、レースに適用することを車検長が認めた場合に限られる。

再スタートのレースは全距離にわたって行なわれ、もとのグリッド・ポジションが適用される。再スタートに出場できない車両のグリッドはそのまま空席とされる。

- (2) レースの再スタートが不可能である場合、選手権ポイントは与えられない。
- (3) 再スタートが行なわれる場合は常に、もとのレース停止から原則として30分後に行なわなければならない。

2) 2周以上走行したが、カバーされた距離が総走行距離の75%未満である場合:

- (1) そのレースはふたつの部分に分れるとみなされる。レース前段の順位は、停止に先だつラップ終了時の順位とする。
- (2) 再スタートされたレースの距離は、もとのレースの全距離に達するまでの距離とする。
- (3) 再スタートのグリッドにおける車両のポジションは、計時長が前段終了時の順位に基づいて決定する。
- (4) レース前段において順位を得たライダーだけ

が再スタートを認められる。

車両の修理、あるいは交換が認められる。国内競技規則・第3章〔競技会〕21(32頁参照)。

- (5) レース再スタートが不可能である場合は、正規の選手権ポイントの1/2が与えられる。
- (6) レースがふたつの部分から成る場合、各部分のラップ数が集計され、最大数のラップを走行したライダーが優勝者になる。

ラップ数で同位になった場合は、それらに要したタイムが優勝者決定のきめ手になる。

- 3) 全距離の75%以上がカバーされた場合：
 - (1) レース成立が宣言される。レース停止に先立つラップ終了時の順位がレースの順位になる。
 - (2) 正規の選手権ポイントが与えられる。

29 棄権(リタイア)と停止

- 1) リタイアと停止は、国内競技規則・第3章〔競技会〕14(29頁参照)による。
- 2) ライダー本人が負傷その他の理由でリタイア届を提出できないときには、競技役員の評定により、リタイアと認めることができる。
- 3) ビット以外の地域でリタイアする場合、ライダーは車両をレース(または予選)終了まで競技役員の下におかななければならない。ただし、競技役員から車両移動を指示された場合は、これに従わなければならない。
- 4) 車両を押してビットに帰る場合は必ずコース両サイドのいずれか片側のグリーンを歩くこと。その際必ずヘルメットを着用する事。
- 5) コース外側より、作業もしくは工具・部品等の援助を受けてはならない。この場合は失格とされる。

30 レース終了

各レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップのライダーがゴールインしたのち次の時間を経過したときである。

鈴鹿サーキット	4分間
筑波サーキット	2分間
スポーツランドSUGO	3分間
西日本サーキット	3分間
西仙台ハイランドレースウェイ	3分間

31 優勝者、入賞者、完走者および順位

優勝者、入賞者、完走者および順位は細則1〔7〕(37頁参照)による。

32 レース終了後の車両の保管と再検査

- 1) 上位入賞車両は、所定の位置より競技役員の手導にしたがって車両保管区域へ入らなければならない。
- 2) 上位入賞車両は音量測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査をおこなうことがある。
- 3) 上位入賞車両は暫定結果発表後30分以上保管される。

33 レースおよび大会の延期・中止等

- 1) 大会は、原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が、支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。公式予選終了後の中止については決勝進出者のみエントリー料が返却される。

34 抗議

- 1) 抗議は、国内競技規則・第3章〔競技会〕26(33頁参照)による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。

35 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、国内競技規則・第3章〔競技会〕29(33頁参照)による。

36 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑の申立てができる。なお、この回答は大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

37 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込み受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。

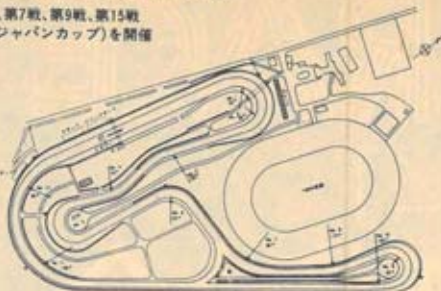
昭和63年1月1日

全日本選手権大会事務局長

●筑波サーキット

(1周=2045mのクロードサーキット)

第3戦、第7戦、第9戦、第15戦
(MFJジャパンカップ)を開催



茨城県結城郡千代川村岡字西原

●鈴鹿サーキット

(1周=5913.58mのクロードサーキット)

三重県鈴鹿市福生町7992

第1戦、第2戦、第4戦、第8戦、第13戦を開催



三重県鈴鹿市福生町7992

●西日本サーキット

(1周=2,815.5mのクロードサーキット)

第5戦を開催



山口県美祿市西原保町高尾

●スポーツランドSUGO

(1周=3,737.50mのクロードサーキット)

第6戦、第10戦、第12戦、第14戦を開催



宮城県柴田郡村田町菅生

●西仙台ハイランドレースウェイ

(1周=3,737.44mのクロードサーキット)

第11戦を開催



宮城県宮城郡宮城町新川字早坂山12



ROAD RACE

[細則]4

'88地方選手権大会 特別規則

▶ 公示 ◀

本選手権はFIM国際スポーツ連盟並びにMFJ国内競技規則に準拠して、MFJ公認のもとに行われるものである。

また、本選手権の基本的精神は、中級・初級ライダーの育成を主眼とし我が国のモーターサイクリングスポーツの振興に貢献することを目的とするものである。

1 開催選手権.....㉔	13 レース出場車両.....㉑	25 レース中の合図.....㉒
2 運営実行組織.....㉕	14 ライターの装備.....㉑	26 停車指示.....㉒
3 公式通知、タイムスケジュール.....㉕	15 カソリン及びオイル.....㉑	27 レースの停止と再スタート.....㉒
4 開催種目.....㉕	16 ビット割当.....㉑	28 棄権（リタイア）と停止.....㉒
5 参加資格.....㉕	17 出場受付.....㉑	29 レース終了.....㉒
6 参加条件.....㉕	18 車両及び装備の検査.....㉑	30 優勝者、入賞者及び順位.....㉒
7 参加申し込み.....㉕	19 出場車両の変更.....㉑	31 レース終了後の車両の保管と再検査.....㉒
8 参加定員.....㉕	20 ライダーの変更.....㉑	32 レース及び大会の延期・中止等.....㉒
9 参加受理.....㉕	21 公式予選.....㉑	33 抗議.....㉒
10 公式通知.....㉕	22 スタート.....㉑	34 違反に対する罰則.....㉒
11 出場料及び保険料.....㉑	23 スタートにおける反則.....㉑	35 本規則の解釈.....㉒
12 賞及び得点.....㉑	24 レース.....㉑	36 本規則の施行.....㉒

7 開催選手権

●開催選手権及び出場申し込み先

HSPロードレース選手権シリーズ

HSP 北海道スピードパーク

〒044 北海道虻田郡倶知安町字峠下155

TEL : 0136-23-3880

SUGOロードレース選手権シリーズ

SUGO スポーツクラブ :

〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内

TEL : 0224-83-3111

西仙台ハイランドロードレース選手権シリーズ

ハイランドレースウェイクラブ(Hi-Rao) :

〒989-31 宮城県仙台市新川早坂山12

TEL : 022-395-2120/2123

筑波ロードレース選手権シリーズ

(財)日本オートスポーツセンター : (第1戦、第2戦、第4戦、第5戦)

〒105 東京都港区虎ノ門1-5-8

MFJ関東ブロック協議会 : (第6戦)

〒108 東京都港区港南3-3-10

TEL : 03-472-6241

スタッフハウス : (第3戦、3H耐久)

〒103 東京都中央区日本橋人形町3-7-11 三福ビル7F

鈴鹿ロードレース選手権シリーズ(第1戦~4戦)

テクニカルスポーツ :

〒513 三重県鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド株式会社社内

TEL : 0593-78-1455

鈴鹿ロードレース選手権シリーズ(第5戦~10戦)

(株)鈴鹿サーキットランド :

〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992

TEL : 0593-78-1111

中山ロードレース選手権シリーズ

山陽レーシングクラブ :

〒709-04 岡山県和気郡和気町大中山751
TEL: 08699-3-2333

西日本ロードレース選手権シリーズ

MFJ山口県モーターサイクルスポーツ協会
〒751 山口県下関市秋根南町2-4-25
ヤマモトラシング内
TEL: 0832-56-1406

●現在公認手続き中の施設の選手権(公認後正式となる)

サホロロードレース選手権シリーズ

サホロスポーツランドクラブ:
〒081 北海道上川郡新得町字新内西2線
サホロスポーツランド内ロードレース係
TEL: 01566-4-5100

エビスロードレース選手権シリーズ

エビスサーキット:
〒964 福島県二本松市沢松倉1番地
TEL: 0243-24-2972

阿讃ロードレース選手権シリーズ

術モーターランド阿讃:
〒771-25 徳島県三好郡三好町大字車山字滝久保319
TEL: 0883-79-3705

2 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される

3 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

4 開催種目

地方選手権シリーズの開催部門、クラス区分は表1の通りである。※○は昇格ポイント対象クラス

5 参加資格

1. ライダー

当該年度有効なMFJロードレース競技ライセンス所持者。ただし満20才未満のライダーは参加申込み書の誓約書に親権者の署名と捺印とその印鑑証明書を必要とする。

2. ビットクルー

当該年度有効MFJビットクルーライセンス所持者。

6 参加条件

1. 最低限ビットクルー1名以上でチームを組むこと。要員不足の場合はエントリーを受け付けない。

7 参加申し込み

1. 申し込み方法

- 1) 参加申し込みは申し込み書に記入の上、参加料と保険料を添えて現金書留もしくは郵便振替で送ること。尚、メ切り消印有効
- 2) 申し込み先は本競技規則〔1〕項に示す。
- 3) 主催者より支給された申し込み用紙に記載事項のすべてを指示どおり記入し、競技規則を厳守することを誓約しなければならない。
- 4) 電話による申し込み受付は一切認めない。
- 5) 1大会のダブル(トリプル)エントリーの場合の車両は同一マシンでは認められない。

8 参加定員

1. 各大会の運営若しくはタイムスケジュール上、参加受付を制限することがある。そ場合の参加受付の優先順位は原則として申し込み順とする。
2. 参加申し込み台数が1クラス10台未満の場合はそのクラスのレースを取り消すことがある。

9 参加受理

- 1) 必要事項を記入した出場申し込み書、必要金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が送られる。
- 2) いったん受理された出場料、保険料はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。大会が取りやめになった場合、参加者が拒否された場合(申し込み者が必要な手続きを怠った場合はこれにあてはまらない)にのみ出場料、保険料が返還される。
- 3) 主催者は参加者に対してその理由を明らかにすることなく申し込みを拒否、または無効とする権限を有する。

10 公式通知

1. 本規則に記載されていない競技運営に関する実施細則および参加者への指示事項は公式通知によって示す。
2. 公式通知は申し込み締切り後に発表される。

〈表1〉 地方選手権シリーズの開催部門、クラス区分

選手権	開催 月日	地方選手権対象種目									その他	
		昇格ポイント対象外				昇格ポイント対象			昇格ポイント対象外			
		SP125	SP250F	SP250	SP400	N125	N250	NF-3	J125	J250		JF-3
HSP ロードレース 選手権	第1戦	5/28-29	●	●	●	●	●	○	●		●	550
	第2戦	6/18-19	●	●	●	●	●	○	●		●	550
	第3戦	7/16-17	●	●	●	●	●	○	●		●	550
	第4戦	8/20-21	●	●	●	●	●	○	●		●	550
	第5戦	9/17-18	●	●	●	●	●	○	●		●	550
	耐久	10/15-16			● ^{2H}	● ^{2H}			● ^{2H}		● ^{2H}	混走
SUGO ロードレース 選手権	第1戦	4/30-5/1	●	●	●	●	○	○		●		
	第2戦	6/18-19	●	●	●	●	○	○	○		●	
	第3戦	8/6-7	●	●	●	●	○	○	○			
	第4戦	9/10-11	●	●	●	●	○	○	○	●		
	第5戦	11/6	●	●	●	●	○	○	○	●		
	耐久	11/19-20	● ^{90分}	● ^{90分}	● ^{3H}	● ^{3H}						
西仙台 ハイランド ロードレース 選手権	第1戦	4/16-17	●	●	●	●	○	○	○		●	550
	耐久	5/7-8	● ^{2H}	● ^{2H}	● ^{4H}	● ^{4H}			● ^{4H}		● ^{4H}	
	第2戦	6/11-12	●	●	●	●	○	○	○		●	580
	第3戦	7/23-24	●	●	●	●	○	○	○	●		550
	第4戦	9/24-25	●	●	●	●	○	○	○			580
	第5戦	10/22-23	●	●	●	●	○	○	○			550, レディスSP
筑波 ロードレース 選手権	第1戦	3/19-20			●	●	○	○	○			550
	第2戦	4/30-5/1	●	●	●	●	○	○	○			580
	第3戦	7/9-10	●	●	●	●	○	○	○			550
	第4戦	9/3-4			●	●	○	○	○			580
	第5戦	10/1-2	●	●	●	●	○	○	○			580
	第6戦	11/12-13	●	●	●	●	○	○	○			550-580
鈴鹿 ロードレース 選手権 (サンデーオー トバイレース)	耐久	9/17-18			● ^{3H}	● ^{3H}						
	第1戦	11/8				●			○			
	第2戦	12/20		●			○	○				
	第3戦	1/24					○	○	○			
	第4戦	3/6		●			○	○	○			
	第5戦	4/23-24				●		○				
	第6戦	6/11-12				●			○			
	第7戦	6/26		●			○	○	○			
	第8戦	7/22-30				● ^{4H}	○	○	○ ^{4H}			4H・2H
	第9戦	9/10-11					○	○				
中山 ロードレース 選手権	第10戦	12/4		●	●	○	○	○				チャンピオン 大会
	第1戦	3/20					○	○	○	●	●	
	第2戦	6/5					○	○	○	●	●	
	第3戦	9/25					○	○	○	●	●	
	第4戦	10/23					○	○	○	●	●	
西日本 ロードレース 選手権	第1戦	2/21	●	●	●				○	●	●	550-580 ST650
	第2戦	4/3					○	○	○	●	●	
	第3戦	4/17	●		●	●						550-580 ST650
	第4戦	4/30							○			
	第5戦	5/29			● ^{2H}	● ^{2H}			○	●		2H
	第6戦	7/10	●	●	●	●	○	○	○			550-580 ST650
	第7戦	8/28		●	●		○	○	○		●	
	第8戦	10/2					○	○	○	●	●	
	第9戦	11/13	●	●	●	●						550-580 ST650

※下記の選手権はサーキットが公認申請中であり、公認取得後有効となる。

選手権	開催 月日	地方選手権対象種目									その他	
		昇格ポイント対象外				昇格ポイント対象			昇格ポイント対象外			
		SP125	SP250F	SP250	SP400	N125	N250	NF-3	J125	J250		JF-3
サホロ ロードレース 選手権	第1戦	8/7	●	●	●	●			○			
	第2戦	9/4	●	●	●	●			○			
	第3戦	10/2	●	●	●	●			○			
エビス ロードレース 選手権	第1戦	8/21	●	●	●	●			○		●	
	第2戦	9/11	●	●	●	●			○		●	
	第3戦	11/3	●	●	●	●			○		●	
阿讃 ロードレース 選手権	第1戦	4/3			●	●						550 580
	第2戦	5/8			●	●						550 580
	第3戦	9/4			●	●	○	○				550 580
	第4戦	10/9					○	○				550 580
	第5戦	11/20					○	○				550 580

3. 公式通知の通達。

- 1) 開催日の前日までに参加者へ送付。
- 2) 開催期間中、大会本部に掲示。

77 出場料及び保険料

- 1) 出場料はそれぞれの大会特別規則に示す。
- 2) MFJ共済費は全クラス3,500円。
※共済掛金は全クラス共1口に限られます。

72 賞及び得点

1. 賞
 - 1) 賞の詳細については公式通知に示される。
2. 地方選手権ランキングの得点
 - 1) 得点は細則9〔MFJライセンス昇格・降格に関する規則〕2(88頁参照)によって与えられる。

13 レース出場車両

車両は、細則2・ロードレース車両規則を厳守しなければならない。

14 ライダーの装備

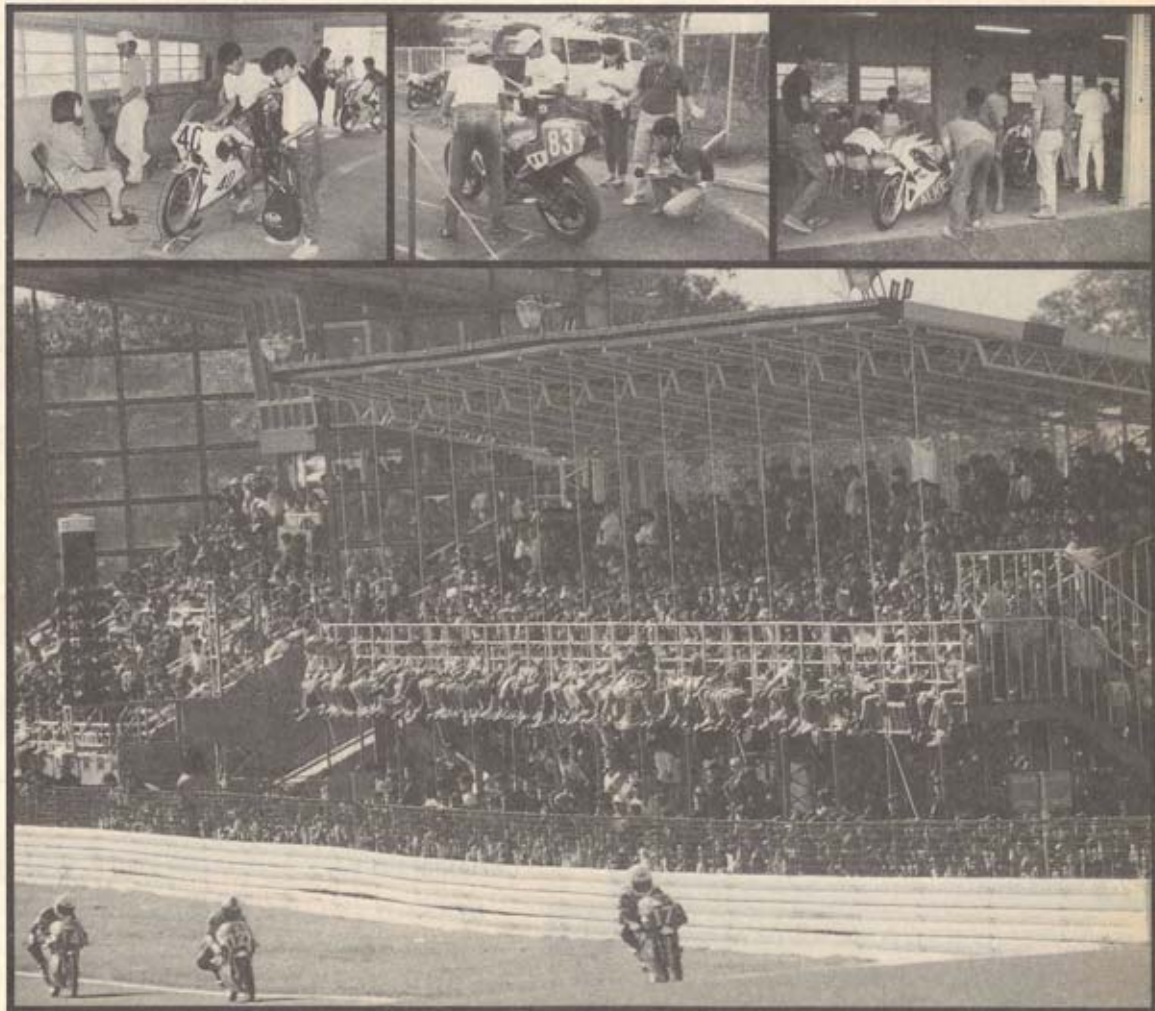
細則3・'88全日本選手権特別規則14(49頁)に示される。

15 ガソリン及びオイル

細則3・'88全日本選手権特別規則15(52頁)に示される。

16 ピット割当

- 1) 各ピットの使用は、公式通知による。



17 出場受付

細則3・'88全日本選手権特別規則17(52頁)に示される。

18 車両及び装備の検査

下記項目以外は細則3・'88全日本選手権特別規則に示される。

- 1) 車両格査持込み台数はノービスおよびジュニア部門は出場1レースにつき1台に限定。
- 2) 予選を通過した車両全車に対し、原則として音量測定を行う。

19 出場車両の変更

細則3・'88全日本選手権特別規則20(52頁)に示される。

20 ライダーの変更

細則3・'88全日本選手権特別規則19(52頁)に示される。

21 公式予選

細則3・'88全日本選手権特別規則21(52頁)に示される。

22 スタート

スタート方法

- 1) スタート方法は同時スタートとし、下記の2種類があり、公式通知に示される。
 - (1) 押がけスタート
 - (2) クラッチスタート

23 スタートにおける反則

細則3・'88全日本選手権特別規則24(55頁)に示される。

24 レース

細則3・'88全日本選手権特別規則25(55頁)に示される。

25 レース中の合図

細則3・'88全日本選手権特別規則26(55頁)に示される。

26 停車指示

細則3・'88全日本選手権特別規則27(55頁)に示される。

27 レースの停止と再スタート

細則3・'88全日本選手権特別規則28(55頁)に示される。

28 棄権(リタイア)と停止

細則3・'88全日本選手権特別規則29(56頁)に示される。

29 レース終了

各レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップのライダーがゴールインしたのち原則として1kmを1分として、コース一周距離を走行するに等しい時間を経過したときである。

30 優勝者、入賞者及び順位

細則3・'88全日本選手権特別規則31(56頁)に示される。

31 レース終了後の車両の保管と再検査

細則3・'88全日本選手権特別規則32(56頁)に示される。

32 レー及び大会の延期・中止等

細則3・'88全日本選手権特別規則33(56頁)に示される。

33 抗議

細則3・'88全日本選手権特別規則34(56頁)に示される。

34 違反に対する罰則

細則3・'88全日本選手権特別規則35(56頁)に示される。

35 本規則の解釈

細則3・'88全日本選手権特別規則36(56頁)に示される。

36 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込み受け日より有効となる。なお、本規則に示されていない事項はMFJ国内競技規則による。

昭和63年1月1日

地方選手権大会事務局長

MOTOCROSS

[細則5]

モトクロス競技細則



1 適用の範囲.....	63	7 改造の限度.....	65
2 モトクロス.....	63	8 ライダーの装備.....	67
3 コースの仕様.....	63	9 公式予選.....	68
4 出場車両.....	63	10 レース.....	68
5 MFJ公認車両・公認部品.....	63	11 優勝者、入賞者順位、完走者および得点.....	68
6 総合仕様.....	63		

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則と共にすべての国内モトクロス競技会に適用される。

2 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走路方向が急変化する等の地形のところで行なわれるクロスカントリー・レースであり、国内競技規則およびこの細則により管理される。

3 コースの仕様

コースの長さは1周1km以上2km以下とし、その幅は少なくとも追い越し可能なコース等であり、モトクロス会場に関する規則に準拠し、適切なレーシングコンディションと安全性を確保されていなければならない。

い。

4 出場車両

車両は細則5の6.総合仕様と7.改造の限度をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。なお、改造されて型式(モデル)が判明できないような車両は出場することはできない。

5 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および公認部品は国内競技規則・第3章〔競技会〕18(30頁)を参照。

6 総合仕様

車両は安全のために次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) クラス区分

- (1) 車両のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。
- (2) 最大限ギヤ段数・最低重量は下表のとおりとする。最低重量は半乾燥重量とする。半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいい、分離給油式の場合の潤滑オイルも燃料とみなす。なお、最低重量をみたすためのダミーウエイトは装着してはならない。

クラス	最小排気量	最大排気量	最大ギヤ段数	最低重量
80cc	51cc	80cc	6	61kg
125cc	100cc	125cc	6	88kg
250cc	175cc	250cc	6	98kg

2) ブレーキ

前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキをそなえていなければならない。

3) タイヤ

タイヤチェーン、スパイク等を加工装備してはならない。

4) ハンドルバー

ハンドルの端から端までの幅は最小600mm、最大850mmでなければならない。

5) クラッチとブレーキレバー

- (1) 原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19mm）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、いかなる場合においてもその端部は丸くなっていてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14mmとする）。これらの端部は固定されており、レバーと一体構造でなくてはならない。

6) フェンダー

- (1) フェンダーはタイヤの両側方に張り出していなければならない。
- (2) フロントフェンダーはタイヤの周囲を少なくとも100度にわたってカバーしていなければならない。また、フェンダーの前端とタイヤの中心を結ぶ線とタイヤの中心を通る水平線の角度は最小45度、最大60度でなければならない。
- (3) リヤフェンダーはリヤ・ホイール・スピンドルを通る垂直線と、その垂直線に25°角度で後方に引かれる線にカバーされる弓形部の後方におよんでいなければならない。

マッドガード端部は丸くして、その半径は最低8mm、最高60mmとする。(図66頁を参照)

もし必要である場合には、審査委員会はフロント・マッドガードの取り外しを許可することができる。

- (4) フロントフェンダーのみ主催者が認めた場合に限り、取り外すことができる。

7) フートレストおよびペダル

- (1) フートレストは前後車軸の中心を通る線の上方50mm以内に、またリヤタイヤの中心を通る垂線の前側になるよう取り付けられ、どのコントロールペダルも容易に操作できる位置になくてはならない。
- (2) フートレストの先端は最低半径8mmに丸められていなければならない。
- (3) ペダルの先端の角は、安全上丸められていなければならない。

8) 過給

過給器を取付けたり過給をしたりしてはならない。

10) 音量

- (1) 音量はFIM方式による測定方法・国内競技規則・第3章〔競技会〕20(31頁参照)で、106db/A以下でなければならない。
- (2) 4サイクル型エンジンについては、5db/Aの誤差値が認められる。

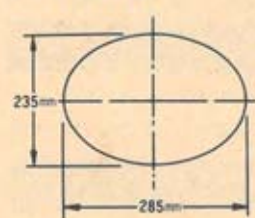
11) マフラーおよびサイレンサー

- (1) マフラーおよびサイレンサーは規定の音量値を満足できるものでなければならない。
- (2) サイレンサーの端部は、リヤタイヤ後端を通る垂直線より突出してはならない。

12) レースナンバープレート

- (1) ナンバープレートの大きさ
ナンバープレートは、第1図に示す大きさ以上のものでなければならない。
- (2) 取り付け方法
ナンバープレートは、車両の前面に1枚を前向きに、車両の両側面に各1枚を垂直方向に取り付けなければならない。
- (3) ナンバープレートの色分け (18頁参照)
ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

レースナンバープレートの大きさ〔第1図〕



- KIDS部門=黒地に白文字
- ノービス部門=白地に黒文字
- ジュニア部門=黄地に黒文字
- 国際B級部門=緑地に白文字
- 国際A級部門125ccクラス
=赤地に白文字
- 国際A級部門250ccクラス
=赤地に黄文字

(4) ナンバーの字体

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない

い。角ばった字体や斜体であってはならない。

なお、蛍光色の文字の使用は禁止する。

- 13) 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構造であってはならない。
- 14) 一般生産型のモーターサイクルについて
- (1) 下記部品を取り外さなければならない。
 - ① スタンド類 ② キャリア類
 - ③ タンデム・フットレスト
 - ④ 車両番号標板（ブラケットごと）
 - ⑤ バックミラー
 - ⑥ ライト類およびガラス類（ただし、レンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい）
 - ② ゼッケンナンバープレートを取りつけないなければならない。

7 改造の限度

競技の公平および安全性に関連して次のような改造の制限を定める。

1) 国際A級部門の車両改造の限度

- (1) 車両は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

2) 国際B級、ジュニア、ノービス部門の車両改造限度

車両は市販レーサーおよび一般生産型モーターサイクルでMFJが公認したものでなければならない。車両改造限度は右記に示すとおりとする。

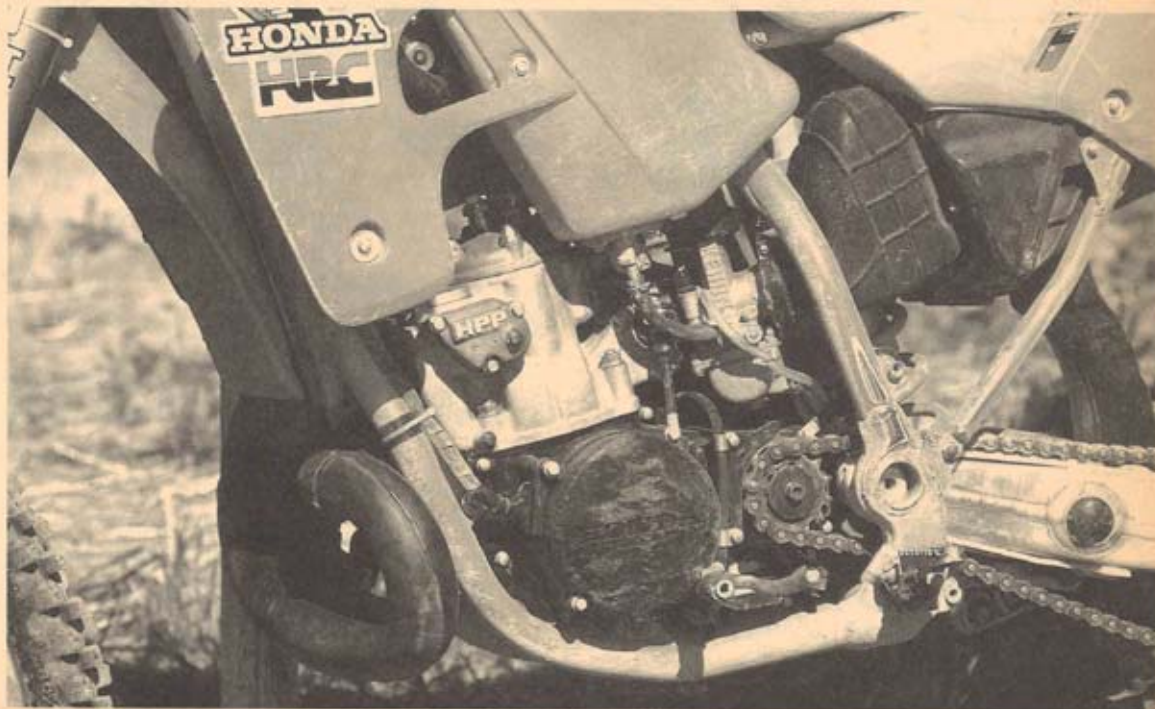
〔1〕市販レーサーの車両改造限度

市販レーサーをベースとし改造を行なう場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

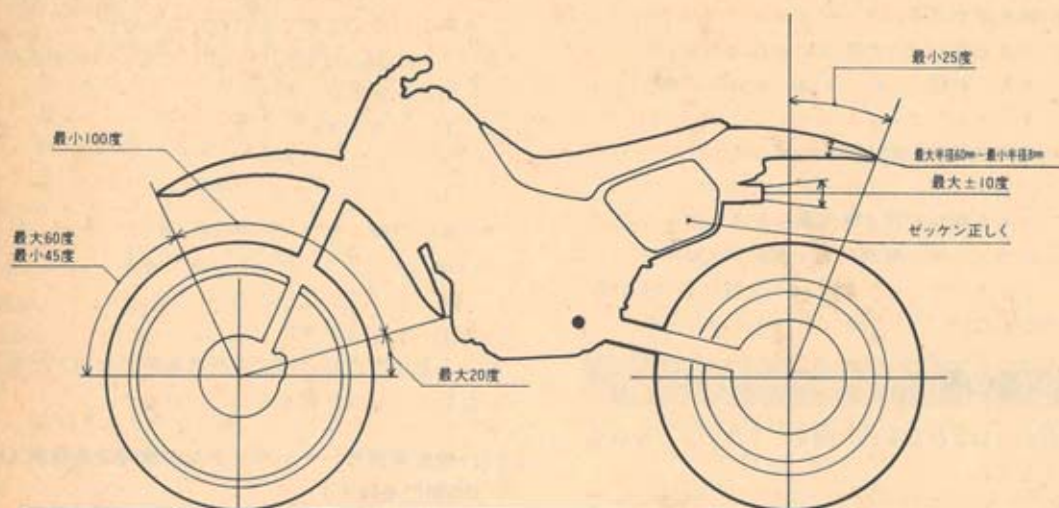
- 1) フレームの基本骨格及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。
- 2) 下記の部品はMFJが公認したもののみ変更する事が出来る。
 - (1) シリンダー
 - (2) シリンダーヘッド
 - (3) ミッション
 - (4) フロントフォーク
 - (5) リヤサスペンションユニット
 - (6) スイングアーム
 - (7) キャブレター
- 3) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

〔2〕一般生産型モーターサイクルの車両改造限度〔KIDS部門を除く〕

- 1) フレームの基本骨格は公認型式のものでなければならないが、補強等はおこなってもよい。
- 2) 変速機のギヤ段数は6段を限度とする。
- 3) 異った機種のエンジン、フレームの組み合わせは公認車両同士に限りおこなうことができる。ただし、小排気量車のフレームと大排気量車のエンジンを組み合わせることはできない。
- 4) クランクケース本体やクランクシャフト・アッセンブリーは公認型式のものでなければならない。



総合仕様参考図



90

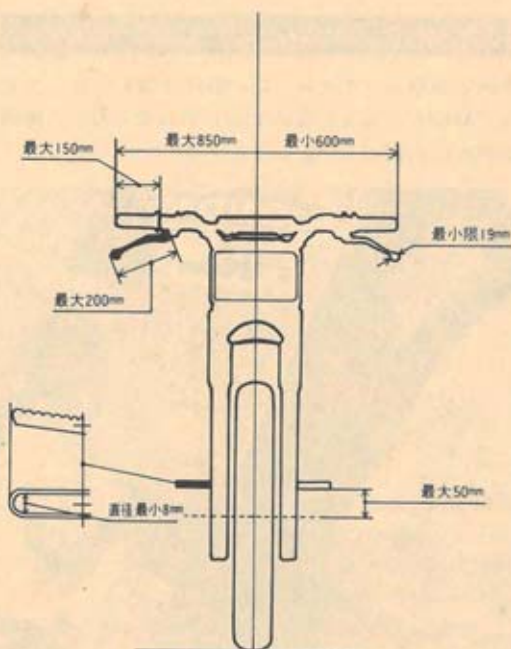
12

34

56

78

90



ゼッケンナンバーの見本

- 5) クランクケースおよびミッションケース外に変速装置をつけ加えてはならない。
- 6) 冷却方式を変更してはならない。
- 7) 弁形式を変更してはならない。
- 8) 燃料吸入方式を変更（フューエルインジェクターの取り付け等）してはならない。
- 9) 下記部品はMFJが公認したMFJ公認部品、又は同一銘柄の公認車両の部品のみ交換することができる。
 - (1) シリンダー
 - (2) シリンダーヘッド
 - (3) ミッション
 - (4) フロントフォーク
 - (5) リヤサスペンションユニット
 - (6) スイングアーム
 - (7) キャブレター
- 9) 上記以外の部品の改造変更は自由とする。ただし、総合仕様をみだしていること。

3) KIDS・Lライセンス部門の車両改造限度

車両は市販レーサーおよび一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

(1) 市販レーサーの改造限度

車両はMFJ公認車両とし、改造は一切認めない。但しライディングポジションを合わせるための調整変更は認める。

(2) 一般生産型モーターサイクルの改造限度

- 1) 変更してもよい部品
 - ① ハンドルおよびその附属品
 - ② コントロール・ケーブルワイヤー類
 - ③ タイヤ
 - ④ フートレスト
 - ⑤ フェンダー
 - ⑥ シート
 - ⑦ 消音器の内部
 - ⑧ エアクリーナー
 - ⑨ 点火プラグ
 - ⑩ メインスイッチ
 - ⑪ ペダル類
 - ⑫ スプロケット
 - ⑬ チェーンケース
- 2) 前記1)変更してもよい部品以外は一切変更、改造を認めない。

8 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982-C種及びJIS-T8133-2種(JIS-T8133の1982年8月までの規格)、USA S.I. STANDARD-Z90-1-1970、米国スネル規格1980によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するジェット型かフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。



- 2) MFJの公認したヘルメットには、認証マークが貼付されている。
- 3) 競技会の車両検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。
- 4) MFJ公認の認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料金(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。



ヘルメットにはゴールド地の認証マークが貼付されていなければならない。

2. ゴーグル

ガラスを用いたゴーグルの使用はいっさい禁止される。枠は柔軟なもの、または転倒等による衝撃を受けた場合でも危険でないものでなければならない。

3. ライダーの服装

- 1) 服装はレース中ライダーの身体の安全を確保し、操縦技術を妨げるものであってはならない。
- 2) 下半身は皮製または革と同等以上の耐摩耗性、耐熱性を有する材質のズボンを着用しなければならない。
- 3) 上衣は特に規制しないが、安全で自由な動作を

妨げず、丈夫なものを着用しなければならない。

- 4) 突出部品のない革、または革と同等以上の性能をもつ手袋および靴を着用しなければならない。
- 5) ライダーは競技会中、合成繊維（ナイロン、テトロン等）製の肌着を着用してはならない。

9 公式予選

1. 公式予選の日程

- 1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 2) 公式予選の日程は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- 1) そのクラスの出場申し込み台数が、規定の同時出走最多台数（30台）を大きく越えた場合、決勝進出者決定のための公式予選がおこなわれる。
- 2) 公式予選は、原則として大会公示に示される周回数のレースによっておこなわれる。
- 3) 決勝進出台数は特別規則に示される。

10 レース

1. スタートの位置

レースにおけるスタート位置の決定方法は特別規則に示される。

2. スタートまでの行動

- 1) ライダーは、特別規則に定められたタイムスケジュールを厳守しなければならない。
- 2) ライダーは、レース直前のチェックの後、車両とともに指定区域内に待機していなければならない。
- 3) エンジンのウォーミングアップは特別規則に定められた時間内のみ行うことができる。

3. スタート

- 1) スタートの方法については、原則として各部門ともエンジンランニングスタートとし、その際、必ずヘルメット上部に左手をあてて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。
ただし、スターティングマシンを使用する場合は上記の待機姿勢をとらなくてもよい。
- 2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされるものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
- 3) スターティングマシンが使用される場合は、車

両の位置は原則としてスターティングマシンの後方の区域内とする。

- 4) スタートの合図は、スタート係が国旗を振ることによっておこなわれる。ただし、スターティングマシンを使用する場合はこの限りではない。
- 5) スタート合図以前にスタート・ラインを出たものがあつた場合は、スタート・ライン前方において赤旗が振られ、スタートをやりなおす。ただし、同一ライダーが再びフライングをした場合は失格とする。

4. コースアウト

ライダーは、走行中やむをえず定められたコースを外れた場合、再びコースにもどるには外れ出た地点より走行し直さなければならない。

5. レース終了

レースの終了は優勝者の完走後、チェッカーフラッグが振られ、マーシャルが定位置を離れること、またはマーシャルカーがコースを一巡することによって示される。

11 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は定められた周回数またはレース時間プラス2周を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の順位の優先順序

- 1) レース終了時までにはゴールラインに達しない走行中の完走者。
- 2) 完走周回数をまっとうしたのち、リタイアした者。
- 3) 上記以外の者については周回数の多い者を優先する。

4. 完走者

各レースにおいて、優勝者の75%以上の周回数を完了してチェッカーを受けたライダーが完走者である。

得点

- 1) 得点は国内競技規則・第3章〔競技会〕16（30頁参照）によって得点が与えられる。
- 2) オープンクラスに関しては自動昇格得点対象外とする。

MOTOCROSS

[細則]6

'88全日本選手権大会 特別規則

1 開催競技会	69	13 ゼッケンナンバー	71	25 スタート	74
2 運営・実行組織	69	14 ライターの装備	72	26 レース	74
3 公式通知・タイムスケジュール	69	15 ガソリンおよびオイル	72	27 レース中の合図	74
4 開催部門・クラス	69	16 ビットエリア	72	28 レース終了	75
5 競技内容	70	17 出場受付	72	29 優勝者、入賞者および得点	75
6 参加定員	70	18 車両検査	73	30 入賞車両の検査	75
7 参加資格	71	19 ライターの変更	73	31 レースおよび大会の延期、中止等	75
8 出場申込み	71	20 車両の変更	73	32 抗議	75
9 出場料およびMFJ共済会掛金	71	21 部品の変更	73	33 レース中の違反行為に対する罰則	75
10 参加受理	71	22 自由練習および公式練習	73	34 本規則の解釈	75
11 賞および得点	71	23 国際A級部門の競技方法	73	35 本規則の施行	75
12 出場車両	71	24 公式予選	73		

1 開催競技会(次頁に提示)

2 運営・実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

3 公式通知・タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

4 開催部門・クラス

1) 全日本選手権シリーズの開催部門、クラス区分は下記のとおりである。

部 門	ジュニア	国際B級	国際A級
ク ラ ス	125cc	125cc	125cc
	250cc	250cc	250cc

3) 国際A級部門は、全日本選手権シリーズを前期、後期の2期制とし、125ccと250ccを半期づつのシリーズ戦とする。1大会1クラス(125ccまたは250cc)のみ開催。なお、日本グランプリ大会も1クラスのみとする。

- (1) 前期は250ccシリーズとし、第1戦中国大会から第6戦東北(SUGO)大会までの全6戦とする。
- (2) 後期は、125ccシリーズとし、第7戦北海道大会から第11戦日本グランプリ大会までの全5戦とする。

※予告事項

'89年度シリーズ戦は前期を125ccシリーズ、後期を250ccシリーズとする。

セミファイナル 7周～10周、または
15分+1周
ラストチャンス 5周～7周、または
10分+1周

注：上記競技内容は天候等の都合により、大会審査委員会の決定によって変更される場合がある。

5 競技内容

ノービス 10分+2周または左記時間に相当する周回数
ジュニア 15分+2周または左記時間に相当する周回数
国際B級 25分+2周または左記時間に相当する周回数
国際A級 30分+2周または左記時間に相当する周回数
(ファイナルレース)

6 参加定員

定員は定めない。

開催競技会の日程、名称、主催場所、出場申込み期間

'88年全日本選手権シリーズは日本グランプリを含め下表の11戦が開催される。

日程	大会名称	主催(出場申込み先)	開催場所	エントリー期間 (消印有効)
▲ 3月19日(土) 20日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 中国モトクロス大会	MFJ 中国ブロック協議会 〒753 山口県山口市葵一丁目5-58 山口県軽自動車協会内 ☎0839-22-3377	山口県 岩国市通津沖 団地特設モト クロス場	2月10日(休) 2月19日(金)
▲ 4月2日(土) 3日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 関東モトクロス大会	MFJ 関東ブロック協議会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03-472-6241	埼玉県川島町 セーフティパ ーク埼玉	2月24日(休) 3月4日(金)
▲ 4月16日(土) 17日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 九州モトクロス大会	MFJ 九州ブロック協議会 〒816 福岡県福岡市博多区半道橋2-7-70 西京ホンダ販売株内 ☎092-474-6196	大分県 大分アフリカ ンサファリ	3月9日(休) 3月18日(金)
▲ 5月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 中部モトクロス大会	主催：株式会社サーキットランド 申込先：株式会社サーキットランド 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎0593-78-1111	三重県 鈴鹿サーキット モトクロス コース	3月30日(休) 4月8日(金)
▲ 5月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 四国モトクロス大会	四国ブロックモーターサイクルスポーツ協会 連絡協議会 〒761 香川県高松市郷東町140 ☎0878-82-3212	香川県 オートランド 香川	4月13日(休) 4月22日(金)
♥ 6月4日(土) 5日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 東北モトクロス大会	主催：東北ブロックモーターサイクルスポ ーツ協会連絡協議会 申込先：〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO ☎0224-83-3111	宮城県スポ ーツランドSU GOモトクロ スコース	4月27日(休) 5月6日(金)
♥ 7月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 北海道モトクロス大会	北海道ブロックモーターサイクルスポーツ協 会連絡協議会 〒065 北海道札幌市東区東麻米3条1-4-3 ☎011-782-1492	北海道留寿都 村ルーツ高原 カントリーラ ンド	6月1日(休) 6月10日(金)
♥ 8月20日(土) 21日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 東北モトクロス大会	主催：東北ブロックモーターサイクルスポ ーツ協会連絡協議会 申込先：〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO ☎0224-83-3111	岩手県 ハートランド 岩手	7月13日(休) 7月22日(金)
♥ 9月3日(土) 4日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 近畿モトクロス大会	MFJ 近畿ブロック協議会 〒550 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 大阪府二輪車安全普及協会 ☎06-541-5254	奈良県 名阪スポ ーツラ ンド	7月27日(休) 8月5日(金)
♥ 9月17日(土) 18日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 中部モトクロス大会	中部ブロックモーターサイクルスポーツ協会連 絡協議会 〒466 愛知県名古屋市昭和区天白町 八事字富士見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会内 ☎052-833-9676	愛知県名古屋 市金城埠頭	8月10日(休) 8月19日(金)
♥ 10月1日(土) 2日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 第25回モトクロス日本グランプリ大会 (国際格式)	日本モーターサイクル協会(M.F.J.) 〒103 東京都中央区東日本橋2-16-7 第2オカノビル7F ☎03-865-8441	三重県 鈴鹿サーキット モトクロス コース	8月24日(休) 9月2日(金)

◆国際A級部門1250ccシリーズ / ♥国際A級部門125ccシリーズ

7 参加資格

1. 参加者およびライダー

- 1) 参加者およびライダーは、国内競技規則・第3章〔競技会〕9(28頁参照)に合致してなければならない。

2. 日本GP大会の参加資格

- 1) ジュニア部門：8月20、21日までの全日本選手権シリーズ大会及び7月10日までの地方選手権シリーズ大会の得点合計で125cc、250cc各クラス上位の者で次に示す人数。

北海道=3名 東北=10名 関東=18名 中部=15名 近畿=6名 中国=2名 四国=2名 九州=4名 なお主催地方(中部)に2名を加える。

- 2) 国際B級部門：8月20、21日の全日本選手権第7戦近畿大会までの全日本選手権シリーズ大会において各クラスともランキング上位30位のライダー、30名に満たない場合は主催地方及び隣接地方の選手権シリーズでの上位者。

8 出場申込み

- 1) 申込み場所は各主催者住所とする。
- 2) 出場申込み
 - (1) 各部門とも所定の申込み書に必要な事項をすべて記入の上、出場料およびMFJ共済会掛金を添えて提出しなければならない。
 - (2) 2クラス以上に出場を申込み場合でも、申込み書は1枚でよい。ただし2クラス以上出場に必要な事項をすべて記入すること。
 - (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り当日の消印のあるものまで有効となる。
 - (4) 締切り日以降の申込および電話による申込みはいっさい受けつけない。

9 出場料およびMFJ共済会掛金

国際A・B級	出場料(MFJ共済会掛金含む)	8,000円
ジュニア	(2クラス目より)	6,000円
併催ノービス	出場料(MFJ共済会掛金含む)	8,000円
地方大会	(2クラス目より)	6,000円
日本グランプリ大会	出場料(MFJ共済会掛金含む)	9,000円
	(2クラス目より)	7,000円

MFJ共済会掛金1,000円を含む

10 参加受理

- 1) 必要事項のすべてが明記された出場申込み書、必要金額が大会事務局に受理されたのちに、参加受理書が発送される。
- 2) いったん受理された出場料、共済会掛金はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。
- 3) 大会が中止された場合、参加が拒否された場合(申込み者が必要な手続を怠った場合はこれにあてはまらない)にのみ出場料、共済会掛金が返還される。

11 賞および得点

- 1) 高松宮杯は日本グランプリ大会の特別規則による。
- 2) その他の賞の詳細は公式通知に示される。
- 3) 全日本選手権ランキングの得点
 - (1) 得点は国内競技規則・第3章〔競技会〕16(30頁参照)によってえられる。
 - (2) 日本グランプリ大会については、規定の得点に3点が加算される。
 - (3) 国際A級部門の得点はファイナルレース(決勝レース)のみ対象とし、規定の得点が与えられる。
 - (4) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計点によって決定される。
 - (5) その詳細は全日本選手権ランキング順位決定基準(91頁参照)に示される。
- 4) 賞および得点の制限
賞および得点の制限は、国内競技規則・第3章〔競技会〕16(30頁参照)による。

12 出場車両

車両は細則5の4.出場車両(63頁参照)を遵守しなければならない。

13 ゼッケンナンバー

- 1) 国際A級および国際B級の一部(20番まで)のライダーには、年間指定ゼッケンナンバーが割当てられる。
 - (1) 国際A級部門の指定ゼッケンナンバー(前期)
 - ① ゼッケンナンバー1および2は、各クラスのチャンピオンとする。その場合、各クラス

での優勝回数の多い者を上位とする。

② 125cc、250ccの総合ポイント順上位により決定する。

③ 同点の場合、250ccクラスのポイントを優先する。

④ ③に該当しない者を前年度ゼッケン順位により追加する。ただし、前年度全日本選手権大会に一度も参加していない者は⑥に該当させる。

⑤ 国際A級部門に昇格した者を前年度全日本選手権ランキング順位により追加する。

⑥ 上記①～④に該当しない者で全日本選手権に出場申込みのあった者を追加する。

⑦：後期(125ccシリーズ)については上記①～⑥の125cc、250ccを入れ替え割当てる。

2) 他のライダーには、大会毎に主催者によってゼッケンナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。

3) ゼッケンナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色で記入しなければならない。(18頁および66頁参照)

4) 年間指定ゼッケンナンバーを与えられているライダーは、ヘルメットの両側にゼッケンナンバーを記入しなければならない。

5) ゼッケンナンバーの状態は、車両検査時に車検

員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。

6) レース中、ナンバープレート、配布されたゼッケンおよびヘルメットナンバーシールを装着せずに走行した場合、また、間違ったゼッケンナンバーを装着して走行した場合はその周回は記録されない。

7) 雨天の場合、すべてのライダーはヘルメットの両側面にゼッケンナンバーを記さなければならない。

14 ライダーの装備

1) ライダーの装備等は、細則5の8.ライダーの装備(67頁参照)による。

2) MFJ認証マークが貼付されていない公認ヘルメットを使用しているものについては、特別検査料金(1,000円)を支払い検査を受けなければならない。

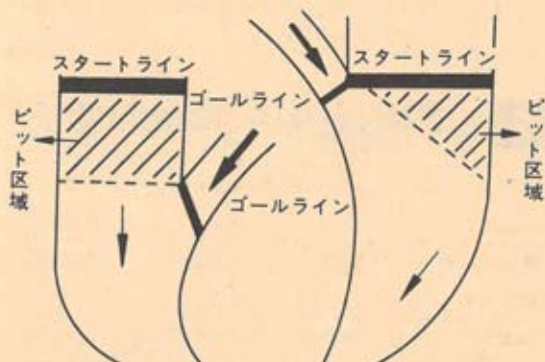
15 ガソリンおよびオイル

1) ガソリンおよびオイルは、国内競技規則・第3章・19(30頁参照)による。

2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された時は、当該ガソリンを使用しなければならない。

16 ピットエリア

ピットエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のピットエリアはスタートラインからゴールラインまでの周回走行にさしかかえないコース上である。(第1図参照)



第1図ピットエリア(区域)

17 出場受付

1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。



- 定められた時間内に、必ずライダー本人または当該ライダーのメカニックがMFJライセンス、参加受理書を提出して出場資格の確認を受けなければならない。
- MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

18 車両検査

- 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、パドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 車両検査のための車両はライダー本人または当該ライダーのメカニックが持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まなければならない。規定時間以後の車両検査は、大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 車両検査持込み台数は1クラスにつきノービス(地方大会)、ジュニアおよび国際B級部門は1台に限定、国際A級部門のライダーは制限を設けない。
- 車両検査において、規則または安全上出場が不適当と判定された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
- 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両の検査をおこなうことができる。

19 ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

20 車両の変更

出場登録した車両の変更は許されないが、破損など止むを得ず出場登録済の車両を変更する必要が生じた場合は、規定の書式にしたがって車両の変更申請をおこない、競技監督がこれを認めた場合に限り車両の変更が認められる。

- 車両の紛飾に際して、銘柄についての立証の責任は参加者側にあるものとする。
- その他、特別規則に示される。
- 車両変更申請は、同部門、同クラスの車両に限定され、手数料5,000円を添付しなければならない。
- 車両の変更は、公式予選終了後は如何なる理由があっても認められない。

21 部品の変更

- エンジン・アッセンブリーの変更は認められな

い。

22 自由練習および公式練習

- 競技前日の走行練習は禁止される。
- ライダーは安全確保のためにも主催者が設けた公式練習に参加し、走行しなければならない。
- 国際A級部門の自由練習日は土曜日とし、公式練習は日曜日とする。

23 国際A級部門の競技方法

1. セミファイナルレース(選抜レース)

国際A級部門は、ファイナルレース(決勝レース)に出場するためのセミファイナルレース(選抜レース)をおこなう。

- エントリー台数によりセミファイナルレースの組数を変更する。
 - 66台以内—————2組
 - 67台以上—————3組

2. ラストチャンスレース

ラストチャンスレースをおこない、ファイナルレース出場者を選抜する。

- ラストチャンスレース出場資格
 - セミファイナルレースが2組の場合——各組13位より27位のライダー
 - セミファイナルレースが3組の場合——各組9位より18位のライダー
 - セミファイナルレースに出場し、1周以上走行したものの

3. ファイナルレース選抜方法

- セミファイナルレースが2組(エントリー台数66台以下)の場合——各組上位12名ずつ選抜し、ラストチャンスレースより上位6名を選抜する。
- セミファイナルレースが3組(エントリー台数67台以上)の場合、各組上位8名ずつ選抜し、ラストチャンスレースより上位6名を選抜する。

4. ファイナルレース

ファイナルレースはセミファイナルレースおよびラストチャンスレースにて選抜されたライダーによっておこなわれる。

5. レース時間または周回数

- セミファイナル——7周—10周または15分
- ラストチャンス——5周—7周または10分
- ファイナル——30分+2周またはその時間

に相当する周回数

6. スタート台数は原則として30台とする。

7. セミファイナルレース組分け方法

主催者の定める時間場所にて決定する。

8. セミファイナルレースのスタート位置の決定方法

スタート順位は抽選結果の順位によりスタート位置が自由選択できる。

9. ラストチャンスレースのスタート位置の決定方法

スタート順位はセミファイナルレースの成績結果により組分けA組、B組、C組の順にて、スタート位置を自由選択できる。

10. ファイナルレースのスタート位置の決定方法

下記順位にて、スタート位置を自由選択することができる。

- 1) セミファイナルレースの成績上位の者から組分けされたA組、B組、C組の順。
- 2) ラストチャンスレースの成績上位の者から組分けされたA組、B組、C組の順。

24 公式予選

- 1) 公式予選の内容は細則5の9.公式予選(68頁参照)による。
- 2) 公式予選の有無、周回数、決勝進出台数、その他の詳細は公式通知またはプログラム等に表示される。
- 3) 公式予選の組分けは公式練習終了以前に発表される。

25 スタート

1. スタートの方法

- 1) 原則として各部門ともスターティングマシンを使ったエンジンランニングスタートとする。
- 2) ただしスターティングマシンを使用しないエンジンランニングスタートの際は、必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

2. スタート台数

原則として30台とする。ただし、日本グランプリはこの限りではない。

3. 予選レースのスタート位置の決定方法

スタート順位は抽選結果の順位により、スタート位置が自由選択できる。

4. 決勝レースのスタート位置の決定方法(国際A級を除く)

スタート位置の順位は、予選順位に基づき主催者が定める。

5. ウォーミングアップ

エンジンのウォーミングアップは主催者の指示する時間に限られる。

6. エンジンの始動の合図がなされた後

ウォーミングアップ以後、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は(キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後)ライダーからタイムのサインがあっても、スタート係はこれを考慮しない。

26 レース

- 1) レース中の遵守事項は国内競技規則・第3章(競技会)10(28頁参照)による。
- 2) ビットエリア内で車両整備などをおこなえるメカニックは2名に限られる。
- 3) レース中、サイレンサーまたはエキスパンションチャンバーがはずれた場合又、破損した場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗およびゼッケンを記したボードが示され、ビットインし、修理の後、審判員の許可を得た後、再出走が認められる。

27 レース中の合図

- 1) 公式シグナルは約750×600mmの寸法の旗を使って次のように与えるものとする。

シグナル	意味
・赤旗	・全員停止
・黒旗とライダーのナンバーを示したボード	・当該ライダー停止
・黄旗(静止)	・危険予告
・黄旗(振る)	・コース上に重大な危険あり、除行、安全確認、追い越禁止
・青旗(振る)	・警告、ラップされようとしている
・緑旗	・コース上障害物なし
・白黒チェッカー旗	・レース終了

- 2) 競技内容が示されている規定の時間を経過した後、トップのライダーがゴール地点に現われた時点から、残りの周回数を示す合図が出される。

28 レースの終了

レースの終了は細則5の10、レース(68頁参照)による。

29 優勝者、入賞者および得点

1. 各レースにおける優勝者、入賞者、完走者および順位は、細則5の11(68頁参照)による。

**30 入賞車両の検査**

- 1) レース終了後、入賞となった車両は、直ちに車検員によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後30分以上保管され、必要に応じて検査される。
- 2) 入賞車両は車両重量および音量が測定され、規定をみたしていない車両は失格となる。

31 レースおよび大会の延期、中止等

- 1) 本大会は、本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会審査委員会が、特別な理由によってレースを中止しなければならないと判断したときに限り、レースを中止することができる。
- 3) すべての関係者は大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
- 4) 特にやむを得ぬ理由によって、トップ走者がそのレースにきめられた回数(または時間)の3分の2を完走しないうちにレースを打ち切った場合は、そのレースは無効となる。
- 5) トップ走者が決められた周回数(または時間)の3分の2以上を完走した場合でレースを打ち切った時は、大会審査委員会はそのレースの判定結果に条件を付して発表する。
- 6) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料は返還されるが、他のいっさいの損害賠償を主催者に請求することはできない。公式予選終了後の中止については決勝進出者のみ出場料が返却される。
- 7) 大会審査委員会が下した裁定に対してはいっさい

い抗議することはできない。

32 抗議

- 1) 抗議は、国内競技規則・第3章〔競技会〕26(33頁参照)による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に用いた費用は車検長が算定するものとする。
- 3) 車両の分解検査に立合う者は、車検長および抗議を受けた当事者のみとする。

33 レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技監督ならびに大会審査委員会がその権限において下認の罰則を課することができる。

- 1) 故意に走路を妨害した場合、失格とする。
- 2) レース中に他の援助を受けた場合、失格とする。
- 3) コース上で逆走した場合、失格とする。
- 4) コース審判により示された信号旗にしたがわなかった場合、失格とする。
- 5) 1度コース外に出て他の所より再びレースに復帰した場合、1周減算または失格とする。
- 6) ウォーミングアップ中止後、競技役員の見許なくエンジンを始動させた場合、1周減算とする。
- 7) フライングスタートが確認された場合、黒旗をもってその旨ライダー本人に通告される。黒旗およびゼッケンを記したボードを示されたライダーは、その場で1分間停止し、競技役員の指示によって再スタートする。
- 8) フライングを2度繰り返したライダーは失格とする。

34 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、大会事務局あて質疑申立てができる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

35 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効とする。
なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則による。

昭和63年1月1日

全日本選手権大会事務局長

TRIAL

[細則7]

トライアル競技細則



1 適用の範囲	76	10 競技の進行	78
2 トライアル	76	11 ペナルティ	78
3 出場車両	76	12 ペナルティの定義	78
4 MFJ公認車両・公認部品	76	13 競技結果	82
5 総合仕様	77	14 同点者の判定	82
6 ライダーの装備	78	15 賞	82
7 コース	78	16 抗議	82
8 セクション	78	17 ライダーの遵守事項	82
9 タイムキーピング	78	18 審判員の権限	82

7 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則と共にすべての国内トライアル競技会に適用される。

2 トライアル

トライアルとは、自然の地形を利用してさまざまな走行条件を設定し、これを採点区間として定められた時間内に走破することで操縦技術の信頼性を試す競技である。大会は1日または2日以上にわたっておこなわれ、採点区間の成績とタイムキーピングによりその結果が表わされる。

3 出場車両

出場車両（以下車両という）は下記総合仕様をみたし、安全上完全に装備されているものでなければなら

ない。なお、改造されて型式が判明できないような車両は出場することができない。

1) 国際A級部門、国際B級部門

車両は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

2) ジュニア部門、ノービス部門、KIDS部門

車両は一般生産型モーターサイクル又は市販レーサーでMFJ公認車両でなければならない。またすべての車両は総合仕様をみたしていなければならない。

4 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および公認部品は、国内競技規則・第章〔競技会〕18(30頁)を参照。

5 総合仕様

車両は安全のため、次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) 排気管およびサイレンサー

排気管およびサイレンサーは規定の音量規制値は国内競技規則・第3章〔競技会〕20(31頁参照)を満足していなければならない。

2) タイヤ

- (1) タイヤはMFJ公認タイヤでなければならない。
- (2) タイヤに改造を加えてはならない。
- (3) タイヤにチェーン、スパイク等を加工整備してはならない。

3) クラッチおよびブレーキレバー

(1) クラッチレバーおよびブレーキレバーの末端はボール状(このボール状の直径は最低19mm)でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、いかなる場合においてもその端部は丸くなってはならない(この平たくした部分の厚みは最低14mm)。これらの端部は固定されておりレバーと一体構造でなくてはならない。

(2) ブレーキペダルおよびギヤシフトレバーの位置は自由である。ただし、その先端は安全上丸められていなければならない。

4) ブレーキ

車両前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えていなければならない。

5) フェンダー

前後輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。

6) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

7) 音量はFIM方式による測定方法で、98db(A)以下でなくてはならない。〔1989年1月1日以降は94db(A)〕

FIM方式による音量測定方法は国内競技規則・第3章〔競技会〕20(31頁)を参照。

8) 競技用ナンバープレート

競技が一般公道を使用しない場合、競技用ナンバープレートを装着しなければならない。

(1) ナンバープレートの寸法

ナンバープレートは第1図に示す大きさのものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚を車両の前面に見えやすいように前向きに取り付けなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次のとおりである。

キッズ部門＝黒地に白文字

ノービス部門＝白地に黒文字

ジュニア部門＝黄地に黒文字

国際B級部門＝緑地に白文字

国際A級部門＝赤地に白文字

(4) ナンバープレートの字体

ナンバープレートの字体はブロック体とし、

トライアルタイヤ公認規格

トライアル競技に使用するタイヤは下記各項をみたし、MFJに公認申請を行ない、公認されたものでなければならない。

A：トレッドの深さ

トレッド面に直角に測って13mm以内であること。同一円周のすべてのスタッドの深さは同一であること。

B：トレッドの幅

タイヤの幅方向では9.5mm以内であること。

C：トレッドの幅

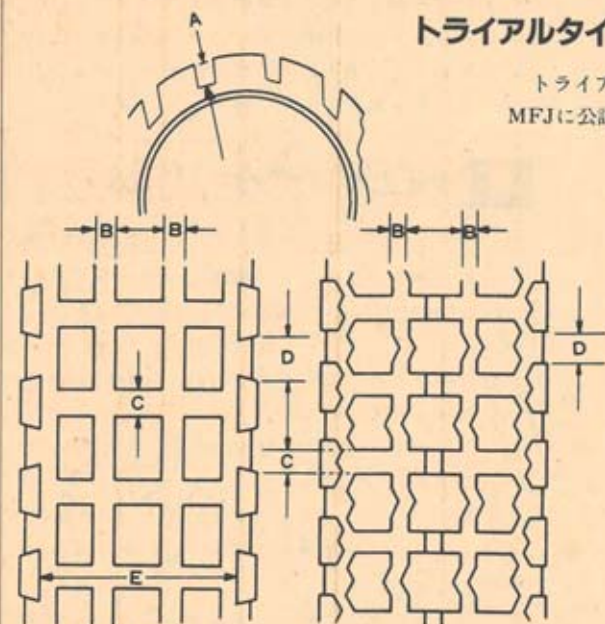
タイヤの円筒方向では13mm以内であること。

D：肩部スタッドのスペース

22mm以内であること。

E：トレッドのさしわたす寸法

タイヤウォールに直角に測った場合、タイヤの全幅に及んでいてはならないが、スタッドによって中断されている場合はこの限りではない。



ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。正しい書体は18頁に示す。

第1図 ナンバープレート



なお、国際A級および国際B級部門については第1図に示すようにプレート下部に記名しなければならない。

- 9) 一般生産型モーターサイクルの場合は、下記部品を安全上の理由により取り外さなければならない。
- ① スタンド類
 - ② キャリア類
 - ③ タンデムフットレスト
 - ④ 車両番号標板（ブラケットごと）
 - ⑤ バックミラー
 - ⑥ ライト類及びガラスレンズ類（ただしレンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい）

6 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982のA種、および同JIS T8133の1種（JIS T8133の1982年8月までの規格）以上のもので、MFJが公認したものでなければならない。
- 2) MFJ公認ヘルメットには認証マークが貼付されている。
- 3) MFJ公認ヘルメットで、MFJ公認の認証マークの貼付されていない公認ヘルメットについては、特別検査料（1,000円）を支払い、特別検査を受けなければならない。
- 4) 競技会の車両検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。

2. ライダーの服装

- 1) 服装は、下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。
- 2) 手袋および足首以上を保護する突出部品のない皮靴またはゴム長靴を着用しなければならない。

7 コース

コースは次のコースマークにより明確に表示される。コースから外れた場合、ライダーは速やかにコースに戻らなければならない。

- (1) 右折（ターンライト）赤いカードに“R”の黒字

- (2) 左折（ターンレフト）青いカードに“L”の黒字
- (3) 直進（ストレート・オン）白いカードに“SO”の黒字
- (4) 交差点、曲り角については、手前50mに進行方向を予告するカードが設置される。

8 セクション

1. セクションの表示

セクションは次のセクションカードおよびテープで表示される。

- 1) 入口
 - 右側 赤地にセクションナンバー
 - 左側 青地に
“IN”などの表示
- 2) 途中
 - 右側 赤いカード又はテープ
 - 左側 青いカード又はテープ
- 3) 出口
 - 右側 赤字にセクションナンバー
 - 左側 青地に
“OUT”などの表示
- 4) テープを使用する場合は、入口及び出口に赤と青のカードを置く。

2. セクションの幅

- 1) セクションの横幅はできる限り自然の障害物で制限されるが、カード及びテープによって制限する場合は1.2m以上とする。
- 2) 同じ側のカードとカードの間を迂回することはできない。
- 3) 採点区間
セクションにおける採点は、前輪の接地面の先端または外側（スピンドル）がセクション入口のカードを過ぎた時点から開始され、前輪の接地面の先端または外側（スピンドル）がセクション出口のカードを過ぎた時点で終了する。

9 タイムキーピング

- 1) ライダーは、原則としてあらかじめ抽選で決められた順序により、1分間隔でスタートする。ただし同時スタートの場合はこの限りではない。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーは1分につき1点の減点が課せられ、20分以上の遅れは失格となる。
- 3) コース走行時の平均速度は原則として20km/h以下とする。
- 4) ライダーには全コースを走破するための時間が与えられ、これに遅れてゴールしたライダーは失格となる。
- 5) 全コースを走り終えたライダーはゴール地点でタイムチェックを受けなければならない。

10 競技の進行

- 1) スタートの合図を受け、初めてエンジンを始動させることができる。
- 2) タイムキーピングを採用した場合、各セクションへのライダーの進入順序は自由であるが、審判員によって指示された場合にはこれにしたがわなければならない。
- 3) セクション間の移動は、コースマーク又はテープにしたがっておこなわなければならない。
- 4) ライダーはセクションに入る準備ができ次第、手を上げて審判員に合図しなければならない。
- 5) 審判員の指示により、速やかにセクションに入らなければならない。
- 6) セクション内でフルペナルティ（減点5点）を受けたライダーは、速やかにセクション外へ車両を移動させなければならない。
- 7) ライダーはコース上およびセクション内で一切の援助を受けてはならない。ただし、セクション内でフルペナルティを受けたライダーはこの限りではない。
- 8) ① 車両の部品交換はマーキングされていないもののみ認められる。ただし、ライダーはその部品を主催者の定める区域以外の場所で受け取ることはできない。
② ライダーは主催者の定める区域内では他の援助を受けることができる。
③ ライダーは、コース上のどこにおいても工具を受け取ることができる。ただし、ライダーが車両の整備を行なう場合、主催者の定める区域外では、他の援助を受けることはできない。これに違反した場合、失格とされる。
競技中、事故を起した場合や車両の故障等の理由で競技続行が不可能な場合は、速やかに競技役員に申し出なければならない。

- 9) 必要以上のスタンディング等、不適当なライダーのおこないについては、審判員の指示に従わなくてはならない。

11 ペナルティ

- 1) セクションにおける減点は0-1-2-3-5-10点とする。
 - (1) クリーン……………0点
 - (2) 足つき……………1点～3点減点
 - (3) 失敗……………5点減点
 - (4) 放棄……………10点減点
- 2) タイムキーピングによるペナルティは次のとおり課せられる。
 - (1) 予定されたスタート時間に遅れた場合…1分につき1点減点、20分以上の遅れは失格
 - (2) ゴールタイムチェックの遅れ……………失格
- 3) ライダーの不適切な行為に対するペナルティは次のとおり課せられる。
 - (1) 競技役員および審判員に対する不適当な態度および言動……………失格退場
 - (2) セクションにおいて審判員の指示に従わなかった場合……………10点減点
 - (3) 定められたコースを不適当にカットした場合……………50点減点

注：上記(3)に関してはさらにセクション放棄の減点が加算される。

12 ペナルティの定義

セクションにおけるペナルティの定義は次のとおりとする。

1. 足つきの定義

ライダーの身体のどこかの部分、またはマシンのどこかの部分（フートレスト、エンジンガード、タイヤ

● トライアルの減点は0-1-2-3-5-10

時間厳守とフェアプレーの精神で

減点ゼロ
おみごと/
クリーンです

減点1
残念、
足つき1回

減点2
残念なり
足つき2回

減点3
足バタバタ
3回以上

減点5
ミスりました。
失敗です



トライを放棄すれば減点10/ それ、ゴー

ホイールを除く)が地面に触れた場合、これを足つきという。

また車両の進行を停止することなくライダーの身体のどこかの部分が障害物(立木、壁など)にもたれた場合、足つきが生じたものとみなされる。

また身体の部分で手、足の場合、そのつけ根から先を同一とみなす。したがって足つきと同時に膝を接地しても、1回の足つきとみなす。

なお、足つきによるマーカー移動、破損は足つきのみの減点となる。

1) 1点減点

- (1) 足つき1回
- (2) 足つき状態でつま先とかかとが交互についている場合
- (3) 片足を軸にして車両を回転させた場合
- (4) 手を立木・壁等についた場合
- (5) 体または車両が障害物等にもたれかかり、バランスを修整した場合

(6) テープの内側または外側の足つき1回

2) 2点減点

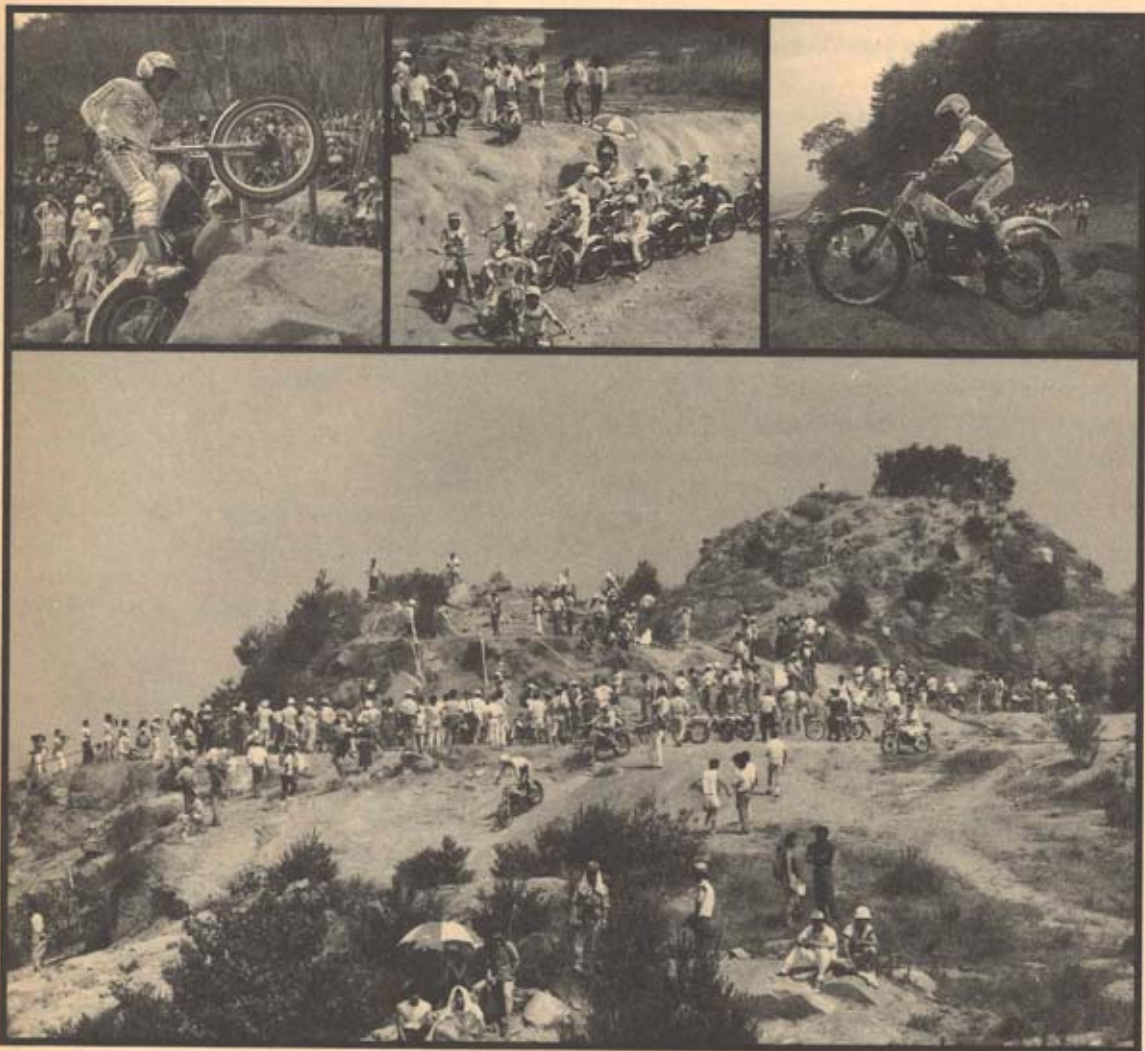
- (1) 足つき2回
- (2) 上記1)の1点減点となる行為が2回行われた場合
- (3) 両足同時の足つき

3) 3点減点

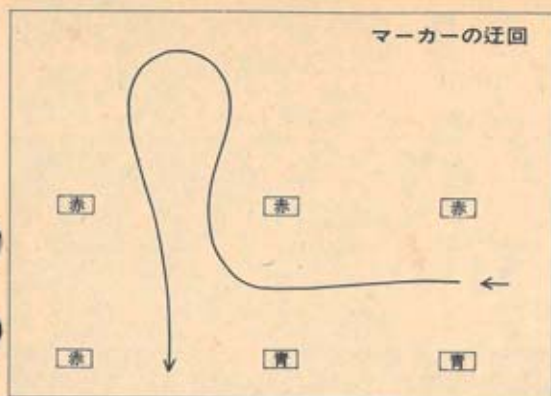
- (1) 足つき3回以上
- (2) 上記1)の1点減点となる行為を3回以上行われた場合

2.失敗(減点5点)

- (1) バック中の足つき
- (2) 登り坂等での足つきの状態でフロントタイヤが浮いてリアタイヤがバックした時
- (3) マーカーの迂回(左図のようなふくらみ又はターン)
- (4) 車両・ライダーによるテープ切断およびたるま



せ、またはテープを止めているクイなどを移動・破損した場合。



- 5) 車体の右側又は左側に両足が同時に足つきをした場合。
- 6) 両足つきの状態で車両がフロントホイールを上^に90°以上かたむいた場合。
- 7) フロントタイヤまたはリヤタイヤがテープの上からテープ外に出て、立木、壁、石等に接触した場合。
- 8) 走ってきて足をついた状態でフロントタイヤが完全に停止した場合。(ただし、フロントタイヤが前進を止めた状態から約1秒以内に少しでもフロントタイヤが前進を開始すれば減点5の対象にはならない)
- 9) スタンディングによるフロントタイヤが完全に停止している状態から足を地面についても約1秒以内に足をあげれば減点5の対象にはならないが、この状態でフロントタイヤが進まずに再び足をつけば減点5となる。
- 10) 車両によるマーカー移動、マーカー破損。
- 11) 申告エスケープについては、特に審判員の判断により失敗申告とみなされたもののみ失敗とされる。

3. 減点の対象とならない行為

1) 接触

接触とは、体の各部分または車両の各部分が立木、壁、石等その他の障害物に触れることを言い、これによって明らかにバランスの修正が行なわれない限り減点の対象とならない。

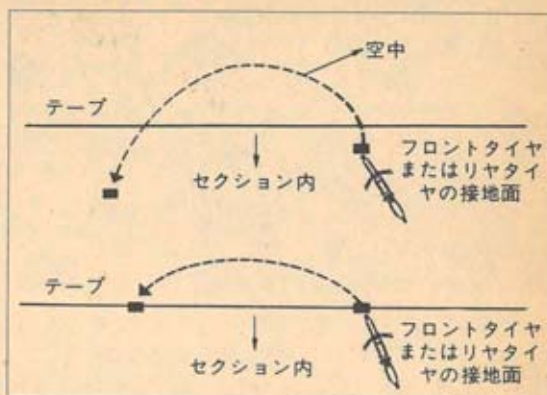
なお、マーカー、テープには車両、身体どちらで接触しても、接触のみであればペナルティは課せられない。

2) 下記の場合は減点5の対象とはならない。

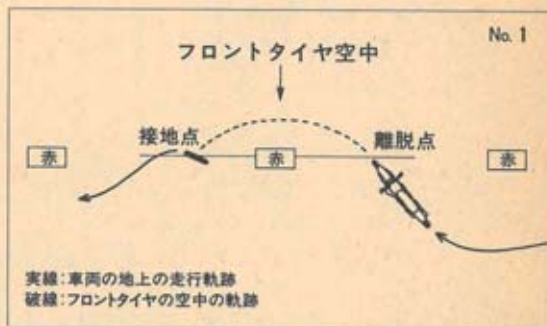
- (1) テープの上からフローティングターン等によるフロントタイヤ又は、リヤタイヤがテープ外に出た場合、テープ外の立木、壁、石、地面等

に触れずにテープ内に戻った場合。

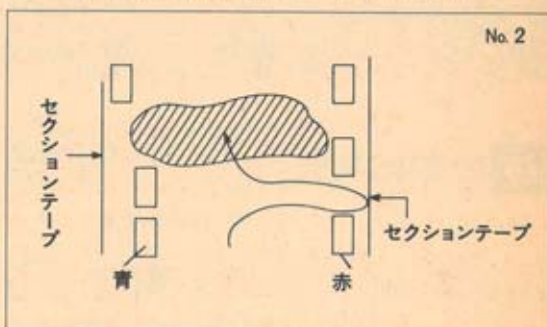
(下図参照)



- (2) マーカー付近でのフローティングターン等によるマーカー迂回については、フロントタイヤの接地面と接地面がマーカーの内側を通れば減点5の対象とはならない。(下図参照)



- (3) セクションテープがある場合、カードとカードを結ぶ直線をはみだしてもテープよりでない限り減点とはならない。(No.2を参照)



- (4) V字型の地形等でステップがかみ込んで停止をした場合、ステップに足が乗っていれば減点5の対象とはならない。そのステップ上のつま先、足裏部分が接地しても、意識的なバランス修正がない場合、減点の対象とならない。
- (5) アンダーガードが引っかかりシーソー状態になり、エンジンが停止しても減点5の対象とはならない。尚、この状態から足をつかないでエ



エンジンを始動させて競技の続行もできる。

- (6) エンジンが停止して足つきを行った場合でも、車両が前進していれば減点5の対象とはならず、ただの足つきの減点となる。
- (7) 足つきの状態で前輪を真横に移動又は振る事は前進とみなし、減点5の対象とはならない。
- 3) 減点の対象にならない車両の部分
 - 車両が停止状態で立木、壁、石等又は地面で重心を支えても減点の対象とはならない車体の部分
 - (1) タイヤ
 - (2) ステップ
 - (3) アンダーガード底部

4.放棄

放棄とはセクションを走行しなかった場合を言う。

13 競技結果

- 1) 総減点数の少ないものから順位を定める。
- 2) ワンデイトライアルの場合は、原則として当日の競技結果の発表を公式とする。
- 3) 2日以上にわたって競技が行なわれる場合は、競技終了日より一週間以内に公式結果が発表される。

14 同点者の判定

同点者の判定は、次の判定順序に従っておこなう。

- (1) クリーン数の多い者を上位とする。
- (2) 1点減点の多い者を上位とする。
- (3) 2点減点の多い者を上位とする。
- (4) 3点減点の多い者を上位とする。
- (5) 以上によって決定できない場合は主催者の判断により決定する。

15 賞

国内競技規則・第3章(競技会)15(30頁参照)に定める出走台数により次の通り賞を定める。但し、地方選

手権大会以下の場合、この限りではない。賞の詳細は大会公示によって示される。

出走台数	賞の範囲	出走台数	賞の範囲
25台以上	15位迄	12台~13台	6位迄
22台~24台	12位迄	10台~11台	5位迄
20台~21台	10位迄	8台~9台	4位迄
18台~19台	9位迄	6台~7台	3位迄
16台~17台	8位迄	5台	2位迄
14台~15台	7位迄		

16 抗議

- 1) 抗議は、国内競技規則による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定するものとする。
- 3) 審判員の下したチャージに対して抗議することは一切できない。

17 ライダーの遵守事項

ライダーは次の事項を守らなければならない。

- 1) 競技会は、国内競技規則にのっとりおこなわれる。ライダーはすべての行動に対して責任をとらなければならない。
- 2) ライダーはすべて本競技規則にのっとり行動すること。場合によっては、失格、さらに退場に至る罰則が課せられる。
- 3) 参加者は国内競技規則、本規則および競技管理上のあらゆる規定を守り、競技役員の指示にしたがわなければならない。また公道上では交通法規を守らなければならない。
- 4) 参加者は常にスポーツマンとしての態度を保ち、公正に行動しなければならない。
- 5) 参加者は競技期間中、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
- 6) 競技が一般公道の走行を含む場合、ライダーは運転免許証、MFJ競技ライセンスを必ず携帯しなければならない。

18 審判員権限

審判員は、競技規則等にのっとり担当するセクション内における競技の進行、指揮の権限を有し、かつ、セクション内において選手の行為を減点の対象となるか、審判する最終的権限を有するものである。

TRIAL

[細則8]

'88全日本 トライアル選手権大会 特別規則

1 開催競技会	①	11 セッケンナンバー	⑪	21 競技の終了	⑳
2 公式通知、タイムスケジュール	②	12 ライダーの装備	⑫	22 最終検査	㉑
3 開催種目	③	13 ガソリンおよびオイル	⑬	23 競技会の延期、	㉒
4 運営実行組織	④	14 出場受付	⑭	中止およびうち切り	
5 参加者およびライダー	⑤	15 車両検査	⑮	24 抗議	㉓
6 出場申込み	⑥	16 ライダーおよび車両の変更	⑯	25 ライダーの遵守事項	㉔
7 出場料およびMFJ共済会掛金	⑦	17 練習	⑰	26 本規則の違反、裁定	㉕
8 賞および得点	⑧	18 スタート	⑱	27 本規則の解釈	㉖
9 日本代表選手団の選考基準	⑨	19 競技中の車両整備	⑲	28 本規則の施行	㉗
10 出場車両	⑩	20 ゴール	㉚		

1 開催競技会 (84頁に提示)

2 公式通知・タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

3 開催種目

1. トライアル

- 1) 全日本選手権の対象部門は、国際A級部門および国際B級部門とする。
- 2) セクション数およびタイムキーピングの方法については、公式通知に示される。

4 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

5 参加者およびライダー

1. 参加資格

- 1) 1988年版MFJ国内競技規則・第3章(競技会)9の条件を満たしていること。
- 2) 日本グランプリ大会の参加資格
 - (1) 国際A級部門はフリーエントリーとする。
 - (2) 国際B級部門

昭和63年9月4日開催の全日本選手権第6戦東北大会までにポイントを獲得した者、ならびに昭和63年1月1日～8月21日までの各地方選手

権ランキングで下記に示す順位の者。

北海道=6位迄 東北=25位迄
 関東=30位迄 中部=31位迄 (うち北陸大会
 の6位迄を含める)
 近畿=25位迄 中国8位迄
 四国=8位迄 九州=15位迄

注1: 同位者の参加資格は認められるが、欠員繰り上げについては認められない。

注2: 地方選手権シリーズには、大会ごとに示された得点を与えられ「全日本選手権ランキングの決定の方法」に準じて地方選手権ランキングが決定される。(他ブロックに所属する者にも得点を与えられ参加した地方選手権ランキング成績として認められる。)

例: 関東に所属するライダーが中部選手権シリーズ戦に得点を取り、中部選手権ランキング上位25位に入れば、中部としての参加資格が得られる。

6 出場申込み

1. 全日本選手権シリーズ大会出場申込み

出場申込み書(日本グランプリ各地方選抜者用も含む)に必要な事項を記入の上、出場料およびMFJ共済会掛金を添えて提出しなければならない。

2. 参加定員

- 1) 定員については特に定めない。
- 2) 日本グランプリ大会については参加資格に示された選抜規定による。

7 出場料およびMFJ共済会掛金

出場料: 国際A級部門 7,000円
 国際B級部門 7,000円
 ジュニア部門(地方大会併催時) 7,000円
 (MFJ共済会掛金200円を含む)

開催競技会の日程、名称、主催場所、出場申込み期間

*88全日本選手権シリーズは日本グランプリ大会を含め下表の9戦が開催される。

開催日	大会名称	主催者・出場申込先	開催場所	出場申込期間 (消印有効)
4月10日 (日)	全日本選手権シリーズ第1戦 四国トライアル大会	四国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 申込先: 愛媛県モーターサイクルスポーツ協会 〒791-11 松山市南高井町1812-3 愛媛県二輪車安全普及協会内 ☎0899(76)4505	愛媛県 久万町久万ス キーランド	3月3日(木) 3月12日(土)
4月24日 (日)	全日本選手権シリーズ第2戦 中国トライアル大会	MFJ中国ブロック協議会 〒740 山口県岩国市元町4-1-7 野田 弘 気付 ☎0827(21)5397	広島県 野呂山観光遊 園トライアル 場	3月17日(木) 3月26日(土)
5月15日 (日)	全日本選手権シリーズ第3戦 九州トライアル大会	MEJ九州ブロック協議会 〒816 福岡市博多区半道橋2-7-70 ☎092(474)6196	熊本県鹿北砂 石場跡(旧西 和物産砕石場 跡)	4月7日(木) 4月16日(土)
5月29日 (日)	全日本選手権シリーズ第4戦 中部トライアル大会	愛知県モーターサイクルスポーツ協会 〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字 富士見ヶ丘110-6 ☎052(833)9676	愛知県 享成交通大学 特設会場	4月21日(木) 4月30日(土)
8月7日 (日)	全日本選手権シリーズ第5戦 北海道トライアル大会	札幌モーターサイクルスポーツ協会 〒065 北海道札幌市東区東壱条3条1-4-3 ☎011(782)1492	北海道夕張市 マウントレー スイ国際スキ ー場	6月30日(木) 7月9日(土)
9月4日 (日)	全日本選手権シリーズ第6戦 東北トライアル大会	東北ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 申込先: スポーツランドSUGO 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 ☎0224(83)3111	山形県米沢市 栗子国際スキ ー場	7月28日(木) 8月6日(土)
10月9日 (日)	全日本選手権シリーズ第7戦 近畿トライアル大会	MEJ近畿ブロック協議会 〒550 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06(541)5254	大阪府 モーターサイ クルランド猪 名川	9月1日(木) 9月10日(土)
10月23日 (日)	全日本選手権シリーズ第8戦 中部(北陸)トライアル大会	富山県モーターサイクルスポーツ協会 〒930 富山県富山市藤木521-1 ☎0764(24)6420	富山県 牛岳スキー場	9月15日(木) 9月24日(土)
11月6日 (日)	全日本選手権シリーズ第9戦 第16回日本グランプリ トライアル大会(国際格式)	日本モーターサイクル協会(M.F.J) 〒103 東京都中央区東日本橋2-16-7 第2オカノビル7F ☎03(865)8441	神奈川県 宮ヶ瀬ライ アルパーク	9月29日(木) 10月8日(土)

8 賞および得点

1. 賞

- 1) 細則7.トライアル競技細則・15 (82頁参照) にもとづいて授与される。
その他の賞の詳細は公式通知に示される。
- 2) 国際A級、及び国際B級部門全日本ランキングの得点
 - (1) 得点はMFJ国内競技規則によって与えられる。
 - (2) 日本グランプリトライアル大会については、上記の得点にさらに3点が加算される。
 - (3) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点によって決定される。
 - (4) その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(91頁参照)に示される。

9 日本代表選手団の選考基準

'88年9月18日開催のトライアル・デ・ナシオン (開催国: チェコスロバキア) の日本代表選手団の選考基準および詳細は下記のとおりとする。

1. 出場選手の選考基準

- 1) 日本国籍を有する者で'88全日本選手権第1戦から第5戦 (北海道大会) までの国際A級部門上位4名の者。但し経費等 (交通費、車両運搬、メカニック経費他) はすべて自己負担とする。
- 2) MFJより派遣者には一部支援金が出される。
- 3) 1)の選手で出場意志のない選手が出た場合は下位より繰り上げとする。その場合ランキング15位までの選手とする。
- 4) 8月14日迄に参加者が3名に満たない場合は、日本選手の参加は取りやめとする。

10 出場車両

車両は、細則7.トライアル競技細則3 (76頁参照) を遵守しなければならない。

11 ゼッケンナンバー

- 1) 国際A級・B級各クラス選手の年間指定ゼッケンナンバーは、別に定めるゼッケンナンバー決定基準によって割り当てられる。
- 2) 主催者から特に指示がない場合は、車両検査までに規定の書体および色分けてナンバーを記入しなければならない。

- 3) ナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- 4) 競技中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せず、また間違ったゼッケンを装着して走行した場合は、そのトライは記録されない。

12 ライダーの装備

ライダーの服装、ヘルメットは、細則7トライアル競技細則6 (78頁参照) による。

13 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは国内競技規則・第3章 [競技会]19 (30頁参照) による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された場合は、当該ガソリンを使用しなければならない。
- 3) ガソリンおよびオイルを入れる容器は消防法により認められているものとする。

14 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 出場受付は、定められた時間内に、かならずライダー本人が出席し、MFJライセンス、参加受理書を提示して、当日の出場資格を確認しなければならない。
- 3) MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

15 車両検査

- 1) 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、競技開始前にパドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 2) ライダーはタイムスケジュールに示された時間内に、必ずライダー本人が車両を持参し車両検査を受けなければならない。規定時間以後の検査は、大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) 車両検査への持ち込みは1台に制限される。
- 4) 車両検査において、規則または安全上出場が不適当と判定された車両は、一切の走行を拒否される。
- 5) 車両検査において、フレームボディとクランクケースについてマーキングを行なう。以上の部品は、当日の競技に使用され、競技が終了するまで

交換することはできない。これらの部品を車両検査後、あるいは競技中、無断で交換した場合、失格とされる。

- 6) 車両検査時には、細則7トライアル競技細則・5(77頁参照)の方式にのっとり車両の音量検査が行なわれる。
- 7) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両の検査をおこなうことがある。

16 ライダーおよび車両変更

ライダーおよび出場車両の変更は原則として認められない。ただし、国内競技規則・第3章〔競技会〕21(32頁参照)に該当する場合は出場受付終了以前に手数料5,000円を添えて申請し、競技監督の許可を受けなければならない。

17 練習

大会当日コースおよびセクションのいかなる場所においても練習は禁止される。これに違反したライダーは失格とする。ただし主催者が特別に認めた区域内でウォーミングアップができる場合がある。

18 スタート

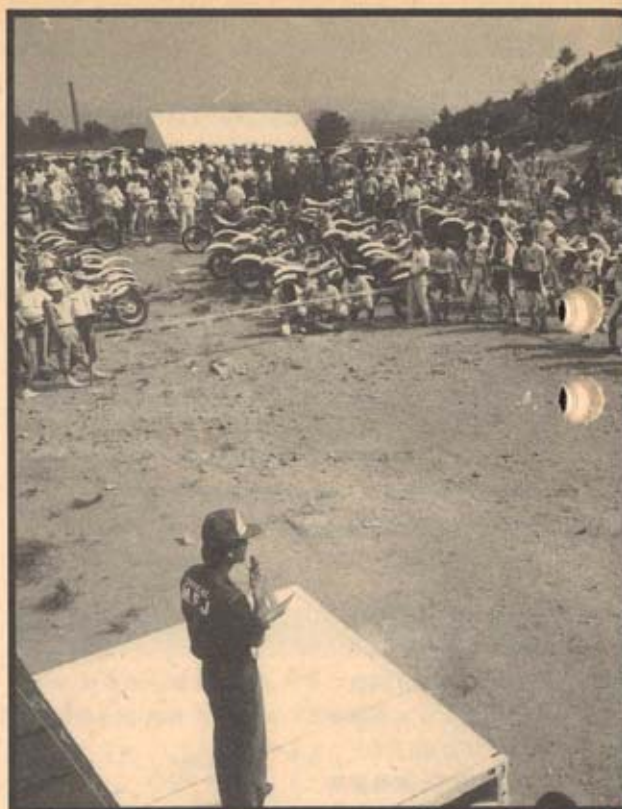
- 1) スタート順序は主催者によって決定される。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーには、1分につき1点の減点が科せられ20分以上遅れたライダーは失格となる。

19 競技中の車両の整備

- 1) 車両のパーツは、マーキングされていないもののみ交換することができる。ただし、ライダーはスペアパーツを主催者の定める区域以外の場所で受け取ることはできない。
- 2) ライダーは、コース上のどこにおいても工具を受け取ることができる。ただし、ライダーが車両の整備を行なう場合、主催者の定める区域外で、他の援助を受けることはできない。これに違反した場合、失格とされる。

20 ゴール

ライダーは定められた競技時間内にゴールしなければならない。ゴール時間に遅れたライダーは失格とする。



21 競技の終了

バックマーカーがセクションを閉鎖する場合がある。

22 最終検査

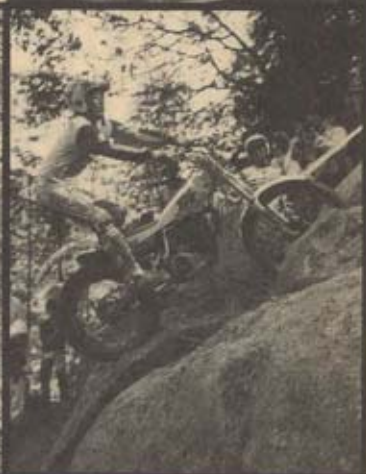
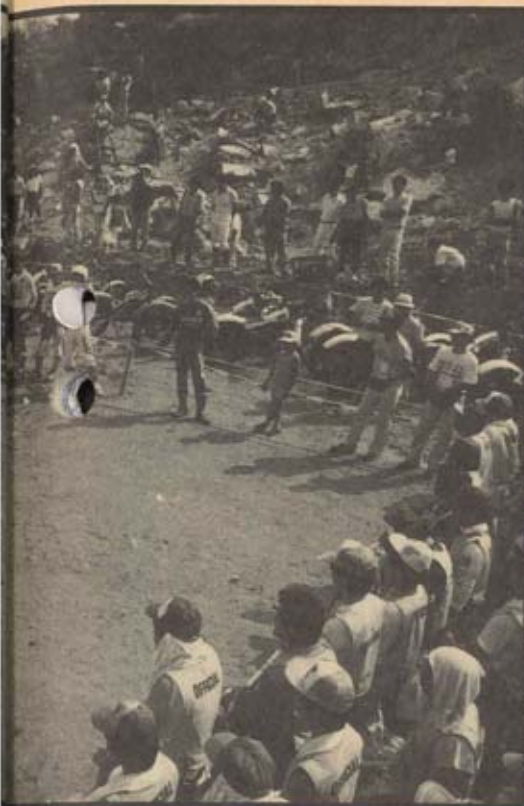
最終ラップ終了後、車両は主催者が定める区域において、車両検査時に付けたマークの有無の確認を受ける。

23 競技会の延期、中止およびうち切り

- 1) 大会は、本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会は、大会審査委員会が特別な理由によって競技を中止しなければならないと判断したときに限り競技を中止される。
- 3) 大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を請求することはできない。

24 抗議

- 1) 抗議は、国内競技規則・第3章〔競技会〕26(33頁参照)による。



- 2) 車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定するものとする。
- 3) 審判員の下したジャッジに対して抗議することは一切できない。

25 ライダーの遵守事項

ライダーは次の事項を守らなければならない。

- 1) 競技会は、国内競技規則にのっとりおこなわれる。ライダーはすべての行動に対して責任をとらなければならない。
- 2) ライダーはすべて本競技会特別規則にのっとり行動すること。場合によっては、失格、さらに退場に至る罰則が科せられる。
- 3) 参加者は国内競技規則、本規則および競技管理上のあらゆる規定を守り、競技役員の指示にしたがわなければならない。また公道上では交通法規を守らなければならない。
- 4) 参加者は常にスポーツマンとしての態度を保ち、公正に行動しなければならない。
- 5) 参加者は競技期間中、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。

- 6) 競技が一般公道の走行を含む場合、ライダーは運転免許証、MFJ競技ライセンスを必ず携帯しなければならない。

26 本規則の違反、裁定

本規則に対する違反の裁定は大会審査委員会によって判断され、違反者には罰則が適用される。裁定後はいかなる理由といえどもこれにしたがわなければならない。

27 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なお、質疑申立てに対する回答は大会審査委員の決定を最終的なものとする。

28 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効となる。
なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則による。

昭和63年1月1日

全日本選手権大会事務局長

LICENCE

[細則9]

MFJライセンス 昇格・降格に関する規則

- | | | |
|-------------------------|-----------------------|---------------------|
| 1 目的……………⑦ | 4 モトクロスライセンスの昇格……………⑩ | 7 特別昇格及びその手続き……………⑫ |
| 2 自動昇格に必要な得点……………⑧ | 5 トライアルライセンスの昇格……………⑪ | 8 特別降格及びその手続き……………⑬ |
| 3 ロードレース・ライセンスの昇格……………⑨ | 6 自動降格の基準……………⑫ | 9 再昇格基準……………⑬ |

7 目的

この規則は、日本モーターサイクル協会(以下「MFJ」という)が発給管理する、競技ライセンスの昇格・降格に関し規定し、モーターサイクル競技の公正を図ることを目的とする。

2 自動昇格に必要な得点

- 1) 自動昇格に必要な得点は公認競技会の成績に応じて与えられる。その得点は、次のとおりである。

(1) 全日本選手権及び地方選手権競技会

順位	25以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13			
5位	11	11	11	11	11	11	11	11				
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4	4										
13位	3											
14位	2											
15位	1											

(2) その他の公認競技会(トライアルは除く)

順位	昇格	12以上	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	10	10	10	10	10	10	不成立
2位	8	8	8	8	8	8	
3位	6	6	6	6	6		
4位	5	5	5	5			
5位	4	4					
6位	3						

(注) 出走台数は、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選のスタートラインに並んだ台数とする。

- 2) 昇格の対象となる期間は、前年度の11月から当該年度の10月末日までの12ヵ月間とする。
- 3) キッズ部門の公認競技会における得点は競技会の格式にかかわらず、上記(2)その他の公認競技会の得点とする。

3 ロードレース・ライセンスの昇格

- 1) ノービス部門からジュニア部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。
- (1) 各サーキットごとの公認競技会においてノービス部門125cc、250cc及びTTF3クラスで得点10点以上の成績を得た者。(合計はしない) ただしSPフォーミュラ部門は、自動昇格対象とはならないが、上記と同等の得点を得た者は特別昇格の申請ができる。
- (2) 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、都・府・県モーターサイクルスポーツ協会(以下「県協会」という)及び地方ブロック

協議会（以下「ブロック」という）の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(3) その他、MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

2) ジュニア部門から国際A級部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) 全日本選手権ランキング1位から6位までにランクされた者。

(2) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

(3) 全日本選手権シリーズで15ポイント以上取得した者で、ランキング15位以内の者は、特別昇格の申請ができる。

4 モトクロスライセンスの昇格

1) キッズ部門からノービス部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) 公認競技会において各地方で下記に示す得点以上を得た者。（複数のブロックにまたがる得点の合計はしない）㊦：得点は格式にかかわらず細則9・2(2)その他の公認競技会の得点(88頁参照)とする。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	20	20	20	20	20	20	20	20

2) (2) 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会及びブロックの承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

2) ノービス部門からジュニア部門への昇格の対象者は次のとおりとする。

(1) 公認競技会において各地方で下記の得点を得た者。（複数のブロックにまたがる得点の合計はしない）

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
人数	40	40	30	30	30	40	40	30

(2) 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会及びブロックの承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

3) ジュニア部門から国際B級部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) 全日本選手権ランキングで、クラス1位から6位にランクされた者。

(2) 全日本選手権シリーズ大会において得点30点以上を得た者。

3) 公認競技会において各地方で、下記の得点以

上を得た者。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	80	85	50	50	50	60	60	50

(4) 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会及びブロックの承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(5) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

4) 国際B級部門から国際A級部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) 全日本選手権ランキングでクラス1位から10位ランクされた者。

(2) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

5 トライアルライセンスの昇格

1) キッズ部門からノービス部門への昇格の対象者は次のとおりとする。

(1) 公認競技会において、キッズ部門での優勝者（次の競技会からノービス部門で出場すること）ただし、キッズ部門の競技会は5名以上の参加によって行なわれたものに限る。

(2) その他、上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

2) ノービス部門からジュニア部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) ノービス部門参加者10名以上の公認競技会において下記の成績をおさめた者。

㊦ ノービス部門で参加者29名以下の公認競技会においてノービス部門での優勝者。（次の大会よりジュニア部門で出場すること）

㊧ ノービス部門で参加者30名以上の公認競技会において、ノービス部門での優勝者及び2位の2名の者。（次の大会よりジュニア部門で出場すること）

(2) その他、上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会及びブロックの承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

(3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

3) ジュニア部門から国際B級部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。

(1) 各ブロックごとの地方選手権において、下記の人数で得点上位の成績を得た者。ただし、同点者のある場合は、この人数を超えることができる。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
人数	5	10	25	13 (内北陸3)	10	6	5	8

- (2) 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会及びブロックの承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- (3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- 4) 国際B級部門から国際A級部門への昇格の対象者は、次のとおりとする。
- (1) 全日本選手権ランキングで1位から5位にランクされた者。ただし、同点者のある場合はこの人数を超えることができる。
- (2) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

6 自動降格の基準

- 1) ライセンスの更新がなされなかった場合は、その期間によって、下表によりライセンス資格が自動降格される。

7 特別昇格及びその手続き

- 1) 昇格基準と同等とみなされる成績を得た者で、昇格を希望する者は、特別昇格の申請ができる。
- 2) 前項の申請は、特別昇格をしようとする前年の11月1日から12月31日までにMFJ事務局に到達されることを要し、それ以外の申請は受理されない。
- 3) 申請は、所定の申請書に必要事項を記入し、所属する県協会及びブロックの承認を得て、MFJ事務局に申請するものとする。
- なお、所定の申請書は県協会またはMFJ事務局に用意されており、請求に応じて送配布される。
- 4) 申請にあたっては申請書に申請料3,000円(切手でも可)を添えて県協会に提出すること。
- 5) 特別昇格についての最終的決定は、MFJスポーツ委員会の審査結果による。

自動降格基準表

未更新期間	モトクロス・トライアル					ロードレース			
	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際B級	国際A級	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際A級
1年	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際B級	国際A級	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際A級
2年	"	"	"	"	"	"	"	"	"
3年	"	"	ノービス	ジュニア	"	"	"	ノービス	"
4年	"	"	"	ノービス	国際B級	"	"	"	ジュニア
5年	"	"	"	"	"	"	"	"	"
6年以上	"	"	"	"	ジュニア	"	"	"	"

*ロードレースについては5年以上の未更新期間のある場合はMFJ公認サーキットの走行証明が必要。



8 特別降格及びその手続き

- 1) MFJ競技ライセンス資格の降格を希望する者は、次の手続きによって申請し、MFJスポーツ委員会の審査によって認められた場合は、降格することができる。
- 2) 前項の申請は、特別降格をしようとする前年の11月1日から12月31日までにMFJ事務局に到達されることを要する。申請者の用紙は、県協会又はMFJ事務局に準備され、それに必要事項を記入し、申請料3,000円(切手でも可)を添えて県協会及びブロックの承認・経由して、MFJ事務局に申請する。
- 3) 降格承認後は降格が認められた日より、その年度の終了する日まで、再昇格規程が適用される。

昭和62年度 全日本選手権ランキング認定表彰式



9 再昇格基準

ライセンスの降格があった者が、次の基準に適合することとなった場合は、原則としてMFJスポーツ委員会において次競技会から再昇格することを決定する。再昇格された者は、昇格されたライセンスと引き換えに旧ライセンスを、MFJ事務局に返納しなければならない。

1) ロードレース

- (1) 地方選手権以上のシリーズ大会において、原則として優勝した者。
- (2) 公式記録によるラップタイム等により、MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

2) モトクロス

- (1) 国際B級部門からジュニア部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズ大会で優勝した者。
- (2) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において、1回優勝した者。
- (3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

3) トライアル

- (1) 国際B級部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズにおいて優勝した者。
- (2) ジュニア部門に降格した場合は、地方選手権

シリーズにおいて優勝した者。

- (3) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において6位以内に入賞した者。
- (4) その他MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

附 則

本規則は、昭和63年1月1日から施行する。

全日本選手権ランキング決定基準

1. 全日本選手権ランキング順位づけ決定の方法

全日本選手権ランキングの順位づけは次の方法により決定される。

- 1) 全日本選手権シリーズ大会で得たすべての得点を合計し、総合得点の大なるものから順位を決定する。ただし、40点未満のものはチャンピオンとはせず、ランキング2位とする。
- 2) 上記1)で同点となった場合、上位入賞回数の多い者が上位となる。
- 3) 上記2)で決定できない場合、前年度のランキング上位のものを上位とする。
- 4) 上記3)で決定できない場合、MFJスポーツ委員会において最終決定する。

MFU公認車両

'85一般市販車

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公認月日
●ヤマハ発動機				
RZ50	1HK	49cc	40mm×39.7mm	60.5.20
RZ125	1GV	123cc	56mm×50mm	60.5.20
SEEROW225	1KH	223cc	70mm×58mm	60.8.28
TZR250	1KT	249cc	56.4×50mm	60.10.27
FZ250	1HX	249cc	48mm×34.5mm	60.3.28
FZ400N	1KF	399cc	54mm×43.6mm	60.3.28
FZ750	1FM	749cc	68mm×51.6mm	60.3.28
DT200R	1TG	195cc	66mm×57mm	60.11.28

●本田技研工業				
TLM200R	MD15	193cc	67mm×55mm	60.3.28
XL125R	JD04	124cc	56.5mm×49.5mm	60.7.15
XL200R	MD14	194cc	65.5mm×57.8mm	60.5.20
MTX200R II	MD13	193cc	67mm×55mm	60.2.25
XLR250R	MD16	249cc	75mm×56.5mm	60.5.20
XL600R	PD04	591cc	97mm×80mm	60.9.18
CBX250S	MC12	249cc	75mm×56.5mm	60.3.28
VT250F INTEGRA	MC08	249cc	60mm×44mm	60.5.20
NS400R	NC19	387cc	57mm×50.6mm	60.5.20
CBR400F	NC17	399cc	55mm×42mm	60.8.28
CBR400F ENDURANCE	*	*	*	*
CBR400F FORMULA-3	*	*	*	*
CB400 Tourist Trophy	NC20	399cc	84mm×72mm	60.9.18
CB400 Tourist Trophy MK II	*	*	*	*
CB400 Tourist Trophy	PC16	498cc	92mm×75mm	60.9.18
CBX750F RS3-AZC1	RC17	747cc	67mm×53mm	60.6.10

●鈴木自動車工業				
RG50i*	A-NA11A	49.8cc	41mm×37.8mm	60.3.28
RG125i*	NF11F	123cc	54mm×54mm	60.7.15
RG250i*	GJ21B	247cc	54mm×54mm	60.4.18
GF250	GJ71C	249cc	44mm×41mm	60.3.28
GSX-R400	GK71B	398cc	53mm×45.2mm	60.2.25
RG400i*	HK31A	397cc	50mm×50.6mm	60.2.25
RG500i*	HM31A	498cc	58mm×50.6mm	60.5.20
GSX-R750	GR71F	749cc	70mm×48.7mm	60.3.28
VS750	VR51A	747cc	80mm×74.4mm	60.4.18
TS50W	A-SA11A	49.8cc	41mm×37.8mm	60.3.28
SX125R	SF41B	124cc	57mm×48.8mm	60.5.20
SX200R	SH41A	199cc	66mm×58.2mm	60.5.20

●川崎重工業				
GPZ400R	ZX400D	398cc	56mm×40.4mm	60.2.25
FX400R	*	*	*	60.11.28
GPZ600R	ZX600A	592cc	60mm×52.4mm	60.6.10
GPZ750F	ZX750A	738cc	66mm×54mm	60.6.10
VULCAN	VN750	749cc	84.9mm×66.2mm	60.2.25

'85スポーツ専用市販車・ロードレーサー

●ヤマハ発動機				
TZ250	5BW	249.7cc	56mm×50.7mm	60.1.28
●本田技研工業				
RS125R-V	ND4	124cc	56mm×50.7mm	60.3.28
RS250R	ND5	249cc	56mm×50.6mm	60.2.25

'85スポーツ専用市販車・モトクロッサー

●ヤマハ発動機				
YZ80	1LR	79.1cc	47mm×45.6mm	60.9.18
YZ125	1LX	123cc	56mm×50mm	60.9.18
YZ250	1LU	246cc	68mm×68mm	60.10.27
●本田技研工業				
CR80R	HE04	79cc	46mm×47.8mm	60.9.18
CR125R	JE01	123cc	54mm×54mm	60.9.18
CR250R	ME03	249cc	66.4mm×72mm	60.9.18
XR250R	ME08	249cc	75mm×56.5mm	60.5.20

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公認月日
●鈴木自動車工業				
RM80	RC12A	79cc	46.5mm×46.8mm	60.10.8
RM125	RF13A	123cc	54mm×54mm	60.9.18
RM250	RJ13A	246cc	67mm×70mm	60.9.18

●川崎重工業				
KX80	KX080B	80cc	43mm×41.6mm	60.7.15
KX80	KX080H	79cc	47mm×45.8mm	60.7.15
KX125	KX125E1	124cc	56mm×50.6mm	60.8.28
KX250	KX250O2	249cc	70mm×64.9mm	60.8.9

'85スポーツ専用市販車・トライアラー

●ヤマハ発動機				
TY250R	1LW	246cc	68mm×68mm	60.9.18
TY350R	1VY	341cc	80mm×68mm	60.10.27

●本田技研工業				
TLM240R	F8F	236cc	72mm×58mm	60.11.28

'85輸入車両

●本田技研工業				
FANTIC TRIAL 101	FM266	249.4cc	74mm×58mm	60.8.28
FANTIC HP 1	FM265	124.4cc	55.2mm×52mm	60.8.28

'86一般市販車

●本田技研工業				
TLR250R	MD18	244cc	72mm×60mm	61.5.26
XLR250R	MD20	249cc	73mm×59.5mm	61.12.15
FTR250(キック)	MD17	249cc	73mm×59.5mm	61.3.26
FTR250(セル)	*	*	*	*
VT250F	MC15	249cc	60mm×44.1mm	61.4.28
NSR250R	MC17	249cc	54mm×54.5mm	61.10.13
CBR250FOUR	MC14	249cc	48.5mm×33.3mm	61.4.28
VFR400R	NC21	399cc	55mm×42mm	61.3.26
CBR400R	NC23	399cc	55mm×42mm	61.7.9
VFR400Z	NC21	399cc	55mm×42mm	61.4.28
VFR750F	RC24	748cc	70mm×48.6mm	61.3.26
SHADOW	RC25	749cc	78.5mm×75.5mm	61.4.28

●ヤマハ発動機				
XT225	2LN	223cc	70mm×58mm	61.12.15
YSR50	2AL	49.9cc	40mm×39.7mm	61.4.28
YSR80	2GX	79cc	46mm×42mm	61.9.9
FZ250	1KG	249cc	48mm×34.5mm	61.4.28
FZR250	2KR	249cc	48mm×34.5mm	61.12.15
FZ400R	48X	399cc	54mm×43.6mm	61.4.28
FZR400	1W0	399cc	56mm×40.5mm	61.4.28
SPX400	1JL	399cc	67mm×67.2mm	61.3.26
FZX750	2AK	749cc	68mm×51.6mm	61.4.28

●鈴木自動車工業				
GAG	A-LA41A	49cc	39mm×41.8mm	61.2.24
RG250i*(1/2フルカウル)	GJ21B	247cc	54mm×54mm	61.2.24
RG250i*(フルカウル)	*	*	*	*
GF250S	GJ71C	249.2cc	44mm×41mm	61.2.24
GF260SS(アンダーカウル)	*	249cc	*	*
NZ250	NJ44A	249cc	72mm×61.2mm	61.2.24
NZ250S(カウル)	*	*	*	*
GSX-R400	GK71F	398cc	56mm×40.4mm	61.3.26
GSX400X-インパルス	GK71E	398cc	56mm×40.4mm	61.3.26
LS650	NP41A	652cc	94mm×94mm	61.11.23
GSX-R750R	GR71G	749.2cc	70mm×48.7mm	61.2.24

●川崎重工業				
AR125S	AR125A	123cc	55mm×51.8mm	61.1.30
CASUAL SPORTS	BR250A	249cc	74mm×58mm	61.1.30
GPZ250R	EX250E	249cc	62mm×41.2mm	61.1.30
GPX750R	ZX750	748cc	68mm×51.5mm	61.7.9
ELIMINATOR	ZL750A	748cc	70mm×48.6mm	61.1.30

'86スポーツ専用市販車・ロードレーサー

●本田技研工業				
'87RS125R	NF4	124cc	54mm×54.5mm	61.10.13
'87RS250R	NF5	249cc	54mm×54.5mm	61.11.23
RS250R-II	ND5	249cc	56mm×50.6mm	61.1.30

●ヤマハ発動機				
TZ250	1RK	249.7cc	56mm×50.7mm	61.1.30

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公称月日
'86スポーツ専用市販車・モトクロス				
●本田技研工業				
XR80R	HE01	79.7cc	47.5mm×45mm	61.7.2
CR125R	JE01	124.8cc	54mm×54.5mm	61.9.30
CR250R	ME03	249cc	66.4mm×72mm	61.9.30
XR250R	ME06	249cc	73mm×59.5mm	61.10.13

●ヤマハ/発動機				
YZ80	2JF	79.1cc	47mm×45.6mm	61.9.9
YZ125	2HG	123cc	56mm×50mm	61.9.9
YZ250	2HH	246cc	68mm×68mm	61.9.9
●鈴木自動車工業				
RM80	RC12A	79cc	46.5mm×46.8mm	61.11.23
RM125	RF13A	123cc	54mm×54mm	61.11.23
RM250	RJ13A	246cc	60mm×70mm	61.12.15
RA125-II	SF13A	124cc	56mm×50.6mm	61.11.23
RH250-II	SJ11C	249cc	70mm×64.8mm	61.11.23

●川崎重工				
KDX200	KDX200C	199cc	66mm×58mm	61.10.13
KX80	KX080H	79cc	47mm×45.8mm	61.8.5
KX125	KX125E	124cc	56mm×50.6mm	61.8.5
KX250	KX250E	249cc	67.4mm×70mm	61.8.5

'86スポーツ専用市販車・トライアラー

●本田技研工業				
'87-TLM240R	F8F	236cc	72mm×58mm	61.10.13
RTL250S	ND9	249cc	70mm×64.9mm	61.1.30
'87-RTL250S	*	*	*	61.10.30
●ヤマハ/発動機				
TY250R	1LW	246cc	68mm×68mm	61.10.13

'86スクーター

●鈴木自動車工業				
ラン	CA11A	49cc	41mm×37.8mm	61.11.26
チャンス	CA12A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
パワ	CA13A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
ラプスリー	CA15A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
ハイ	CA18A	49cc	41mm×36.4mm	61.11.26
ラン	CA17A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
ジェンマ	A-CA18A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
モレ	A-FA14A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
カーナ	A-CA18A	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26
シュート	A-CA14B	49cc	41mm×37.4mm	61.11.26

'86輸入車両

●本田技研工業				
FANTIC TRIAL 125.1	FM267	124.4cc	55.2mm×52mm	61.8.5
FANTIC TRIAL 201	FM267	156.89cc	62mm×52mm	61.8.5
FANTIC TRIAL 241	FM289	212cc	69mm×56.5mm	61.8.5
●ヤマハ/発動機				
DUCATI	ZDM750R	748cc	88mm×61.5mm	61.7.9
DUCATI	ZDM750M	748cc	88mm×61.5mm	61.7.9
DUCATI	ZDM400R	398cc	70.5mm×51mm	61.7.9

'87一般市販車

●ヤマハ/発動機				
TW200	2JL	196cc	67mm×55.7mm	62.6.5
DT200R	2LR	196cc	66mm×57mm	62.3.31
TZR125	2RM	124cc	56.4mm×50mm	62.5.6
SDR	2TV	195cc	66mm×57mm	62.9.4
FZR400R	2TK	399cc	96mm×40.5mm	62.3.2
FZR750	2LM	749cc	68mm×51.6mm	62.3.31
XV400	2NU	399cc	68mm×55mm	62.3.31
XV400	2NT	399cc	68mm×55mm	62.3.31
SRX400	2NY	399cc	67mm×67.2mm	62.3.4
SRX800	2NX	808cc	96mm×84mm	62.3.4
●本田技研工業				
TLM200R	MD15	193cc	67mm×55mm	62.5.6
XLR80R	HD10	79cc	47.5mm×45mm	62.9.4
MONKEYR	A-AB22	49cc	39mm×41.4mm	62.4.2
NS50F AERO	A-AC08	49cc	39mm×41.4mm	62.3.31
NSR50	A-AC10	49cc	39mm×41.4mm	62.7.8

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公称月日
CBX125 CUSTOM	JC12	124cc	58mm×47mm	62.8.5
CBX125F	JC11	124cc	58mm×47mm	62.8.5
NS125R	TC01	124cc	56mm×50.6mm	62.8.5
VT250F	NC15	249cc	60mm×44.1mm	62.9.4
CBR250R	MC17	249cc	48.5mm×33.8mm	62.5.6
VTZ250	MC15	249cc	60mm×44.1mm	62.6.6
GB250 CLUBMAN	MC10	249cc	72mm×61.3mm	62.3.31
CBR400R	NC23	399cc	55mm×42mm	62.3.4
CBR750スーパーエアロ	RC27	748cc	70mm×48.6mm	62.9.4
VFR400R	NC24	399cc	55mm×42mm	62.5.6
VFR400Z	NC21	399cc	55mm×42mm	62.6.6
TRANSALP 600V	PD06	583cc	75mm×66mm	62.6.6
V45 MAGNA	RC28	748cc	70mm×48.6mm	62.6.6
VFR750R	RC30	748cc	70mm×48.6mm	62.12.9
ATC70		72cc		62.3.4
XL80S	HD04	79cc		62.3.4
XR80	XR80	79.7cc		62.3.4
モンキー	Z50J	49cc		62.3.4
ゴリラ	Z50J	49cc		62.3.4
ダックス	ST50	49cc		62.3.4
XL50S	AD03	49cc		62.3.4
XLR BAJA	MD22	249cc	73mm×59.5mm	63.1.6
NSR80	HC06	79cc	49.5mm×41.4mm	63.1.6
AX1	MD21	249cc	70mm×64.8mm	63.1.6

●鈴木自動車工業				
GSX-R250	GJ72A	249cc	49mm×33mm	62.3.31
RG250Γ	GJ21B	247cc	54mm×54mm	62.7.8
GSX-R400	GK71F	399cc	56mm×40.4mm	62.7.8
GSX-R750	GR71G	749cc	70mm×48.7mm	62.5.6
SAVAGE	NK41A	396cc	88mm×65.2mm	62.5.6
●川崎重工				
GPX250R	EX250E	249cc	62mm×41.2mm	62.3.31
GPX400R	ZX400F	398cc	56mm×40.4mm	62.3.31
GPZ400S	EX400A	398cc	70mm×51.8mm	62.3.31

'87スポーツ専用市販車・ロードレーサー

●ヤマハ/発動機				
TZ250	2KM	249.7cc	56mm×50.7mm	62.2.10
●本田技研工業				
'88RS125R	NF4	124cc	54mm×54.5mm	62.12.9
'88RS250R	NF5	249cc	54mm×54.5mm	63.1.6

'87スポーツ専用市販車・モトクロス

●ヤマハ/発動機				
YZ80	2VF	79.1cc	47mm×45.6mm	62.9.4
YZ125	2VN	123cc	56mm×50mm	62.9.4
YZ250	2VM	246cc	68mm×68mm	62.10.7
●本田技研工業				
CR80R	HE04	79.4cc	46mm×47.8mm	62.10.7
CR125R	JE01	124.82cc	54mm×54.5mm	62.10.7
CR250R	ME03	249.3cc	66.4mm×72mm	62.10.7

●鈴木自動車工業				
RM80	RC12A	79cc	46.5mm×46.8mm	62.10.7
RM125	RF13A	123cc	54mm×54mm	62.10.7
RM250	RJ14A	246cc	67mm×70mm	62.10.7
●川崎重工				
KX80	KX080B	60cc	43mm×41.6mm	62.9.4
KX80	KX080M	79cc	47mm×45.8mm	62.9.4
KX125	KX125F	124cc	56mm×50.6mm	62.9.4
KX250	KX250F	249cc	67.4mm×70mm	62.9.4

'87スポーツ専用市販車・トライアラー

●ヤマハ/発動機				
TY250R	3BB	246cc	68mm×68mm	62.11.4
●本田技研工業				
RTL50S	NT8	49cc	39mm×41.4mm	62.11.4
'88TLM250R	F8F	249cc	74mm×58mm	63.1.6
'88RTL250S	NNO	249cc	70mm×64.9mm	63.1.6

'87スクーター

●本田技研工業				
ザリアン CA50E	14T	49cc	40mm×39.2mm	62.2.11
ザリアン CA50ES	*	*	*	*

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公称月日
サリアンCA50ED	*	49cc	40mm×39.2mm	82.2.11
ジョグCE50E	27V	*	*	*
ジョグCG50E	2JA	*	*	*
チャンプCJ50EM	54V	*	*	*
チャンプCJ50E	*	*	*	*
チャンプCJ80ES	2GM	79cc	49mm×42mm	*
チャンプCJ50R	2NA	49cc	40mm×39.2mm	*
チャンプCJ50E	2NE	*	*	*
ミントSH50E	1YU	*	*	*
ミントSH50	*	*	*	*
キュートCN50ED	53L	*	*	*
トライCP50E	52W	*	*	*
ボックスCQ50E	1HV	*	*	*
エクセルCK50E	1YT	*	*	*
アクティブCH50EM	35R	*	*	*
アクティブCH50ET	*	*	*	*
パッソルS50	2E9	*	*	*
パッソルS50D	*	*	*	*
パッソルミリオンS50	*	*	*	*
パッソルII S50II	*	*	*	*
パッソルII S50IIE	*	*	*	*
パセッタSB50	5MO	*	*	*
パセッタSB50E	*	*	*	*
アクティブCH50E	35R	*	*	*
リードS	AF01	*	*	82.3.4
タフティ	AB19	*	*	*
シャリー70	CF70	72cc	*	*
リード80	HF01	79cc	*	*
スベイシー80	HF02	76cc	*	*
リーダー	A-AF03	49cc	*	*
エクスプレス	A-AB20	*	*	*
エクスプレスビジネス	*	*	*	*
ボーカル	A-AF04	*	*	*
イブ	A-AF06	*	*	*
ビート	A-AF07	*	*	*
フラッシュ	A-AB19	*	*	*
イブスマイル	A-AF06	*	*	*
ロードバル	NC50Z	*	*	*
R&P	CY50	*	*	*

車名	型式	排気量	ボア・ストローク	公称月日
ハミング	NC50	49cc	*	82.3.4
タフト	AB07	*	*	*
カレンS	AB04S	*	*	*
スカッシュ	AB11	*	*	*
ランナウェイ	AB13	*	*	*
リード	AF01	*	*	*
スカイ	AB14	*	*	*
スベイシー	AF02	*	*	*
モトラ	AD05	*	*	*
QR50	QR50	*	*	*
イブバックス	A-AF14	*	40mm×39.3mm	*
DJ1	A-AF12	*	40mm×39.3mm	*
DJ1R	*	*	*	*
イブバックスS	A-AF14	*	*	*
タフトフレッシュ	A-AF09	*	*	*
タフトフルマークS	*	*	*	*
タフト1VY	A-AF13	*	35.8mm×49.5mm	*
リードSS	A-AF10	*	40mm×39.3mm	*
リードR	*	*	*	*
ロードフォックス	ATB10	*	41mm×37.4mm	*
DJ1L	A-AF12	*	44×37.4mm	*
リード80SS	HF04	79cc	48mm×44mm	*
ジャズ	A-AC09	49cc	39mm×41.4mm	*
タフトフルマーク	A-AF16	*	41mm×37.4mm	82.5.6
バル	A-AF17	*	41mm×37.4mm	82.6.5
スベイシー125	JF03	124cc	52.4×57.8mm	82.6.5

●鈴木自動車工業株

カーナ	A-CA18A	50cc	41mm×37.4mm	82.8.5
HI-R	CA19B	49cc	41mm×37.4mm	82.5.6
MODE GT	A-CA1BA	49cc	41mm×37.4mm	82.5.6
ADDRESS	A-CA1CB	49cc	41mm×37.4mm	83.1.6

'87輸入車両

株式会社インターナショナル

FANTIC243	FM363	212cc	69mm×56.5mm	82.7.8
FANTIC303	FM364	249.4cc	74mm×58mm	82.7.8
FANTIC・TRIAL125	FM361	124.4cc	55.2mm×52mm	83.1.6

●株式会社

BETA TR-34	BETAB-3	239.2cc	72.8mm×57.5mm	82.2.10
------------	---------	---------	---------------	---------

FIM TTフォーミュラー公認車両

	本田技研工業株	ヤマハ発動機株	鈴木自動車工業株	川崎重工業株
FORMULA 1	CB850(RC03) CBX850C, VFR750F, CB750F2, CB750K CB750F2(RC04) NV750C, VF750F, VF750S, CBX750F, XLV750, VFR750, CBR600F, CBR750,	IT425, XJ650 RD500LC, XS850SP, XJ700X, XJ750, XJ750X, XV750, XS750E, XS850, RD400E, FZ750, SRX600, FZ700, FZ750, FZR750,	PE400, GR650, GS650EZ, GS650GZ, GS750, GSX-R750, GSX750E, GSX750EX, GSX750SZ, RG600R RG400R, GSX-R750R,	KZ650, KZ750, KZ750V, KZ750 (Z2) ZX750A, GPZ750R, VN750, ZX750F (GPX750R)
FORMULA 2	CX500, VT500, XL500R, XR500R, FT500, CB550F2, CBX550F2, XL600R, VF500F, CBR600F, TRANSALP600V,	RD350(RZ350) XT500, SR500, XJ550, XJ600, XT550, XV500, XT600Z, XZ550, RD350(31K)RZR, SRX600, TT600 FZ600,	DR500SZ, GS500E, GS550E, GS550M, GSX550E,	KZ500, KZ550, KZ550H, GPZ600R,
FORMULA 3	CB400N, CB400F1, CBX400F, CBR400F, MVX250F, NS250R, MTX200R, XR350R, XL400R, VF400F, NSR250R, VFR400R, CBR400R, VFR400R (PRO ARM)	RD250(RZ250), XT350, XJ400, DT200, XS400, FZ400R, RD250 (31L)RZR, SR400, FZ400N, XT400, XJ400ZS, XZ400, FZR400, TZR250,	GSX400F, GSX400E DR400S, GN400L, RG250W(RG250IT), GSX400WR,	KZ400, KZ400M, GPZ400F, GPZ400R, KR250A,
ホー4	CBR250R	TZR125		

'85 MFJ公認部品

会社名	部品名	型式	適用車種	公称月日
東京機械製作所	2サイクルE/G用キャブレター-ASSY	PJRR34	ロードレース用	80.12.15
	2サイクルE/G用キャブレター-ASSY	PJRR36	ロードレース用	80.12.15

会社名	部品名	型式	適用車種	公認年月
東京精密製作所	2サイクル/E用キャブレターASSY	PJRR38	ロードレース用	60.12.15
	2サイクル/E用キャブレターASSY	PJMX34	モトクロス用	60.12.15
	2サイクル/E用キャブレターASSY	PJMX36	モトクロス用	60.12.15
	2サイクル/E用キャブレターASSY	PJMX38	モトクロス用	60.12.15
	2サイクル/E用キャブレターASSY	CRS36	ロードレース・モトクロス用	60.8.28
	2サイクル/E用キャブレターASSY	CRS38	ロードレース・モトクロス用	60.8.28
無 限	無限'86ME125エンジン/パワーアップキット	YA1	モトクロス用	60.11.28
カヤバ工業㈱	リヤショックユニット	OG-T	ロードレース用	60.11.28
	リヤショックユニット	OGS-T	ロードレース用	60.11.28
RC SUGO	TZR250用6速クロスミッションキット	1KT	TZR250	60.10.27
	FZ750クロスミッションキット	1FM-M	FZ750	60.3.28
無 限	H-H シリンダー	49VHH	TZ250('81~'84)	60.2.25
株ホンダレーシング	NS250R用6速ミッションキット	NE8	NS250R	60.3.28
	CBR400F用6速ミッションキット	NE5	CBR400F	60.2.25
	VF400F用6速ミッションキット	NE4	VF400F	60.2.25
	RS125R-V用キャブレターASSY	PJ12A	RS125R-V	60.2.25
	クロスレシオトランスミッション	ZX400-O1	GPZ400R	60.3.28
株カワサキモーターサービス	KR250用6速クロスミッションセット	KR250AEM	KR250	60.03.28
	GPZ400R用6速クロスミッションセット	ZX400DEM	GPZ400R	60.3.28

'86 MFJ公認部品

会社名	部品名	型式	適用車種	公認月日
RC SUGO	FZR400用クロスミッションキット	1WG	FZR400	61.4.28
	TZR250用クロスミッションキット	1KT	TZR250	61.10.13
カワサキオートバイ販売㈱	GPZ400R用フロントフォークキット	ZX-R1	GPZ400R	61.7.9
	ヨシムラジャパン㈱	GSX-R400用クロスミッション	YC66	GSX-R400
株ホンダレーシング	トランスミッションセット	NF2	VFR400R/Z	61.3.26
	トランスミッションセット	NF8	CBR400R	61.7.9
	トランスミッション	NH3	NSR250R	61.10.30
無 限	無限SHOWA'87ME125ワークスフォークパーツ	YA1	'87CR125RH	61.12.15
	無限SHOWA'87ME125スペシャルリヤクッション	YA1	'87CR125RH	61.12.15
	無限SHOWA'87ME250ワークスフォークパーツ	YA2	'87CR250RH	61.12.15
	無限'86ME125フロントフォークASSY	YA1	'86CR125RG	61.1.30
	無限'86ME125スペシャルリヤクッション	YA1	'86CR125RG	61.1.30
	無限'86ME250スペシャルリヤクッション	YA2	'86CR250RG	61.1.30
	無限'86ME250ワークスフォークパーツ	YA2	'86CR250RG	61.1.30

'87 MFJ公認部品

会社名	部品名	型式	適用車種	公認月日
株ホンダレーシング	トランスミッションセット	NFZ	VFR400R/2	62.5.6
無 限	ME125Wエンジン/パワーアップキット	YA1	CR125RH	62.3.4
RC SUGO	SRX400クロスミッション	2NY	SRX400	62.3.31
	'87TZR250クロスミッション	1KT	'87TZR250	62.3.31
	SRX800クロスミッション	2NX	SRX800	62.3.31
株スポーツショップイシイ	TZR250レース用リヤショックASSY	YC-1006	TZR250	62.9.4
川崎重工業㈱	KX125フロントフォークカートリッジキット	KX125-FC	KX125	62.3.31
	KX250フロントフォークカートリッジキット	KX250-FC	KX250	62.3.31
無 限	ME125エンジン/パワーアップキット	YA1	CR125RJ	62.12.9
	ME125フロントフォークキット	YA1	CR125RJ	62.12.9
	ME125リヤクッション	YA1	CR125RJ	62.12.9
	ME250フロントフォークキット	YA2	CR250RJ	62.12.9
	ME250リヤクッション	YA2	CR250RJ	62.12.9
株カロッツェリアジャパン	オーリンス・ガスショックアブソーバー	YA7100	TZR250	63.1.6
	オーリンス・ガスショックアブソーバー	DV7430	TZR250	63.1.6
	オーリンス・ガスショックアブソーバー	BM4412	K5 K16 K25 26 CR15 20 K13 20	63.1.6
カヤバ工業㈱	NSR250用リヤショック		NSR250	63.1.6

'86公認タイヤ

会社名	タイヤ名	サイズ	公認年月
井上ゴム工業㈱	TRIAL WINNER	4.00R18 TR-7 RADIAL	61.3.26
株日本ダンロップ	K320	2.75-21 4P.R.	61.11.23
	K320	4.00R18 4P.R.	61.11.23

'87公認タイヤ

会社名	タイヤ名	サイズ	公認月日
井上ゴム工業㈱	TRIAL WINNER TR-9	4.00R18 (RADIAL)	62.7.8
日本ミシュランタイヤ㈱	MICHELIN TRIAL COMPETITION X1 TL	4.00R18 TL	62.7.8

'83~'84公認ヘルメット(ロードレース特選)

競アライヘルメット	XJ040 RZR RZ035 高橋国光 X-75 AVANTI スベンサーレプリカ クーラーレプリカ スーパードルフィン K-700 FA-200 シングルトン レプリカ VENT ASTRO SL-80 松本幸二 CLCRX-7	競アライヘルメット	RACER REPLICA SUPER VENT RAPIDE RACING VENT
	昭栄化工機	RF-KATAYAMA TASK-1 TASK-3 TASK-5 W-GARDNER V-II ARMET ER-II GR-Z ER-7 RF-102 RF-101 RF-VOGUE RF-GARDNER	

'85公認ヘルメット

会社名	名 称	取 得 規 格	形 状	公認年月
昭栄化工機	PS-J15	JIS-C・ツーリング用	ジェット	60.5.20
	PS-J46	JIS-C・ツーリング用	ジェット	60.5.20
	PS-J47	JIS-C・ツーリング用	ジェット	60.5.20
	PS-J48	JIS-C・ツーリング用	ジェット	60.5.20
	RF-V KATAYAMA II	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.6.10
	PS-R61	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.6.10
	PS-R62	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.6.10
	PS-R66	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.6.10
	VT-1	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.6.10
	PS-J50	JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.8.28
	VX-1	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.8.28
	VX-2	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.11.22
	PS-L52	JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.11.22
	PS-L53	JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.11.22
新光機モーターズ	KVAS(KVL-KEVLAR)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.4.16
	KVAS(TV-FIBER)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.4.16
	KVAS(CROSS)	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.4.16
	MDS(M84)	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.3.28
	MDS(M90)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.3.28
	AGV(X70)	JIS-C・ロードレース・モトクロス用	ジェット	60.3.28
	MDS(M81)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.3.28
	AGV(X300/83)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.3.28
	MDS(M83)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.3.28
	GPA(G1)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.1.29
	GPA(G2)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.1.29
ジャーティン・マゼソン・アンド・カンパニー(ジャパン) リミテッド	GPA(G4)	JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.1.29
	GPA(F1)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.3.28
	GPA(C1)	JIS-C・モトクロス用	フルフェイス	60.3.28
	GPA(E1)	JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.4.16
ワールド通商機	ボルシェ・デザイン(CP-4)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.2.25
朝日ヨール	ファンティックモーター	JIS-B・ツーリング用	ジェット	60.2.25
朝日コミネオートセンター	KF-RX	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.6.10
	KF-RX	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.10.8
朝立花自動車部品	アクセルクレード	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.7.15
朝日機	NOLAN N42	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	60.2.28
マルシン工業機	VT-810	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	60.9.18
	VT-810	SNELL JIS-C・モトクロス用	ジェット	60.9.18
朝日レイズ	クラウドター(JET-1)	JIS-C・モトクロス・トライアル用	ジェット	60.9.18

'86公認ヘルメット

会社名	名 称	取 得 規 格	形 状	公認年月
昭栄化工機	GX-1	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.3.26
	PS-J48	JIS-C・ツーリング用	ジェット	61.4.28
	PS-J20	JIS-C・ツーリング用	ジェット	61.4.28
	PS-J51	JIS-C・ツーリング用	ジェット	61.4.28
	PS-J52	JIS-C・ツーリング用	ジェット	61.4.28
	PS-R20	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.4.28
	RF-a	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.4.28
	TR-2	JIS-B・トライアル用	ジェット	61.7.2
	VJ-1	JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.8.5
	RF-REAL	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.10.13
	R-76	SNELL・JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.11.23
	R-77	SNELL・JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.11.23
	R-78	SNELL・JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	61.11.23

会社名	名称	取得規格	形状	公認年月
昭栄化工株	R-79	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェース	61.11.23
	RF-VESTA	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェース	61.11.23
興和精機株	GRIFFIN(G100TD)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	61.10.23
	GRIFFIN(GS-520)	JIS-B・ツーリング用	フルフェース	61.10.23
	GRIFFIN(GX-707)	JIS-B・ツーリング用	フルフェース	61.10.23
	GRIFFIN(GS530)	JIS-B・ツーリング用	フルフェース	61.11.23
東京シート株	AMI(L06)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	61.7.2
	R91	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.7.2
ワールド通商株	KIWI(K-16)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.7.2
熊ジャ/パンロダクト	R120N R2-1	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.7.2
株式会社インターナショナル	NAVA	JIS-C・トライアル用	セミジェット	61.7.26
熊ヤナセ	FJ(FJ-01)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.5.28
	FJ(FJ-02)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.4.28
熊谷尾商會	NAVA 3A/C	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	61.4.28
日栄プラスチック株	DIC(TY-1)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.4.30
	DIC(DF-1)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.1.9
熊大都	BELL(MAG-4)	SNELL JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.9.30
熊光機モータース	AGV(KR2000)	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	61.1.30
ユニコ株	VS-2	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.3.26
	NEF(VS-2)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.12.15
ヤマハ大船渡製造株	GEORAMA-TS	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.1.30
	GEORAMA-RS	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.2.24
	FE-X	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.2.24
	OE	JIS-C・モトクロス用	フルフェース	61.2.24
熊コミネオートセンター	KF-RV	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.3.26
	KF-RC	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	61.9.9
	ANSWER	SNELL JIS-C・モトクロス用	フルフェース	61.9.9
クノー工業株	EF-2	JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.8.5
	DELTA	JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.8.5
	AIGLE	JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.8.5
	LYNX	JIS-C・モトクロス用	ジェット	61.8.5

'87公認ヘルメット

会社名	名称	取得規格	形状	公認年月	
日栄プラスチック株	DIC(DF-2)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.3.31	
	DIC(GP'87)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.7.7	
	DIC(K)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.9.4	
	DIC(AR)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.9.4	
	DIC(ZIO)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.11.4	
熊ヤナセ	F-J(FJ-II・インテグラ)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.7.7	
熊谷尾商會	NAVA-8	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.7.7	
熊極東	NOLAN N-25	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.5.6	
熊丸万茂又	MAC	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.8.5	
クノー工業株	SETA(845)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.3.4	
興和精機株	GRIFFIN(GX707)	JIS-C・モトクロス用	フルフェース	62.3.4	
	GRIFFIN(GS530)	JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.3.4	
熊オール・エス・タイチ	JT(ALS-1)	JIS-C・モトクロス用	ジェット	62.9.4	
	JT-(ALS-2)	JIS-C・モトクロス用	フルフェース	62.9.4	
昭栄化工株	1F-SARRON	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェース	62.3.4	
	VJ-201	JIS-C・ツーリング用	ジェット	62.3.31	
	TJ-72	JIS-C・ツーリング用	ジェット	62.6.31	
	GX-2	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェース	62.6.5	
	GX-2 (FAVOR)	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェース	62.6.5	
	RFV-TASK5	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	RFV-VESTA	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	GRV	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	RFV-VOGUE	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	RF-TRITONE	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	RFV-DEGREE	SNELL JIS-C・ロードレース特選	フルフェイス	63.1.6	
	東京シート株	AMI(L-06)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	62.10.7
		AMI(L-07)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	62.10.7
		AMI(L-08)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	62.10.7
RHEOS(R-21)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-82)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-93)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-94)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-95)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-96)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
RHEOS(R-97)		JIS-C・ロードレース用	フルフェース	62.10.7	
ワールド通商株	SEED(J-23)	JIS-B・トライアル・ツーリング用	ジェット	62.10.7	
	KIWI K-20	JIS-C・ロードレース用	フルフェイス	63.1.6	

MFJ 共済会制度(昭和63年1月1日改定)

種 目	MFJ共済会掛金 (1名1大会)	共済会見舞金支払条件		請求のために必要な書類
		最高限度額 (死亡、後遺症100%)	給付金傷害保険支払い額	
ロードレース	3,500円	MFJ共済会給付金 700万円	MFJ共済会給付金 ①通院日数(ギブス等の固 定期間及び通勤、通学、就 業が不可能として診断さ れた日数含む)×1,000円 ②入院日数×1,500円 ③診断書作成保助金 5,000円	○MFJ共済会給付金請求書 (様式9) ○完治したときの医師の診 断書 (様式10) (死亡、後遺症の場合は MFJが指定する他の書 類が必要となります。)
スポーツプロダクション ロードレース (50・80ccのロードレース含む)				
公認サーキットにおける シングル・ツイン・クラシックレース	2,000円	MFJ共済会給付金 600万円	MFJ共済会給付金 ①通院日数(ギブス等の固 定期間及び通勤、通学、就 業が不可能として診断さ れた日数含む)×1,000円 ②入院日数×1,500円 ③診断書作成保助金 5,000円	○MFJ共済会給付金請求書 (様式9) ○完治したときの医師の診 断書 (様式10) (死亡、後遺症の場合は MFJが指定する他の書 類が必要となります。)
モトクロス (125cc以上)	1,000円			
ミニモトクロス (80cc以下)	500円			
トライアル	200円			
ミニバイクレース (カートコースまたはこれに準ずる コースにおいて総排気量80cc以下 で行なわれるもの)	500円			
エンデューロ	500円			
ジムカーナ	500円			
スノーモビル	500円			
ロードレースライセンス講習会 (ライセンス保持者のレーシングスクール会)	1,000円			
モトクロスライセンス講習会 (ライセンス保持者のテクニカルスクール会)	500円			
トライアルライセンス講習会 (ライセンス保持者のテクニカルスクール会)	200円			
スノーモビルライセンス講習会	500円			
ミニバイクライセンス講習会	200円			
ロードレース競技役員講習会	200円			
モトクロス競技役員講習会	200円			
トライアル審判員講習会	200円			
種 目	MFJ共済会掛金 (1名1年間)	給付金支払条件		請求のために必要な書類
		最高限度額 (死亡、後遺症100%)	給付金傷害保険支払い額	
ビ ッ ト ク ル ー	500円 (ライセンス料に含まれる)	MFJ共済会給付金 600万円	MFJ共済会給付金 ①通院日数(ギブス等の固 定期間及び通勤、通学、就 業が不可能として診断さ れた日数含む)×1,000円 ②入院日数×1,500円 ③診断書作成補助金 5,000円	○MFJ共済会給付金請求書 (様式9) ○完治したときの医師の診 断書 (様式10) (死亡、後遺症の場合は MFJが指定する他の書 類が必要となります。)
競 技 役 員				
講 師				

☆見舞金の支払われる期間は受傷日から最高180日以内の入院および通院の実日数分となります。

☆見舞金の請求期限は受傷日より一年以内です。一年以上経過しますとその請求権は無効となります。

☆見舞金の支払われる適用範囲は公認又は承認された当該競技会の公式日程期間(主催者が申請した大会期間)で、かつ競技監督の統轄下において行なわれた競技中、又は公式練習中に発生した事故とする。

☆同一大会で二種目以上出場する場合は掛金の高い種目が適用されます。

☆上記共済会は治療費が支払われませんので各自の健康保険証で治療を受けて下さい。

ライセンス自動付帯搭乗者傷害見舞金

対象者	見舞金の対象事故	見舞金額	請求のために必要な書類
MFJライセンス所持者すべて	MFJライセンス保持者本人が家用自動車、自動二輪、原付を運転中または搭乗中に被った損害	死亡…120万円 後遺症…120万円 ↓ 13.6万円	大正海上火災保険が指定する書類

共済会給付金請求の手続きは……

1. まず主催者に連絡

負傷したその日に主催者に連絡してください。万一その日に連絡できない場合は、負傷日より2日後までにご連絡ください。なお、連絡がない場合は、見舞金が支払われませんのでご注意ください。

2. 大会主催者からMFJ共済会給付金請求書(様式9)と診断書書式(様式10)をもらう

ケガをした大会の主催者またはMFJに、MFJ共済会給付金請求書(様式9)と診断書書式(様式10)を請求して下さい。

3. 請求先は主催事務局です。

請求書中の必要な事項を自分で記入し、治療先の医師に診断書の記入を依頼して下さい。書類は一括して負傷者本人(代理人でもよい)が主催者事務局長宛に請求してください。見舞金は書類に不備のない場合に限り、2ヵ月以内に指定口座に振り込まれます。



歴代チャンピオン

'87全日本選手権シリーズチャンピオン(国際A級)



♥ロードレース
藤原健彦(500cc)



♥ロードレース
清水雅広(250cc)



♥ロードレース
飯本 久(125cc)



♥ロードレース
大島行弥(F1)



♥ロードレース
田口益充(F3)



♥モトクロス
東福寺保雄(250cc)



♥モトクロス
岡部篤史(125cc)



♥トライアル
伊藤敦志

ROAD RACE

●ロードレース('68~'87年)



年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	
'68	アマチュア	90cc	角谷 新二	'73	ジュニア	125cc	青山 英二	'73	ジュニア	250cc	大本 十生	
		125cc	鈴木 聖弘			250cc	糟野 雅治			250cc以上	片山 敬済	
		250cc	大脇 俊夫			250cc以上	只野 光男			125cc	渡辺富士夫	
		250cc以上	中山 仁			90cc	近藤 英二			250cc	隔部 孝夫	
	ジュニア	90cc	酒井 直吾		セニア	125cc	小田 豊		ジュニア	250cc以上	250cc以上	内田 隆
		125cc	森井 一夫			250cc	大脇 俊夫			125cc	小田 豊	
		250cc	谷口 茂夫			250cc以上	河崎 裕之			250cc以上	小田 豊	
		250cc以上	妻木 哲哉			90cc	平井 裕			90cc	杉野 順三	
	セニア	90cc	神谷 良明		ノービス	125cc	上田 公次		ノービス	125cc	125cc	松山 守
		125cc	馬場 忠雄			250cc	大橋 富夫			250cc	橋本久仁啓	
		250cc	和田 正宏			250cc以上	松谷 光明			90cc	新田 茂	
		250cc以上	松永 重			90cc	渡辺富士夫			125cc	坂 公平	
'69	アマチュア	90cc	野田 正彦	'71	ジュニア	125cc	青木 辰己	'74	ジュニア	250cc	山崎 達衛	
		125cc	斎藤 茂憲			250cc	内田 隆			350cc	佐藤 順造	
		250cc	中尾 康夫			250cc	加藤 昇平			125cc	毛利 良一	
		250cc以上	数井 隆			90cc	江崎 正			750cc	片山 敬済	
	ジュニア	90cc	角谷 新二		エキスパート	125cc	遠藤 恒雄		ジュニア	125cc	125cc	角谷 新二
		125cc	高井幾次郎			250cc	中尾 康夫			750cc	根本 健	
		250cc	尾崎 俊彦			250cc以上	浅見 真男			90cc	岡崎 隆史	
		250cc以上	里村 祥二			90cc	金谷 秀夫			125cc	佐藤 健正	
	セニア	90cc	小田 豊		セニア	125cc	杉本 泉		ノービス	250cc	250cc	酒井 克
		125cc	隅谷 守男			250cc	大脇 俊夫			90cc	合津 悟志	
		250cc	金谷 秀夫			250cc	金谷 秀夫			125cc	石井 康夫	
		250cc	隅谷 守男			90cc	菅原 伸夫			250cc	橋本久仁啓	
'70	ノービス	90cc	岩道 博	'72	ノービス	125cc	坂 公平	'74	ジュニア	350cc	鈴木 修	
		125cc	柴谷 正昭			250cc	上野 真一			125cc	岩道 博	
		250cc	小塚 法正			250cc以上	富江 昭孝			750cc	阪本 裕介	
		250cc以上	鍋田 正明			90cc	毛利 良一			125cc	青木 辰己	
	ジュニア	90cc	江崎 正		ジュニア	125cc	大本 十生		セニア	750cc	750cc	高井幾次郎

100
付録

年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名
'75	アマチュア	90cc	片橋 英治	'79	エキスパート	750cc	上野 真一	'84	国際 A 級	250cc	斉藤 光雄
		125cc	東金 育男		125cc	富田 英志	500cc			平 忠彦	
		250cc	橋谷 俊彦		ノービス	250cc	斉藤 光雄		ノービス	フォーミュラ3	斉藤 兼一
	90cc	田口 勝雄	ジュニア		125cc	吉村 俊宏	125cc			山田 清史	
	125cc	山梨 保	250cc		阿部 三吉	250cc	平 忠彦		250cc	塩森 俊彦	
	250cc	酒井 克	350cc		平 忠彦	国際 A 級	125cc		斉藤 三大	フォーミュラ1	宮城 光
	350cc	大島 孝治	350cc		斉藤 三夫	250cc	木下 恵司		125cc	宮城 光	
	125cc	相沢 清	750cc		水谷 勝	250cc	水谷 勝		250cc	清水 雅広	
	750cc	石井 康男	ノービス		125cc	五百部徳雄	250cc		窪田 正二	250cc	田村 圭二
	125cc	江崎 正	250cc		窪田 正二	国際 A 級	125cc		山本 陽一	フォーミュラ1	八代 俊二
750cc	浅見 貞男	250cc	山本 陽一	ジュニア	125cc	垣内 清孝	125cc	江崎 正			
'76	ノービス	90cc	牧野 栄	350cc	田中 光男	250cc	田中 光男	500cc	栗谷 二郎		
		125cc	川上 浩	国際 A 級	125cc	一瀬 憲明	250cc	栗谷 二郎			
		250cc	木下 恵司	250cc	一瀬 憲明	500cc	栗谷 二郎				
	125cc	東金 育男	ノービス	125cc	荒木 利春	国際 B 級	フォーミュラ1	袴田 聡			
	250cc	水谷 勝	250cc	中山 博文	フォーミュラ3		太田 浩一				
	350cc	太田 一博	国際 B 級	125cc	竹村 浩生	125cc	井上 賢博				
	125cc	飯田 浩之	250cc	七尾 道夫	250cc	塩森 俊彦	250cc	塩森 俊彦			
	250cc	毛利 良一	350cc	新井 亮一	国際 A 級	125cc	辻本 聡	250cc	辻本 聡		
	350cc	佐藤 順造	125cc	一瀬 憲明	500cc	一瀬 憲明	250cc	山本 陽一			
	750cc	高井幾次郎	国際 A 級	350cc	藤本 泰東	ジュニア	フォーミュラ3	町井 邦生			
90cc	鈴木 利彦	500cc	木下 恵司	125cc	藤沢 哲也						
'77	ノービス	125cc	佐藤 裕文	ノービス	125cc	藤田 雅樹	国際 A 級	フォーミュラ3	町井 邦生		
		250cc	藤本 泰東	250cc	三浦 昇	250cc		町井 邦生			
		125cc	川上 浩	国際 B 級	125cc	荒木 利春	250cc	山本 陽一			
	250cc	山名 久	250cc	小林 大	250cc	一瀬 憲明	250cc	辻本 聡			
	350cc	徳井 仁久	国際 A 級	125cc	福田 照男	500cc	水谷 勝	250cc	吉田 健一		
	90cc	平野 芳男	250cc	水谷 勝	ジュニア	フォーミュラ3	新垣 敏之	250cc	佐藤聡一郎		
	125cc	飯田 浩之	フォーミュラ3	宮城 光	250cc	宮城 光	250cc	嶋村 健太			
	350cc	鈴木 修	125cc	吉田 健一	250cc	宮城 光	250cc	田口 益光			
	750cc	毛利 良一	250cc	藤田 雅樹	250cc	坂口 彰	250cc	大島 行弥			
	'78	ノービス	125cc	上田 幸也	国際 B 級	125cc	藤田 雅樹	国際 A 級	125cc	大島 行弥	
250cc			長谷川嘉久	250cc	坂口 彰	250cc	清水 雅広				
125cc			伊藤 裕之	国際 A 級	125cc	栗谷 二郎	500cc	藤原 儀彦			
250cc		伊藤 巧	ノービス	125cc	宮城 光	ジュニア	フォーミュラ3	新垣 敏之			
350cc		藤本 泰東	250cc	吉田 健一	250cc		佐藤聡一郎				
125cc		上田 公次	250cc	宮城 光	250cc	嶋村 健太	250cc	嶋村 健太			
250cc		上田 公次	250cc	藤田 雅樹	250cc	田口 益光	250cc	大島 行弥			
350cc		石川 岩夫	250cc	坂口 彰	250cc	栗谷 二郎	250cc	清水 雅広			
350cc		石川 岩夫	250cc	栗谷 二郎	500cc	藤原 儀彦	500cc	藤原 儀彦			

MOTOCROSS

●モトクロス(68~87年)



年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名
'68	アマチュア	50cc	堀 勇	'68	セニア	125cc	星野 一義	'69	セニア	125cc	矢島金次郎
		90cc	堀 勇			250cc	山本 隆			250cc	鈴木 忠男
		125cc	堀 勇		50cc	田中 敏夫	ノービス		50cc	一色 薫	
		250cc	山下 和男		90cc	多田 茂次			90cc	小田切信雄	
		251cc	山下 和男		125cc	中里 道夫	250cc		岩尾 一敏	125cc	平野 芳男
	ジュニア	50cc	蛭名 博昭	'69	ジュニア	50cc	堀 勇		250cc	青木 雅和	
		90cc	蛭名 博昭			90cc	堀 勇		90cc	鈴木都良夫	
		125cc	西 信之		125cc	鈴木 秀明	125cc		岩尾 一敏		
		250cc	西 信之		250cc	鈴木 秀明	250cc		岩尾 一敏		
		251cc以上	ロバート・ビーモ		250cc	鈴木 秀明	セニア		125cc	吉村 太一	
セニア	90cc	星野 一義	セニア	90cc	山本 隆	セニア	250cc	吉村 太一			

年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名
'71	ノービス	90cc	栗原 和年	'75	エキスパート ジュニア	125cc	東福寺保雄	'81	国際B級	125cc	岡部 篤史
		125cc	栗原 和年			250cc	東福寺保雄			250cc	岡部 篤史
	250cc	斉藤 英夫	125cc	杉尾 良文	国際A級	125cc	東福寺保雄				
	90cc	中村 忠	250cc	増田 耕次		250cc	福本 敏夫				
ジュニア	125cc	杉浦 種保	ジュニア	90cc	月岡 尚人	ジュニア	125cc	ロン・キンダー			
	250cc	竹沢 正治		125cc	月岡 尚人		250cc	馬場 善人			
エキスパート	ジュニア	125cc	瀬尾 勝彦	'76	エキスパート ジュニア	250cc	横山 隆夫	国際B級	125cc	小橋 勝年	
		250cc	瀬尾 勝彦			125cc	光安 鉄美		250cc	小橋 勝年	
	125cc	矢島金次郎	250cc	青山 金助	国際A級	125cc	大関 昌典				
	250cc	上野 広一	125cc	鈴木都良夫		250cc	東福寺保雄				
ノービス	ノービス	90cc	藤 秀信	ジュニア	ジュニア	250cc	竹沢 正治	ジュニア	125cc	天田 淳	
		125cc	藤 秀信			90cc	渡辺 義己		250cc	天田 淳	
	250cc	藤 秀信	125cc	小沢 孝	国際B級	125cc	茶谷 学				
	125cc	小田切信雄	260cc	福田 正敏		250cc	茶谷 学				
エキスパート	ジュニア	250cc	池田 勝	エキスパート ジュニア	ジュニア	125cc	佐藤 健二	国際A級	125cc	杉尾 寛	
		90cc	唐沢栄三郎			250cc	大泉 浩一		250cc	村尾 良文	
	125cc	唐沢栄三郎	125cc	瀬尾 勝彦	ジュニア	125cc	調所 伸一				
	250cc	唐沢栄三郎	250cc	瀬尾 勝彦		250cc	小栗 伸幸				
ノービス	ノービス	125cc	鈴木 秀明	ジュニア	ジュニア	90cc	原本 松市	国際B級	125cc	菅原 義広	
		250cc	鈴木都良夫			125cc	庄司 覚		250cc	鶴田 忍	
	90cc	菅家 恵	250cc	ジュニア フェイザン・ブルック	国際A級	125cc	東福寺保雄				
	125cc	村上 光則	125cc	佐々木 陸		250cc	スティーブ・マーン				
ジュニア	ノービス	250cc	菅家 恵	ジュニア	ジュニア	250cc	佐々木 陸	ジュニア	125cc	長沼 朝之	
		90cc	古田 哲郎			125cc	瀬尾 勝彦		250cc	花田 茂樹	
	125cc	古田 哲郎	250cc	光安 鉄美	国際B級	125cc	田淵 武				
	250cc	古田 哲郎	90cc	斉藤 武男		250cc	川崎 智之				
エキスパート	ジュニア	125cc	岸川 清秀	ジュニア	ジュニア	125cc	大久保和親	国際A級	125cc	岡部 篤史	
		250cc	藤 秀信			250cc	堀口 雅史		250cc	スティーブ・マーン	
	125cc	鈴木都良夫	エキスパート ジュニア	125cc	秋元 春夫	ジュニア	125cc	藤本 正勝			
	250cc	鈴木 秀明		250cc	原口 衛		250cc	吉田 和泉			
ノービス	ノービス	90cc	谷川 徹二	ジュニア	ジュニア	125cc	光安 鉄美	国際B級	125cc	花田 茂樹	
		125cc	光安 鉄美			250cc	光安 鉄美		250cc	花田 茂樹	
	250cc	大賀 広美	125cc	小野沢良一	国際B級	125cc	伊田井佐夫				
	125cc	渡辺 明	250cc	小野沢良一		250cc	東福寺保雄				
ジュニア	エキスパート ジュニア	250cc	渡辺 明	国際B級	国際B級	125cc	谷川龍太郎	ジュニア	125cc	岸田 隆夫	
		125cc	鈴木 秀明			250cc	庄司 覚		250cc	橋本 慎二	
	250cc	鈴木 秀明	125cc	東福寺保雄	国際B級	125cc	吉田 和泉				
	90cc	北村 隆賢	250cc	杉尾 良文		250cc	石橋 博也				
ジュニア	ジュニア	125cc	青山 金助	国際A級	国際A級	125cc	平山 勝一	国際A級	125cc	岡部 篤史	
		250cc	青山 金助			250cc	茶谷 学		250cc	東福寺保雄	

TRIAL

●トライアル(74~87年)



年	部門	氏名	年	部門	氏名	年	部門	氏名
'74	ノービス	伊吹健次志	'79	ジュニア	佐藤雄一志	'84	国際B級	米沢満夫也
	ジュニア	近藤博志		国際A級	近藤博志		国際A級	山本昌也
'75	ジュニア	蜂巣秀男	'80	ジュニア	広木一美	'85	国際B級	泉 裕明
	エキスパート	加藤文博		国際A級	丸山 崇保		国際B級	山本昌也
'76	ジュニア	町田晴男	'81	ジュニア	石原正美	'86	国際B級	小林直樹也
	エキスパート	黒山 一郎		国際A級	黒山 一郎		国際A級	山本昌也
'77	ジュニア	山本昌也	'82	国際B級	高田雅孝	'87	国際B級	小谷 徹
	エキスパート	近藤博志		国際A級	高山 本昌也		国際A級	伊藤 敏志
'78	ジュニア	山田民雄	'83	国際B級	和田弘行			
	エキスパート	近藤博志		国際A級	山本昌也			



I feel Coke.[®]

さわやかテイステイコカ・コーラ

© 1991

レーシング技術の、知的フィードバック

サーキットで得たレーシングテクノロジーをダイレクトにフィードバックしたタイヤ。そう謳う製品は数多くあるが、そのフィードバックには、きわめて知的で科学的なアプローチが必要だ。モータースポーツのすべてが最後の瞬間、0.01%を運命の女神の手にゆだねざるを得ないとしても、99.99%は厳しくテストされた科学の結果でなくてはならない。世界のコンペティションシーンで「頂点」を演じてきたミシュランは、プロダクションマシンのために、そのテクノロジーをどうフィードバックさせたか、その知的で独創的なアプローチの一端を示すプロセスを、ここで語りたい。あのスリックのフィーリングを忠実に再現する方法。

たとえば、超ポテンシャル・プロダクションマシンのために開発されたハイ・スポーツTF11/TG22のトレッドパターンは、次のようなプロセスを経て生れてきた。その解答となるキーは、実はスリックタイヤに発生するシワ(エフォート)の中にあつたのだ。ストリート走行が必須メニューとして加わるTF11/TG22には、急激な気象・路面の変化に対して、きわめて効果的なグルーピングが必要となる。ミシュランはそのトレッドパターンのデザインにあたって、世界の頂点といえる勝つ技術の再現として、走行後のスリックタイヤに発生したシワの、徹底的な分析からスタートした。はたして、そのシワの意味は、何か。ミシュランの旺盛な探究心と好奇心は、高性能領域への手がかりをキャッチした。まず上の写真を見てほしい。きわめてミクロだが3つのシワが存在する。



タイヤに要求される特性が、3つのシワの流れを促した。

走行方向に対して、トレッドセンター①では、加速/制動により「垂直」に、そしてセンター/ショルダー間②では、エンジトルク/スリップアングルレジスタンスにより、「斜め」に、さらにショルダー部③ではスリップアングルレジスタンスにより「平行」にそれぞれ応力のかかる方向に対し、等し(90°)の角度で生じるシワを発見することができる。ミシュランは、この事実に着目し、前後輪にそれぞれ要求される特性をふまえた上で、グルーピングを、そのシワに施したのである。シワの存在は走行中のタイヤに、どんな力が加わったか、その結果を表わしている。

未体験ゾーンへ。シワの科学の実証。

トレッドを変形させようとする各種応力を整合させたこのコンセプトは、同時にグループの変形をも追放。最低限のグループで、最高の排水性を獲得することになる。ドライ路面ではスリック、ウェット路面ではインターミディエイト。と、コンペティションタイヤに匹敵する圧倒的なグリップ特性を実現したので、ミシュランは、この結論に到達するまで、世界のレースシーンで苛酷な実験をくり返した。ミシュランは、イメージや伝説だけでは、タイヤを語らない。コースから生れたハイ・スポーツTF11/TG22、スーパーレインPV11の熱・血をもつA48/M48の小さなエピソードだ。



前代未製の超ロープロファイル60を筆頭に、70/80、異次元のムーブメント。



ストリートとの最高のコンタクトを確保した。次代のスーパースポーツタイヤ。

日本ミシュランタイヤ株式会社
〒163 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル4階 TEL.03346-1059

スリックから生まれた 科学の「しわ」



ネバー・エンディング・ストーリー。



ひとつの道を走り続ける男たちがいる。わき目もふらず、真直に前を見つめ、時にはライバルの存在さえも忘れるほどつき進んでしまう彼ら。そんな彼らの中にひと
きわ輝き、ひとつの到達点を見出した22才のヒーローが生まれた。1987年全日本選手権ロードレース250ccチャンピオン、清水雅広。無口で、照れ屋の
少年だった彼がサーキットの中に、自らのエネルギーのすべてを燃やし続けた結果である。「自分で納得のいく仕事をしたい」。TAKAIの始まりも、
世界に名をはせた高井幾次郎のロマンと情熱だった。「一流の人間の感性や言葉は、一流の人間にしか理解されないも
のだ。」という普遍の真理をライティングウェアのジャンルで実行したのである。ひとつのものにこだわり続け、ひたむきな
生き方を選択してきた幾次郎のスピリットは、TAKAIの製品に生き続け、それを着るライダーたちによって受け継がれてゆく。
終わることのないドラマ、ひとりの男の限りないロマンと、頂点をめざすライダーたちの熱いスピリット。原点はサーキットに。

PRO SHOP
TAKAI

株式会社プロショップ東海
〒461-8585 名古屋市中区栄1-28
TEL:052-531-5351



あいあ〜るしい かっぱいの約束

ライダーがモーターサイクルにそそぐ愛情はととても大きい。私達はこの事を痛いほど知っています。そして、だからこそ本物を造り続けなければならないことも……。タイヤにかける情熱はだれにも負けません。こんな気持ちを感じ取っていただけなのでしょうか、マークを変えて気分を一新した私達 **IRC** は、前にも増して御好評をいただいております。でも、ここで少しだけお願いをさせていただきます。モーターサイクルにそそぐ愛情、そのほんの一部分をタイヤにも分けて欲しいのです。旅をする人、コーナーを駆け抜ける人、そして仕事で走る人。様々なライダーがいるように一人ずつにマッチしたタイヤが

あります。私達はそれぞれを用意しました。自分の走りマシンを考え、お近くのバイク・タイヤショップにオーダーしてください。そしてあなたが選び出した1セットのタイヤがすり減って役目を終えるまで、空気圧、トレッド面の状況などに細かく気を使って欲しいのです。手をかけてやればやるほど、愛情をそそげばそそぐほど快調になるあなたのマシンと同じように、タイヤも与えられた愛に答えるのです。ライダーの愛情とタイヤを知り抜いている私達、かっぱいお約束します。

私達と私達のタイヤはあなたの愛に答えます。



RS-310 SS-210 NS-10

「ザ・モトスポーツスピリット」あいあ〜るしいの新しいスローガンに最もふさわしいタイヤがRS-310、SS-210、NS-10の三兄弟。コーナーのRS-310、ツーリングのSS-210、そしてスピードのNS-10。素晴らしいポテンシャルを持つスーパースポーツドライオである。

The Motosport Spirit
IRC TIRE

アイ・アール・シー 井上ゴム工業株式会社
〒454 名古屋市中川区八家町3-28 TEL (052)361-8661(代)

私達と私達のタイヤに対する御意見をドシドシお寄せ下さい。私達はそれを大歓迎します。(1)現在お乗りになっているバイク(2)使用中のタイヤ(他メーカーでもけっこうです)③タイヤに対する御意見(住所)④電話番号(氏名)⑤年令(送職業をお書きになり、〒107東京都港区浜松6-5-36和風ビル 株式会社井上ゴム工業株式会社まで)

元気にとびだした 街の

7つの機能満載
100点ヘルメット
4機種同時発売

人気者



FM-1 ¥15,000

▶規格/JIS B種 ▶材質/FRP ▶カラー/白・黒・赤
▶サイズ/M・L・XL ▶機能/ベンチレーションシステム/シールドスライド式/ワンタッチホルダー ▶内装/フレンチメッシュ

PHOTO: FM-1



GM-1 ¥14,000

▶規格/JIS B種 ▶材質/FRP ▶カラー/白・黒・赤
▶サイズ/M・L・XL ▶機能/ベンチレーションシステム/シールドスライド式/フェイスガード/ワンタッチホルダー ▶内装/フレンチメッシュ



XV ¥12,000

▶規格/JIS B種 ▶材質/FRP ▶カラー/白・黒・赤
▶サイズ/M・L・XL ▶機能/ベンチレーションシステム/フェイスガード/ワンタッチホルダー ▶内装/フレンチメッシュ



FM-1 ¥15,000

▶規格/JIS B種 ▶材質/FRP ▶カラー/白・黒・赤
▶サイズ/M・L・XL ▶機能/ベンチレーションシステム/シールドスライド式/フェイスガード/ワンタッチホルダー ▶内装/フレンチメッシュ



UPPER-IN TAKE
ヘルメット内に取り入れ、快適なツーリングを実現します。
FM-1・GM-1・XV-VIIに装備



REAR-AIR OUTLET
ヘルメット内の熱気・湿気を効果的に排出。
FM-1・GM-1・XV-VIIに装備



FLASH SURFACE SHIELD
軽いタッチで3段階に調整可能。
FM-1・GM-1に装備



CHIN STRAP
両側面ストラップの脱着もワンタッチで操作で確実に締め外しができます。
FM-1・GM-1・XV-VIIに装備



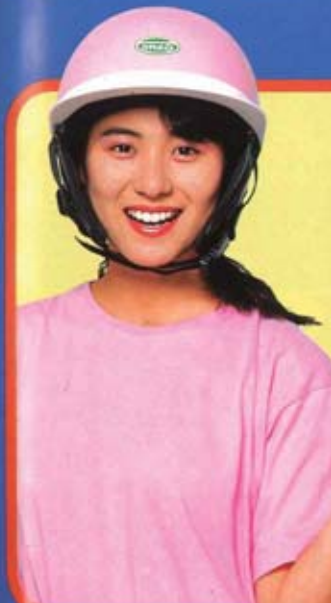
INSIDE
吸汗性にすぐれたフレンチメッシュを使用、ヘッド部分はフィット感を増すヘッドクッションも付いた。
FM-1・GM-1・XV-VIIに装備



INSIDE-HEAD
ヘッド部分には空気の流れとフィット感を増すヘッドクッションを立体的にも付いた。
FM-1・GM-1・XV-VIIに装備



FACE SHIELD
突然のアクシデントからフェイスを守ります。
XV-VIIに装備



**ファスナー付ヘルメット
K-80DX**
■S-SGA検査合格MFJ公認サイズ S-M-L
■ワンタッチホルダー ■ファスナー付 ■カラー7色
¥9,500

なんと!!
ヘルメットに
ファスナーがついた!!
耳たぶの部分
ファスナーで自由に
取りはずしOK!!
夏・涼しい!!
冬・暖かい!!
爽快ヘルメット!!



従来のK-80STDもよろしく



メット工業株式会社

本社工場 〒136 東京都江東区北砂6-12-14 ☎03(645)2549☎ FAX03(644)9695
千葉工場 〒289-27 千葉県海上郡網町 ☎0479(57)2565

MFJ オリジナル・グッズ完成！ 通信販売スタート！

MFJでは、会員サービスの一環として*MFJオリジナル・グッズ*を製作し、販売することになりました。サーキットやコース等でご活用いただけます。もちろん、タウンユースにもピッタリのオリジナル・グッズとなっております。この機会に、ぜひご利用ください。

通信販売です。MFJライセンスを所持している方は、全てのオリジナル・グッズが会員価格で購入できます。なお、以上のオリジナル・グッズ以外にも種類がありますので、順次本誌で紹介していきます。

購入方法

ご希望の商品名、サイズ、カラー、数量、そして会員No.、名前、住所、TELを紙に明記の上、現金書留か郵便振替(東京8-5946)で申し込んでください。

送料は、トータル5,000円以上お買上げの方は無料。それ以下は300円をプラスして申し込んでください。

申し込み先

〒103 東京都中央区東日本橋2-16-7 第2オカノビル7F ☎03-865-8441
日本モーターサイクル協会 MFJオリジナル・グッズ係



●Tシャツ

3タイプ・フリーサイズ
会員価格：¥2,000
一般小売価格：¥2,300



●トレーナー

カラー：イエロー、レッド、グリーン、スカイブルー、ネイビー
サイズ：S、M、L
会員価格：¥3,800
一般小売価格：¥4,500

●ポロシャツ

カラー：レッド、ブルー、ホワイト
サイズ：S、M、L
会員価格：¥2,600(半袖)、
¥3,400(長袖)
一般小売価格：¥3,000(半袖)、
¥4,000(長袖)



●ウェストバッグ

カラー：ブラック
特長：底のファスナーを開くと、より多くの小物が入ります
会員価格：¥2,300
一般小売価格：¥2,800



●スタッフザック

カラー：ブラック
特長：サイドに2本のヒモが付き背負うことができる多目的バック
会員価格：¥2,000
一般小売価格：¥2,500



●ステッカー

1セット(小2枚、中1枚)
会員価格：¥250
一般小売価格：¥300

●キーホルダー

会員価格：¥400
一般小売価格：¥500

1. MFJマーク
2. ロードレース
3. モトクロス
4. トライアル





グラブカバー コンパクトな耐寒ビニール製

指の運動性を重視した三指型グラブ。さらに立体裁断により、操作性抜群。
P83051 赤、P83052 青、P83053 黒 フリーサイズ 各¥1,900

ブーツカバー 雨の日のライディング、レース観戦に最適

-25℃に耐える耐寒ビニール製カバーで、油や汚れ、損傷からあなたのブーツをガード。チェンジペダル部には補強を施し、防水ファスナーの採用により泥や水気を完全にシャットアウト。
P85001 赤、P85002 青、P85003 黒 SIZE:S(22.0-23.5)、M(24.0-25.5)、L(26.0-27.0)
黒のみLLあり(27.5-28.0) 各¥2,800



バンクセンサー
#405-071 黒、白
2ヶセット ¥4,500
フェザントネーム入り

KISS RACING TEAM
をサポート!!
フルレーシング仕様については、
当社におまかせ下さい。

P82103 パール×ブルー
SIZE:男性M・L・LL
女性S・11・13
¥138,000
(パ
ッドP82109もあり)

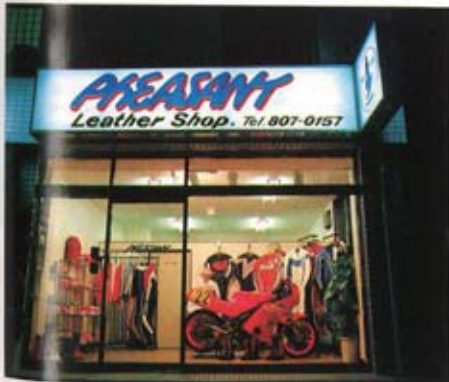
P82103 パール×レッド
SIZE:男性M・L・LL
女性S・11・13
¥138,000

P82102 パール×ブルー
SIZE:男性M・L・LL
女性S・11・13
¥138,000

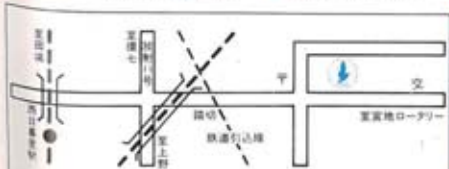
P82101 パール×ピンク
SIZE:男性M・L・LL
女性S・11・13
¥138,000



ツーリンググローブ(3シーズン)
P73004 黒、P73005 赤、P73006 青
SIZE:S・M・L 各¥6,800



株式会社 木鳥 フェザント事業部



フェザントレザーショップ 定休日 毎週水曜日 AM9:00~PM7:00
〒116 東京都荒川区西日暮里1-50-6 TEL 03(807)0157

**お年玉
プレゼント!!**
上記広告中のオーバーブ
ーツ、オーバーグローブ、バンクセ
ンサーを揃えて各10名様に
プレゼント致します。ご希望の
方は、ご希望の商品1点を選
んで住所・氏名・TEL・ご希望
商品名・サイズを宛紙の品番・
上、右記応募券を添えて申し
込み下さい。
(1月31日迄有効)

フルオーダー……あなただけのツナギをつくりませんか?
ショールームにご来店いただき、レザーシューズオーダー表にあな
たのツナギのイメージを描いていただければ、その場でお見積りいた
します。なお注文装備は、ご予算・ご希望にあわせてお選び下さい。
フルオーダーブーツもOKです。

リフォーム……ツナギ、ブーツ、ウェアが破損したら
ツナギの修理でお悩みの方、当社の経験豊かな職人がどのような相
談にも応じます。修理期間も自社工場ですので極めてスピーディー。

- 上記各製品は、全国の有名ショップにて好評発売中です。
- 掲載製品の価格、仕様等は、改良のため予告なく変更することがあります。
予めご了承ください。

全国通販 1.製品の在庫をTELで確認下さい。2.現金
書留にて、住所・氏名・TEL・品番・車名・年式
を記入の上、送料500円を添えて、お申し込み下さい。

プレゼント応募券
MFJライ

より快適な走り求めて—ディック

DIC

大日本インキ化学工業株式会社 ヘルメット部
本社：〒103 東京都中央区日本橋3-7-20 ☎(03)278-9806
大阪支店：〒541 大阪市東区北久太郎4-36 ☎(06)262-6161
名古屋支店：〒460 名古屋市中区錦3-1-15 ☎(052)951-9388



君が抜き去るもの。

レースとはリズムを作り、自分のイメージを
厳しくトレースする闘走本能のバトル。
ディックは'87シリーズ副クラスで健闘した
本間選手のシニアな走りは、
テクニクと、走りのヒラメキ、
そして幸運のヴィーナスの
たまものであることを知っている。
追いつき、追いつめ、一瞬を突いて前へ。
明日は今日よりきつと素晴らしい。
そんな'88シリーズを前に
ディックは君が今シーズン
抜き去つたすへてのものに乾杯したい。
明日のNo1が好きた。
コンペティティブ・ヘルメット。ディック。

G2
ON THE RACE



彼には未来がある。

挑戦者

20歳のチャンピオン

新世代。



藤原儀彦 Norihiko Fujiwara
MS提ヶ谷レーシング所属。
1966年10月8日生まれ。
16歳でレースデビュー。国際B級に昇格した
'85年の第2戦から、500にエントリー。
'86年、2年めでランキング6位獲得。
そして今シーズン、第11戦鈴鹿終了時点で
優勝回数3回、ランキングポイント150を獲得し、
史上初・20歳の全日本チャンプに輝く。
来シーズンのゼッケン①は、栄光の証しとともに
新たなチャレンジの初まりを意味する。



GRAND PRIX GENERATION'S HERO

栄光のグランプリに憧れて、世界を見つめながら走りはじめた新しい世代。グランプリ・ジェネレーション。カドヤは、そんな彼らに向けて「G2」というブランドを生み出しました。彼らと同じ熱い想いが込められたレーシングスーツ。それをまとい、全日本の500ccクラスに3年めの挑戦を試みた1人の青年は、わずか20歳という若さで頂点へ登りつめました。しかし、表彰台に立つ彼の眩しい汗も、輝きに満ちた瞳も、しなう筋肉も、すべては、未来に向けて。藤原儀彦。いつでも、挑戦者。彼には限りない明日が続いているから。

KADOYA

RACING SPIRIT AND CRAFTSMANSHIP
SINCE 1935

総店 〒111 東京都台東区西浅草3-29-21 TEL.03 (842) 7000
 東横店 〒110 東京都台東区下谷3-17-12 TEL.03 (871) 7700
 仙台店 〒980 宮城県仙台市北郷2-6-15 TEL.022 (233) 8000
 熊本店 〒326 熊本県宇都宮市大町町188-2 TEL.0284 (63) 0769
 宇都宮店 宇321 熊本県宇都宮市やなせ町2270 TEL.0286 (32) 9181

晴
し、
視
界
良
好。

曇りなし、クリアーなシールド。
クモリ、止まるたびに境界から景色が
消える。シールドを上げる。蒸気が解
を刺し、心まで聳く曇りもった。
冬場の難題。シールドのクモリ。この
解消に、新たに開発されたのがヒュー
テックの「トリプルベンチレーション
システム」。アッパーとチシの二つのベン
に加え、ほおの両サイドにダブルベン
を採用。チンベントからの空気をベンチ



トへ流し、シールドのクモリを防い
に、ノーズカバーを隅に固定させ、シ
ルトを吐息から守ります。また、アゴ下
からの風の舞い込みも、このカバーが
カット。シールド内に快適な空気の流
れを確保します。内部のムレはアッパ
ベントからリアベントへの通気や、吸汗
性、通気性に優れた内装布地とクッション材の採用でシャットアウト。クモリ、ムレとも画期的ベンチレーションシステムで一掃したVT913TR。視界良好、心は晴れ。



- スチール規格1985 ● JIS規格C種(MFJ公認)
- カラー ホワイト/ブルー、ブラック/レッド
- サイズ S、M、L、XL
- チンベント、リアベント、ノーズカバー付
- ¥32,000

**VT
913
TR**

Wind Performance

Hitech

Wind Performance
MDG

株式会社MDG
東京都葛飾区味本5-9-6 TEL.03(693)6795

第一歩へのパフォーマンス。 ヨシムラの250。

ニー・ゴー



GSX-R250スポーツキット

¥99

①キャブセッティングキット

広範囲にわたる高度なセッティングを可能にした。メインジェット・ジェットニードル・ニードルジェット・パイロットジェット。

●¥8,480(1セット)

②ファンネル、エア

特殊ゴム製で吸気率を徹底追求。低・中速から高速域までパワーバンドを強力にバックアップ。

●¥4,000(2セット)

③ボディアッシー、マフラー

エンジン性能を極限まで引き出す、チューブプレックスマフラー。高度なセッティングでヨシムラパワーが炸裂。

●¥80,000(1セット)

④チェーンアッシー、ドライブ

材質に特殊鋼を使用し、耐摩耗性を向上。メカロ材の低減を追求した剛性の高いレース専用PKチェーン。

●¥8,000(1セット)

⑤スプロケット、エンジン(12T)

強烈な駆動力を有効に伝達する減速比を実現。特殊鋼使用で信頼性もさらに向上。

●¥1,700(1セット)

⑥⑦スプロケット、リヤ(46T・48T)

総アルミ合金削り出して、超軽量を実現。46T・48Tによるコースにあった適切な減速比の選定が可能。

●各¥8,000(1セット)

GSX-R250 SPレースキット セット特別価格

●¥99,800



<オプションキット>

①ラジエーターSET、ウォーター性能の安定と持続を約束する、パーツセット。

●¥78,000(1セット)

②ラジエーターCOMP、ウォーター

ハイパワーの持続と耐久レースへの必需品。

●¥68,000(1セット)

③パネル、TEMPメーター

見易いポジションにメーター類が配置された超軽量パネル。まさにワークス仕様。

●¥4,000

④メーターSET、TEMP

視認性に優れた水温のチェックマン。

●¥10,000(1セット)

⑤ハーネスCOMP、ワイヤリング

必要部分が強化されたワイヤーリングハーネス。

●¥9,800(1セット)

⑥スパークプラグ

ダイナマイトパワー

●¥6,000(4)

⑦スイッチASSY、ストップ

レギュレーションに小型軽量のストップスイッチ。

●¥3,000

⑧タンクASSY、オイルブリーザー

ヨシムラ特製アルミタイプ

●¥9,000(1セット、アルミ製)

⑨キャブオイルキャッチ

●¥2,000(樹脂製)

⑩シートASSY

ベストライディングポジションとホールド性を追求した、エアロダイナミクスデザイン。

●¥48,000

⑪プレート、ゼッケン

●¥6,500

⑫フェンダー、リヤ

●¥17,000

発売：オート用品販売部 浜松市蓮原町21-339 しのはらプラザ

ヨシムラ YOSHIMURA

株ヨシムラ・JAPAN 神奈川県愛甲郡愛川町中野5748 〒243 03 22 0462(85)0321

よろしく1988

ありがとう田口。甘いマスクからの想像を絶する熱い走りは、見事'87チャンピオンを勝ち取った。

来年も新たな走りで主役を演じてくれるに違いない。

新たなシーンの幕あけ、大都是彼等の大きな飛躍と期待を確信し、
勝つためのノウハウと感動を胸に負けない商品作りを目指します。'88 Daitoにご期待下さい。



MOTOR
SPORTS
LEATHER **THE BIKE[®]**

SUPER RIDER

RACING QUEEN

Daito co., Ltd.

株式会社 大都

〒110 東京都台東区北上野2-11-1 ☎03(844)4823代

'88 Hi-land Raceway ROAD RACE SCHEDULE

	SP (公認)				N (公認)			J (公認)			
	125	F	250	400	125	250	F 3	125	250	F 3	
ハイランド選手権 4月16・17日 ①	● 10L	● 10L	● 10L	● 10L	○ 10L	○ 10L	○ 10L	/	/	● 12L	
ハイランド選手権 6月11・12日 ②	● 10L	● 10L	● 10L	● 10L	○ 10L	○ 10L	○ 10L	/	● 12L	/	
ハイランド選手権 7月23・24日 ③	● 10L	● 10L	● 10L	● 10L	○ 10L	○ 10L	○ 10L	● 12L	/	/	
ハイランド選手権 9月24・25日 ④	● 10L	● 10L	● 10L	● 10L	○ 10L	○ 10L	○ 10L	/	/	/	
ハイランド選手権 10月22・23日 ⑤	● 10L	● 10L	● 10L	● 10L	○ 10L	○ 10L	○ 10L	/	/	/	
Hi-land SP JAPAN Champion 決定戦 11月26・27日	● 15L	● 15L	● 15L	● 15L	/	/	/	/	/	/	
Hi-land 2H/4H 耐久Road Race大会 5月7・8日	◎ 2 H B&N	◎ 2 H N	◎ 4 H N&J	◎ 4 H N&J	/	/	◎ 4 H N&J	/	/	◎ 4 H N&J	
Hi-land 全日本 Road Race選手権 8月13・14日	ジュニア クラス				国際 A クラス						
	125		250		F-3		125		250		F-3
	○ 15L		○ 15L		○ 15L		○ 20L		○ 20L		○ 20L
レディース SPクラス											
Hi-land Spring Festival 5月3日	125	250F	250	400	S50	S80	Single	Twin	Side Car		
	●	●	●	●	●	●	●	●	特別Race		
	●	●	●	●	* Ladies クラスは参加台数により混走となることがあります。						
10月22・23日	●	●	●	●	* Single, Iwinについては別途クラス分けを行います。						
11月26・27日	●	●	●	●							

- * ○… MFJポイントが与えられるレース。
 ●… MFJポイントが与えられないレース。
 ◎… 2 H 2時間耐久レースSP125及びSP250Fの混走で行う。RiderはMFJノービスライセンス所持者で2名とする。但し、SE125クラスにおいては1名までMFJBライセンス所持者を登録することができる。
 ◎… 4 H 4時間耐久レース、SP250・SP400・F3の混走でおこなう。RiderはMFJノービスライセンス所持者で2名とするが、その内1名はMFJジュニアライセンス所持者を登録することができる。
 (2 H/4 H共にMFJポイントは与えられない)
 * SP125・SP250F・SP250・SP400・N125・N250・NF3の7クラスについては、ハイランド選手権シリーズのポイントが与えられ上位6位までの選手がシリーズ表彰される。
 * Hi-land SP JAPAN Champion 決定戦は、国内各サーキットのSPクラスのChampionを招待し、88年のSP日本一を決定するものです。又、このレースにはMFJの当該レース出場資格ライセンス所持者ならどなたでも挑戦出来ます。

◆お問い合わせ先: 〒989-34 宮城県仙台市新川字早坂山12
 西仙台ハイランドレースウェイ
 TEL (022)395-2120・2123

賞金総額 3,500万円

'88年 ショウエイ賞 募集要項

'88年

ショウエイ賞

チャンプとチャンスを手につかめ。

幾多のライダー達から信頼され、愛され続けてきたSHOEI。
 〈日本のモータースポーツ発展のために少しでもお役に立ちたい〉と設けた「ショウエイ賞」も今年で9年目。モータースポーツの成長とともにますます充実してきました。
 国際A級ライダーならどなたでも参加できます。
 A級ライダーの頂点に立つのは誰か。実カプラス チャンスで、チャンプになれる。



昭栄化工株式会社
 〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル ☎03(502)0301
 大阪支店 ☎06(45)16060 九州営業所 ☎092(41)17048
 仙台営業所 ☎022(246)0155 名古屋営業所 ☎052(703)3171
 〇東京工場 No.364106 〇茨城工場 No.371101

ショウエイカホンダオリジナルヘルメット(ショウエイ製)を着用し、MFJ公認全日本選手権シリーズの下記イベントに出走し、入賞されたライダーに規定の賞金を贈り、その栄誉をたたえます。

○対象レース区分(全日本選手権シリーズ)

ロードレース	500cc/250cc/125cc/F-I/F-III	国際A級決勝
モトクロス	250cc/125cc	
トライアル	オープン	

○適用期日

- '88年度ロードレース全日本第一戦より最終戦まで。およびWGP日本大会、T.B.C.杯ビッグロードレース、鈴鹿8時間耐久レース、T.T.F-1世界選手権SUGO大会。
- '88年度モトクロス全日本第一戦より最終戦まで。
- '88年度トライアル全日本第一戦より最終戦まで。

○参加資格および条件

ショウエイ賞の趣旨に賛同し、賞金制度の適用を望まれる国際A級ライダーの方。ショウエイステッカーおよびフッペン等を、ヘルメット・マシン・レーシングスーツに貼付けることが条件となります。特典として、ショウエイヘルメットを提供します。

○賞金額(単位:万円)

ロードレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
500ccクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	20	10	8	6	4	2
	WGP日本大会	20	10	8	6	4	2
	TBC杯ビッグロードレース	20	10	8	6	4	2
250ccクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
	WGP日本大会	12	6	4	3	2	1
125ccクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
世界耐久 鈴鹿8時間レース		20(40)	10(20)	8(16)	6(12)	4(8)	2(4)
T.T.F-1クラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
	世界選手権SUGO大会	12	6	4	3	2	1
F-IIIクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
モトクロスレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
250ccクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
125ccクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
トライアルレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
オープンクラス決勝レース	全日本第一戦-全日本最終戦	6	5	4	3	2	1

○グランドチャンピオン賞

ショウエイ賞申し込み者で、賞金対象レース部門の全日本MFJランキングチャンピオンを獲得された方に対し、別項の通り賞金を贈呈します。

グランドチャンピオン賞対象		MFJ全日本ランキングチャンピオン獲得者
ロードレース	500ccクラス	100万円
	250ccクラス	100万円
	125ccクラス	50万円
	F-1クラス	50万円
	F-3クラス	50万円
モトクロス	250ccクラス	100万円
	125ccクラス	100万円
トライアル	オープンクラス	100万円

○ショウエイ賞に参加ご希望の方は

- ①氏名②住所(〒番号)③年齢④電話番号⑤所属クラブ⑥MFJ会員番号⑦参加クラス⑧ゼッケンナンバー⑨希望ヘルメットのサイズ⑩賞金振込先(銀行・支店・口座番号)を明記の上、下記まで、ハガキでお申し込みください。

参加申し込み期間:昭和63年1月1日より63年3月末日まで。

申し込み先: 〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル
昭栄化工株式会社
 モータースポーツ・ショウエイ賞係



The Oil Specialist 無数のレースを勝ち抜いてきたカストロールが、その豊富な経験に基づき、最新技術を結集、新ラインアップを組みました。

2輪車用オイル ラインアップ

新登場

2サイクル・スーパー・パフォーマンス
■New Formula TTS
 ●100%化学合成油●SAE30●分離・混合両用●ベルギー製●サーキットまで対応。エキスパートの極限の走りに対応する、分離・混合両用2サイクルオイルの最高級品。

標準小売価格 ¥1,500/0.5Q



スーパー・レスポンス

新登場

●100%化学合成油●SAE30●分離・混合両用●ベルギー製●好評の2Tをグレードアップ。鋭いスロットル・レスポンスと吹け上がりを実現した、上級者用オイル。

標準小売価格 ¥1,300/0.5Q



新登場

サーキットの匂いだ。
■SUPER SPORTS (スーパー・スポーツ)
 ●部分合成油●SAE20●分離・混合両用●エキゾーストから漂うカストロールの匂いサーキットの栄光の匂いが楽しめる、スポーティオイル。

標準小売価格 ¥1,300/1Q



軽快でクリーンな

■ミニ・バイク

●部分合成油●SAE20●分離・混合両用
 ●マフラー汚れ、白煙や排ガスの嫌な臭いを退散。エンジン始動を容易にし、50ccバイクを快調に走らせます。

標準小売価格 ¥980/1Q

レギュラー

2 New Formula TTS
 2T5
 SUPER SPORTS
 ミニ・バイク
 Stroke

Castrolを選ぶ。 カストロールの中から選ぶ。

4 Neues Formular RS
 GPS
 GP
 GTX7 2輪車用
 Stroke



耐久性と経済性を両立。

■GPS

●部分合成油●API SF●SAE 20W-50●ベルギー製●例えば、炎天下、長距離連続高速走行に絶対の真価を発揮。サーキットレベルの騎使にも応える高級オイル。

標準小売価格 ¥1,980/1Q

プレミアム



新デザイン

最強のエンジンたちへ。
■Neues Formular RS
 ●100%化学合成油●API SF/CC●SAE 15W-50●西ドイツ製●苛酷な条件下で闘う、数多くのレースを勝ち抜いてきた4サイクル用最高級オイル。(4輪エンジンにも最適)

標準小売価格 ¥2,800/1Q、¥6,500/4Q



正統派の鉱物系オイル。

■GP

●鉱物油●API SF●SAE 10W-40●イギリス製●もっともご愛用いただいている、鉱物油。バランスに優れた街乗りの、ツーリングの心強いパートナーです。

標準小売価格 ¥1,500/1Q

レギュラー

おなじみの汎用GTX7を、2輪車用に改良。

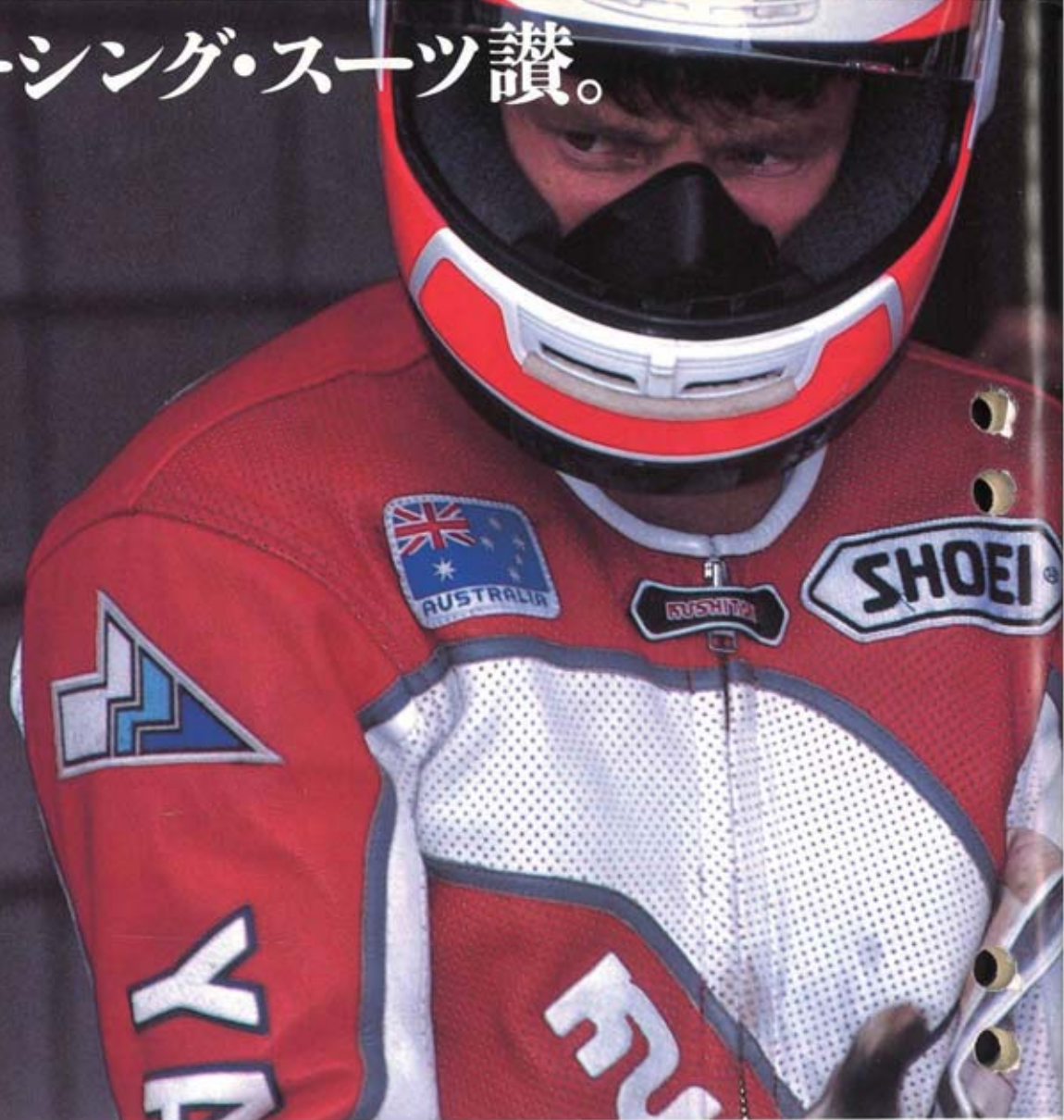
■GTX7 2輪車用

●鉱物油●API SF●SAE 15W-40●湿式クラッチへの適性、摩擦防止性能を強化。コストパフォーマンス抜群の4サイクル2輪車用オイル。

標準小売価格 ¥1,050/1Q

★この他に、2サイクル・レーシング専用オイルとして、世界の一流ライダーから高い評価を得ているA747、R30、40があります。

レーシング・スーツ讚。



ロード・レースとは時間との戦いでもある。まさに、100分の1秒、あるいは1000分の1秒といったシビアなラップタイムの積算が、最終的な勝敗を決めてしまうからだ。速く走るために考えぬかれたあらゆる手段の中で、たとえばマシンはライダーにとって、その意識や感性をより以上に増巾させ、望む限り、理想のパフォーマンスを発揮しなければならない。そして、クシタニのパート=レーシング・スーツも、ある意味でマシンに通じるところ、あるいはそれ以上の機能を究極の目的としている。それは、具体的には、ライダーの身体を守り、速く走るために必要なライディングフォームへの限りない可能性をも実現させる役割を果たしている。ライダーとマシンをつなぐインターフェイス——クシタニのレーシング・スーツ。

KUSHITANI

ライダーとバイクをつなぐインターフェイス





日本特殊陶業

1本のプラグが、レースを決めてしまう瞬間ともある。

手のひらに収まってしまふ
この小さなメカニズムが、
灼けつくような戦いのすべてを
決めてしまうこともある。
一回のミスファイヤーも許されない
プロログの一瞬のために、
鋭くみがきぬかれたテクノロジー。
ライダー達が、真っ白に広がる
レーシング・コースに瞳を凝らすその瞬間に、
1本のプラグに集約される
メカニクスの戦いが、
深く、静かに展開されてゆく……

栄光への一瞬。着火性とレスポンスの良さで
選ばれたNGKスパークプラグ



頂点へ...



「信頼のパートナーと共に、お互いを高め合いながらベストをつくる。そこに、はじめて進歩が生まれる」キング・ケニーの持論である。常に頂点を見すえた、その強靱なスピリットは、'87 GPシーンに鮮烈なインパクトを与え続けた。チーム・リーダーとして、チームのエネルギーをひとつの方向に結集させながら、すべてのリザルトに自らの持論の正しさを証明してみせたのである。ケニー・ウィズ・ダンロップ。次なるターゲットへ向けて闘いはすでに始まっている。

プロダクションレースで堂々のデビュー・ウイン!

TT500GP 新登場

DUNLOP
MOTORSPORT
SPIRIT

FRONT		REAR		FRONT		REAR	
		100/90-16 54H	100/80-17 52H	110/80-17 57H	130/70-17 62H	120/80-17 61H	140/80-17 65H
		130/70-18 63H		80/90-12 2PR	80/100-16 45P	2.75-10 4PR*	2.75-10 4PR*
				100/90-16 54H	3.50-10 4PR*	3.50-10 4PR*	3.50-10 4PR*
				100/80-17 52H	4.00-12 2PR	2.75-18 4PR	120/80-16 60H
						80/90-18 51P	110/90-17 60H
						110/90-18 61H	110/80-17 57H
						110/90-18 61H	120/80-17 61H
						120/80-18 62H	120/80-18 62H
						130/70-18 63H	130/70-18 63H

TT500GP

TT300GP

* = フロント・リア兼用